目標（素案）

柱書	心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力について、運動や健康に関する課題の発見・解決に向けた学習過程を通して、発達の段階に応じて次のとおり育成することを目指す。

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
小学校	• 運動の特性等に応じた運動の行い方や運動との関わり方及び身近な生活における健康・安全について理解するとともに、それらに関する基本的な動きや技能を身に付けるようにする。	• 運動や健康についての課題を見付け、運動に豊かに取り組んだり、課題を解決したりするために必要なことについて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	• 運動との多様な楽しみ方や心身の健康に関心を持ち、目的に応じた運動や健康についての課題解決に向けて、他者と協力したり自ら試行錯誤したりする態度を養う。 • 自己にとっての運動や健康の価値を見出しつつ、体力の向上や健康の保持増進を目指し、明るく楽しい生活を営む態度を養う。
中学校	• 運動の特性等に応じた運動に関する技能や運動との豊かな関わり方及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、それらに関する基本的な技能を身に付けるようにする。	• 運動や健康についての課題を発見し、運動に豊かに取り組んだり、課題を解決したりするために必要なことについて、合理的に思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	• 生涯にわたる運動との多様な楽しみ方や心身の健康に関心を持ち、目的に応じた運動や健康についての課題解決に向けて、他者と協力したり自ら試行錯誤したりする態度を養う。 • 自己にとっての運動や健康の価値を見出しつつ、体力の向上や健康の保持増進を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。
高等学校	• 運動の特性等に応じた運動に関する技能や生涯にわたる運動との豊かな関わり方及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、それらに関する技能を身に付けるようにする。	• 運動や健康についての課題を発見し、運動に豊かに取り組んだり、課題を解決したりするために必要なことについて、合理的、計画的に思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	• 生涯にわたる運動との継続的で多様な楽しみ方や心身の健康やそれを支える社会づくりに関心を持ち、目的に応じた運動や健康についての課題解決に向けて、他者と協力したり自ら試行錯誤したりする態度を養う。 • 自己にとっての運動や健康の価値を見出しつつ、体力の向上や健康の回復・保持増進を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

見方・考え方（素案）

【体育】 • 運動やスポーツを、心身の充実に果たす役割や多様な楽しみ方の視点から捉え、自他の豊かな生活及び活力あふれる社会づくりにつなげること。

【保健】 • 保健に関する課題や情報を、健康や安全に関する概念やそれに関わる原則に着目して捉え、リスクの軽減や生活の質の向上、及び健康・安全を支える環境づくりにつなげること。

目標等に用いる表現の整理について

運動やスポーツの「楽しみ方」「関わり方」について

【体育「見方・考え方」（暫定版）】



運動やスポーツを、心身の充実に果たす役割や多様な楽しみ方の視点から捉え、
自他の豊かな生活及び活力あふれる社会づくりにつなげること。

【体育「目標」（知識及び技能）（暫定版））】 ※例として小学校を引用

運動の特性に応じた運動の行い方や自他の運動との関わり方及び身近な生活における健康・安全について理解するとともに、それらに関する基本的な動きや技能を身に付けるようにする。

○ 現行の学習指導要領においては、体育理論に係る解説において以下のように示されている。

“運動やスポーツには、する、みる、支える及び知るなどの多様な関わり方があること、体を動かす楽しさ、運動やスポーツの特性や魅力に応じた楽しさ、人々と協働する楽しさなどを味わう多様な楽しみ方がある”
“運動やスポーツは、（略）競技に応じた力を試したり、記録等を達成したり、自然と親しんだり、仲間と交流したり、感情を表現したりするなどの多様な楽しさから生みだされてきた”
“生涯にわたって運動を楽しむためには、自己に適した運動やスポーツの多様な楽しみ方を見付けたり、工夫したりすることが大切であることを理解できるようにする”

○ 現行の指導要領において、「楽しみ方」は、主に運動やスポーツを「する」ことによって得られる楽しさを表していることに加え、「する」過程や、それ以外にも様々な方法を組み合わせることによって、より豊かに運動やスポーツに親しむことができることも表現されていると考えられる。

○ 従前より、運動やスポーツについては、「する」以外にも、「みる」「支える」「知る」などの要素があることが指摘されており、また、昨年の改正スポーツ基本法においては、「集う」「つながる」といった要素も示されているところ。

○ こうした「する」「みる」等の各要素は、その行動（する等）と結果（楽しさの享受）は直接的に関係することや、各自が様々な要素から運動やスポーツの楽しさを含む価値や意義を見いだしていくことが豊かなスポーツライフの実現において重要と考えられることから、次期学習指導要領においては「（多様な）楽しみ方」として一体的に整理する。

○ また、現行において「する」「みる」等の要素の文脈で用いられることがある「関わり方」については、今般の改訂において資質・能力における再整理を行う方向である「公正」「協力」「責任」等の態度に関する要素を「（運動との）関わり方」として再整理し、態度に関する要素の「具体的な知識」や「汎用的な知識」といった面に着目して子供たちの本質的な理解を促し、「自分はどう関わるのか」という意思決定につながる深い学びを実現しようとする改善の趣旨と親和的に整理する。

【整理イメージ】

（多様な）楽しみ方	運動やスポーツを「する」「みる」「支える」「知る」ことや、運動やスポーツを媒介として「集う」「つながる」等により、その楽しさや喜びを享受することまでを含みこむ表現
（運動との）関わり方	今般の資質・能力の再整理において、運動を行う際の態度に関する要素（「公正」「協力」「責任」「参画」「共生」「健康・安全」等の要素）を示し表現

目標等に用いる表現の整理について

保健に関する「概念」と「原則」について

【保健「見方・考え方」（暫定版）】

保健に関する課題や情報を、健康や安全に関する概念やそれに関わる原則に着目して捉え、リスクの軽減や生活の質の向上、及び健康・安全を支える環境づくりにつなげること。

○ 現行の学習指導要領においては、見方・考え方に係る解説（高等学校）において以下のように示されている。

“保健に関わる原則や概念を根拠としたり活用したりして、疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上、さらには健康を支える環境づくりを目指して、情報選択や課題解決に主体的に取り組むことができるようにすることが必要である“

○ 従前より、保健に関する学習においては、社会の変化に伴う多様化・複雑化する現代的な課題等の出現や、情報社会の進展等の環境の変化が激しい中で、子供たちが生涯にわたって正しい情報や行動を選択したり、課題を解決するために適切に意思決定する力を育むことを大切にしてきており、そうしたプロセスにおいて、保健に関する「概念」や「それに関わる原則」はそのカギともいえる要素。

○ 具体的には、例えば「疾病の予防」（中学校）に関して、「概念」として「感染症は、病原体が環境を通じて主体へ感染することで起こる疾病であること」を理解するとともに、「それに関わる原則」として、「感染症を予防するには、発生源をなくすこと、感染経路を遮断すること、身体の抵抗力を高めることが有効であること」を理解することが、感染症を予防するために考えたり行動につなげたりする学びの深まりや、汎用的な資質・能力の育成につながると考えられる。

○ 一方で、こうした「概念」や「原則」は内容のまとまりによってその性質が異なることもあり、現行の学習指導要領においては、「見方・考え方」で言及があるものの、具体的な対応関係は必ずしも明確となっていないこともあり、経験の浅い教師等にとっては指導の際に意識しづらかったりし、例えば、具体的な生活行動と結び付けた学びの深まりに関わる指導については課題が見られていた。

○ こうした状況を踏まえ、今般の改訂においては、引き続き「見方・考え方」で「概念」や「それに関わる原則」が学習のカギとなることを表現したうえで、解説において例えばどのようなものを指すのかを示すとともに、「概念」や「それに関わる原則」を「統合的な理解・総合的な発揮の」の「統合的な理解」で分かりやすく示すとともに、どのように実生活における課題等への対処につなげていくのか等を「総合的な発揮」で端的に示す。

【整理イメージ】

概念	ある事柄について、どのような要素が関連して当該事象が発生等しているのかを表す （疾病の予防に関する例：感染症は、病原体が環境を通じて主体へ感染することで起こる疾病であること）
（それに関わる）原則	ある事柄について、どのような働きかけ等を行うことで望ましい結果を導くことができるのかを表す （疾病の予防に関する例：感染症を予防するには、発生源をなくすこと、感染経路を遮断すること、身体の抵抗力を高めることが有効であること）

「統合的な理解」で示す

「見方・考え方」について

「見方・考え方」の改善の方向性

見方・考え方（各教科等を学ぶ本質的な意義の中核）

各教科等の資質・能力が身に付く中で、様々な世の中を見る視点や考え方が豊かになり、よりよい社会や幸福な人生に繋げていけることを見方・考え方によって示す

主体的・対話的で深い学び ▷ 資質・能力が身に付く ▷ 幸福な人生 よりよい社会

＜書きぶりイメージ＞
（教科で扱う事象や対象）を
（教科固有の物事を捉える視点）の視点から捉え（に着目して捉え）
（教科固有の考え方や判断の仕方）すること

＜留意点＞
◎現行より短く端的に（各教科の深まりの鍵は「統合的な理解・総合的な発揮」を通じて）
◎経験の浅い教師が読んでも端的に理解可能な記述に

方向性

- 体育科・保健体育科を学ぶ意義について、児童生徒が学校で学んだ後に、自らの人生や社会との関わりの中で見出していく部分も含めて端的に表現する。
- 学校卒業後の人生や社会との関わりも見据えて示すものであることを踏まえ、学校種ごとで書き分けることはせず全学校種で統一する。
- 経験の浅い教師や体育科・保健体育科を専門としない教師にとっても理解しやすいものとするため、できるだけ直接的に理解しやすい表現とする。
- 端的な表現とすることによって細部を表現しきれない可能性がある部分については、表形式によって構造化して示す内容のまとまりごとの「統合的な理解・総合的な発揮」を参照することで、教師の理解を補完できるようにする。

改善案

体育



運動やスポーツを、心身の充実に果たす役割や多様な楽しみ方の視点から捉え、自他の豊かな生活及び活力あふれる社会づくりにつなげること。

現行

運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方と関連付けること。 92字

保健



保健に関する課題や情報を、健康や安全に関する概念やそれに関わる原則に着目して捉え、リスクの軽減や生活の質の向上、及び健康・安全を支える環境づくりにつなげること。

現行

個人及び社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え、疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上、健康を支える環境づくりと関連付けること。 80字

体育の「表形式による構造化」「統合的な理解・総合的な発揮」イメージ

① 体育の学習は、特定の種目等に係る力（競技力等）を育てることを目的としているのではなく、身体活動に取り組む中で、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフの実現につながる資質・能力を育むことを目指していることを、内容のまとまりごとになるべく具体的かつ平易に表現。

② 「攻防を展開」する中で学びが深まっていく様相が分かりやすいことで、まずはやわらかいボールを用いて誰もが安心して攻防に取り組むことができるようにするなど、授業における環境づくりの工夫にもつながることを期待。

③ 運動領域ごとの特性から、具体的にどのような課題解決等によって学びの深まりが想定されるのかをシンプルに表現。単に特定の技能に長けていくような授業ではなく、各運動領域ならではの課題解決に取り組む中で学びが深まっていくことを踏まえた授業デザインに寄与することを期待。

	ボール運動系、球技	
	知識及び技能	**思考力、判断力、表現力等**
小学校	統合的な理解	総合的な発揮
	ゲームの特性等に応じて、ボールに関する操作及び仲間と連携した動きでゲームを展開することにより、仲間とともに一層楽しさや喜びを味わうことができることを理解する	ゲームの特性等に応じて、誰もがゲームの楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、ルールや作戦、運動の取り組み方等を選ぶ
	内容項目例	
	• ボールゲーム、鬼遊び • ゴール型（ゲーム）、ネット型（ゲーム）、ベースボール型（ゲーム）	ゲーム等を行うにあたっての自己の課題を見付け、その課題の解決の仕方を考えたり、課題に応じた練習の場や段階を選んだりすること
中学校	統合的な理解	総合的な発揮
	ゲームの特性等に応じて、ボール等に関する操作及び仲間と連携した動きで攻防を展開し、勝敗を競うことにより、仲間とともに一層楽しさや喜びを味わうことができることを理解する	ゲームの特性等に応じて、誰もが攻防の楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、仲間と協働しながら練習方法や作戦、攻防の展開を工夫する
	内容項目例	
	• ゴール型、ネット型、ベースボール型	• ボール操作やボールを持たないときの動きなどの課題を発見し、合理的に解決できるよう工夫すること
高等学校	統合的な理解	総合的な発揮
	ゲームの特性等に応じて、作戦や状況に応じたボール等に関する操作及び仲間と連携した動きで攻防を展開し、勝敗を競うことにより、仲間とともに一層楽しさや喜びを味わうことができることを理解する	ゲームの特性等から、誰もが攻防の楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、仲間と協働しながら練習方法や作戦、攻防の展開を合理的、計画的な解決に向けて工夫する
	内容項目例	
	• ゴール型、ネット型、ベースボール型	攻防やボール操作、ボールを持たないときの動きなどの課題を発見し、合理的、計画的に解決したり新たな課題を発見したりできるよう工夫すること

	【全ての領域共通】運動との関わり方	
	知識及び技能	**思考力、判断力、表現力等**
中学校	統合的な理解	総合的な発揮
	運動等の特性等応じて、公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全といった概念を踏まえて必要な行動をとることで、自他が自らの人生において運動に豊かに親しむことができることを理解する	運動等の特性等から、誰もが運動の楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、自らの運動や仲間との関わり方や安全の確保の仕方などを工夫し、生活に適用する

※全ての運動領域における学習活動と関わりがあり、また、その学習を支え豊かにする性格を有するものであることを踏まえ、各領域の特性を踏まえ適切に取り扱うことを前提として共通的に示す。
※便宜的に中学校段階を記載。小・高段階でも同様に整理

保健の「表形式による構造化」「統合的な理解・総合的な発揮」イメージ

① 保健の学習の中核をなす保健に関する「概念」や「それに関わる原則」を「統合的な理解」において分かりやすく示すことで、未知の課題にもしなやかに対応できるようなメタな資質・能力が育まれた状態は具体的にどのような理解に至った状態なのかを教師が的確にイメージすることに寄与。その上で授業をデザインすることで、単に知識等を教え込むような授業ではなく、日常生活に生きる深い学びを実現する授業につながることを期待。

② 保健に関する「概念」や「それに関わる原則」を、学校内の学びにとどめるのではなく、どのように実生活における課題等への対処につなげていくのか、学習活動を設計する上で教師が意識しやすいよう、なるべく端的に表現。

③ 保健の学習の系統性として、小学校では「身近な生活」、中学校では「個人生活」、高等学校では「個人及び社会生活」を中心としてスパイラルに学びが深まっていく様相を「統合的な理解・総合的な発揮」においても表現。

心の健康、心の健康と対策		
	知識及び技能	**思考力、判断力、表現力等**
小	統合的な理解	総合的な発揮
	心の発達、心と体との密接な関係、不安や悩みへの対処は心の健康に関連があり、身近な健康を保つことに関わることを理解する	心をよりよく発達させたり、不安や悩みに対処する方法を考え、身近な生活に適用する
	内容項目例	
	• 心の発達 • 心と体との密接な関係 • 不安や悩みへの対処	• 心の健康に関わる課題の発見 • よりよい心の発達や心と体の関わりについて考えること • 不安や悩みへの対処方法を考えること
中	統合的な理解	総合的な発揮
	精神機能の発達やストレス等への対処は、心の健康と関連があり、個人の健康を保つことに関わることを理解する	精神機能を発達させたり、欲求やストレスへの適切な対処法を考え、自他の生活に適用する
	内容項目例	
	• 精神機能の発達と自己形成 • 欲求やストレスへの心身への影響 • ストレスへの対処	• 自他の心の健康に関わる課題の発見 • 心の健康を保持増進する方法を見いだすこと • ストレスへの適切な対処の方法を考えること
高	統合的な理解	総合的な発揮
	精神疾患を含む心の不調やそれを取り巻く社会環境は心の健康に関連しており、個人及び社会における健康の保持増進や回復に関わることを理解する	心の健康を維持・回復するために必要な個人の取組や社会的な対策について考え、社会生活に適用する
	内容項目例	
	• 精神疾患の特徴 • 精神疾患への対処 • 心の健康を維持・回復するための方法や対策	• 自他や社会の心の健康に関わる課題の発見 • 心の健康に関する課題を解決する方法を考えること

体育

小学校・中学校・高等学校

統合的な理解・総合的な発揮

	体つくり運動系、体つくり運動		器械運動系、器械運動		陸上運動系、陸上競技		水泳運動系、水泳	
	知識及び技能	**思考力、判断力、表現力等**	**知識及び技能**	**思考力、判断力、表現力等**	**知識及び技能**	**思考力、判断力、表現力等**	**知識及び技能**	**思考力、判断力、表現力等**
小学校	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	体ほぐしの運動や体の動きを高める運動は、心と体をほぐし、体を動かす楽しさや心地よさを味わったり体の動きを高めたりすることを理解する	心身の状態等に応じて、運動の行い方を工夫するとともに、誰もが楽しく安心して運動に取り組むことができるような行い方を選ぶ	器械・器具の特性に応じた非日常的な動き（回転、支持、逆さの姿勢等）を身に付ける中で、様々な運動に通じる運動感覚を養うことができることを理解する	器械・器具の特性等に応じて、自己の課題の解決の仕方を工夫するとともに、誰もが楽しく安心して運動に取り組むことができるような行い方を選ぶ	走る、跳ぶなどの運動に取り組む中で、動きを組み合わせることにより合理的に体を動かすことができることを理解する	走・跳等の特性に応じて、自己の課題の解決の仕方や競争・記録への挑戦の仕方を工夫するとともに、誰もが楽しく安心して運動に取り組むことができるような行い方を選ぶ	水中における特性を生かした動き（浮く、呼吸する、進む）に取り組む中で、環境の特性を生かした動きを組み合わせることで合理的な運動ができることを理解する	水の中での活動の特性に応じて、自己の課題の解決の仕方や記録への挑戦の仕方を工夫するとともに、誰もが楽しく安心して運動に取り組むことができるような行い方を選ぶ
中学校	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	体ほぐしの運動や体の動きを高める運動は、心と体をほぐし、体を動かす楽しさや心地よさを味わったり体の動きを高めるとともに、計画的に実生活に取り入れることで、健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図ることにつながることを理解する	心身の状況等に応じて、誰もが体を動かす楽しさや心地よさを味わったり運動を計画するために必要なことを考え、運動を通して仲間と関わる方法や運動の組合せを工夫する	器械・器具の特性に応じた非日常的な動き（回転、支持、逆さの姿勢等）が滑らかにできるようになる中で、様々な運動に通じる運動感覚を養うことができることを理解する	器械・器具の特性等に応じて、誰もが器械運動の楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、仲間と協働しながら技を習得する練習方法や演技構成を工夫する	走る、跳ぶなどの運動に取り組む中で、動きを組み合わせることにより合理的で心地よく運動ができることを理解する	走・跳の特性等に応じて、誰もが陸上運動の楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、仲間と協働しながら効率的な動きや効率的な動きを習得する練習方法や競争の仕方を工夫する	水中における特性を生かした泳ぎに取り組む中で、環境の特性を生かした動きを組み合わせることで合理的で心地よく運動ができることを理解する	泳法の特性等に応じて、誰もが水泳運動の楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、仲間と協働しながら効率的な泳ぎなどの習得方法を工夫する
高等学校	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	体つくり運動は、心と体をほぐし、体を動かす楽しさや心地よさを味わうことができるとともに、計画的に実生活に取り入れることで、生涯にわたる健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図ることにつながることを理解する	心身の状況等に応じて、誰もが体を動かす楽しさや心地よさを味わったり運動を計画するために必要なことを考え、運動を通して仲間と関わる方法や運動の組合せを合理的、計画的に工夫する	器械・器具の特性に応じた非日常的な動き（回転、支持、逆さの姿勢等）が滑らかに安定してできるようになる中で、様々な運動に通じる運動感覚を養うことができることを理解する	器械・器具の特性等に応じて、誰もが器械運動の楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、仲間と協働しながら技を習得する練習方法や演技構成を合理的、計画的な解決に向けて工夫する	走る、跳ぶ、投げるなどの運動に取り組む中で、動きを組み合わせることにより効率的で心地よく運動ができることを理解する	走・跳・投の特性等に応じて、誰もが陸上競技の楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、仲間と協働しながら効率的な動きを習得する練習方法や競争の仕方を合理的、計画的な解決に向けて工夫する	水中における特性を生かした泳ぎに取り組む中で、環境の特性を生かした動きを組み合わせることで効率的で心地よく運動ができることを理解する	泳法の特性等に応じて、誰もが水泳の楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、仲間と協働しながら効率的な泳ぎなどの習得方法を合理的、計画的な解決に向けて工夫する

体育

小学校・中学校・高等学校

統合的な理解・総合的な発揮

	ボール運動系、球技		武道		表現運動系、ダンス		体育理論	
	知識及び技能	**思考力、判断力、表現力等**	**知識及び技能**	**思考力、判断力、表現力等**	**知識及び技能**	**思考力、判断力、表現力等**	**知識及び技能**	**思考力、判断力、表現力等**
小学校	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	ゲームの特性等に応じて、ボールに関する操作及び仲間と連携した動きでゲームを展開することにより、仲間とともに一層楽しさや喜びを味わうことができることを理解する	ゲームの特性等に応じて、誰もがゲームの楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、ルールや作戦、運動の取り組み方等を選ぶ	―	―	即興的な動きやリズムに乗った動きができるようになる中で、自己の身体を通じて、心身を解き放した表現ができることを理解する	表現やダンスの特性等に応じて、自己の課題の解決の仕方を工夫するとともに、誰もが楽しく安心して表現に取り組むことができるような発表・交流の仕方を工夫する	―	―
中学校	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	ゲームの特性等に応じて、ボール等に関する操作及び仲間と連携した動きで攻防を展開し、勝敗を競うことにより、仲間とともに一層楽しさや喜びを味わうことができることを理解する	ゲームの特性等に応じて、誰もが攻防の楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、仲間と協働しながら練習方法や作戦、攻防の展開を工夫する	武道の特性等に応じて、自分や相手の力を効率的に使って基本的な攻防を展開する中で、相手を尊重して攻防に取り組むことを重視すること等の武道の伝統的な考え方を理解する	武道の特性等に応じて、誰もが攻防の楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、仲間と協働しながら技の習得方法や簡易な攻防の展開を工夫する	イメージを捉えた即興的な動きやリズムに乗った動きができるようになる中で、仲間とともに身体を通じて、心身を解き放した表現ができることを理解する	表現やダンスの特性等に応じて、誰もが踊ったり表現したりする楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、仲間と協働しながら発表・交流の方法や構成を工夫する	スポーツの文化としての側面や合理的な運動実践に必要なこと等、豊かなスポーツライフの実現に関する科学的知識を身に付けることで、自己の状況等に応じた運動やスポーツとの多様な楽しみ方について考えを深めることができることを理解する	豊かなスポーツライフの実現のために必要なことを考え、自己の状況等に応じたスポーツの多様な楽しみ方を工夫する
高等学校	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	ゲームの特性等に応じて、作戦や状況に応じたボール等に関する操作及び仲間と連携した動きで攻防を展開し、勝敗を競うことにより、仲間とともに一層楽しさや喜びを味わうことができることを理解する	ゲームの特性等から、誰もが攻防の楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、仲間と協働しながら練習方法や作戦、攻防の展開を合理的、計画的な解決に向けて工夫する	武道の特性等に応じて、自分や相手の力を効率的に使って攻防を展開する中で、相手を尊重して攻防に取り組むことを重視すること等の武道の伝統的な考え方を理解する	武道の特性等に応じて、誰もが攻防の楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、仲間と協働しながら技の習得方法や攻防の展開を合理的、計画的な解決に向けて工夫する	様々なダンスの特性等に応じてイメージを捉えた即興的な動きやリズムに乗った動きができるようになる中で、仲間とともに身体を通じて、心身を解き放したりイメージを深めたりして表現ができることを理解する	ダンスの特性等に応じて、誰もが踊ったり表現したりする楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、仲間と協働しながら発表・交流の方法や構成を合理的、計画的な解決に向けて工夫する	スポーツ文化の創造や合理的な運動実践に必要なこと等、豊かなスポーツライフの継続に関する科学的知識を多角的に身に付けることで、自己の状況等に応じた運動やスポーツとの多様な楽しみ方について考えを深めることができることを理解する	スポーツ文化の創造や豊かなスポーツライフの継続のために必要なことを考え、自己の状況等に応じたスポーツの多様な楽しみ方を工夫する

統合的な理解・総合的な発揮

	健康な生活、健康な生活と現代社会		心の健康、心の健康と対策		けが・傷害の防止、安全な社会生活		病気・疾病の予防、疾病の予防と対策	
	知識及び技能	**思考力、判断力、表現力等**	**知識及び技能**	**思考力、判断力、表現力等**	**知識及び技能**	**思考力、判断力、表現力等**	**知識及び技能**	**思考力、判断力、表現力等**
小学校	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	生活の仕方や身の回りの環境は健康の状態に関連があり、毎日を健康に過ごすためには、身近な生活の仕方や生活環境を整えることが必要であることを理解する	健康な生活の仕方を考え、身近な生活に適用する	心の発達、心と体との密接な関係、不安や悩みへの対処は心の健康に関連があり、身近な健康を保つことに関わることを理解する	心をよりよく発達させたり、不安や悩みに対処する方法を考え、身近な生活に適用する	人の行動や生活環境は、けがの発生に関連があり、身近な生活におけるけがの防止につながることを理解する	危険の予測や回避の方法を考え、身近な生活に適用する	病原体や生活行動等は、病気が起こることに関連があり、その要因を踏まえた予防方法をとることは、身近な生活における病気の予防につながることを理解する	病気の概念や予防の原則から、病気の予防方法を考え、身近な生活に適用する
中学校	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	個人の生活行動や社会環境は人の健康に関連があり、人が健康に過ごすためには、生活行動を整えたり、より良い社会環境を目指すことが必要であることを理解する	健康を保持増進する方法を見いだし、自他の生活に適用する	精神機能の発達やストレス等への対処は、心の健康と関連があり、個人の健康を保つことに関わることを理解する	精神機能を発達させたり、欲求やストレスへの適切な対処法を考え、自他の生活に適用する	人の行動や生活環境は、傷害の発生に関連があり、個人生活における傷害の防止につながることを理解する	危険の予測や回避の方法を多面的に考え、自他の生活に適用する	主体や環境は、疾病の発生に関連があり、その要因を踏まえた予防方法をとることは、個人生活における疾病の予防につながることを理解する	疾病概念や予防の原則を拡張し、疾病の予防方法を考え、自他の生活に適用する
高等学校	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	国民の健康課題や健康の考え方は、個人及び社会における健康に関連があり、現代社会における健康課題に対応するためには、こうした相互作用を踏まえた行動選択が必要であることを理解する	健康を保持増進するための個人や社会の取組の意義を見いだし、社会生活に適用する	精神疾患を含む心の不調やそれを取り巻く社会環境は心の健康に関連しており、個人及び社会における健康の保持増進や回復に関わることを理解する	心の健康を維持・回復するために必要な個人の取組や社会的な対策について考え、社会生活に適用する	法的な整備などの環境整備や、それに応じた個人の取組は、事故の現状や発生に関連があり、安全な個人及び社会生活につながることを理解する	自他や社会の危険の予測を基に、危険を回避する方法を考え、社会生活に適用する	主体や環境は、疾病の発生に関連があり、個人の行動選択や社会的な対策によって、個人及び社会生活における疾病の予防と回復につながることを理解する	疾病の概念や予防の原則を拡張し、疾病の特徴や生涯の各段階に応じた予防や回復の方法、社会的な対策を選択し、社会生活に適用する

保健

小学校・中学校・高等学校

統合的な理解・総合的な発揮

	体の発育・発達、身体機能の発達、生涯を通じる健康		健康と環境、健康を支える環境づくり	
	知識及び技能	**思考力、判断力、表現力等**	**知識及び技能**	**思考力、判断力、表現力等**
小学校	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	体の発育・発達は、年齢や生活の仕方が関連しており、自身の状況等に応じて身近な生活の中で適切に対応することが、よりよい発育・発達につながることを理解する	体をよりよく発育・発達させる方法について考え、身近な生活に適用する		
中学校	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	身体の発育・発達は、年齢に伴う機能の成熟や個人の行動等が関連しており、自身の状況等に応じて個人の生活を中心として適切に対応することが、よりよい発育・発達につながることを理解する	身体機能の発達や適切な生活行動について考え、自他の生活に適用する	衛生等の環境が、人の健康の保持増進に関連があることを理解する	健康と環境に関わる概念を生活環境から社会が関わる環境まで拡張し、健康を保持増進する方法を考え、自他の生活に適用する
高等学校	統合的な理解	総合的な発揮	統合的な理解	総合的な発揮
	生涯の各段階の健康課題に応じた個人及び社会における健康管理や環境づくりを行うことが、生涯を通じた健康の保持増進や回復につながることを理解する	生涯を通じる健康について考え、社会生活に適用する	健康を支える環境づくりが、自他の健康の保持増進に関連があることを理解する	健康と環境に関わる概念を健康を支える環境づくりまで拡張し、全ての人が健康に生きていくための環境について考え、社会生活に適用する

単元構想に向けた「統合的な理解」「総合的な発揮」の活用イメージ（案）　（体育）

【中２・ボール運動（ネット型）】



中学校第２学年の「バレーボール」で深い学びを実現するにはどのように単元を構成すればよいだろうか。



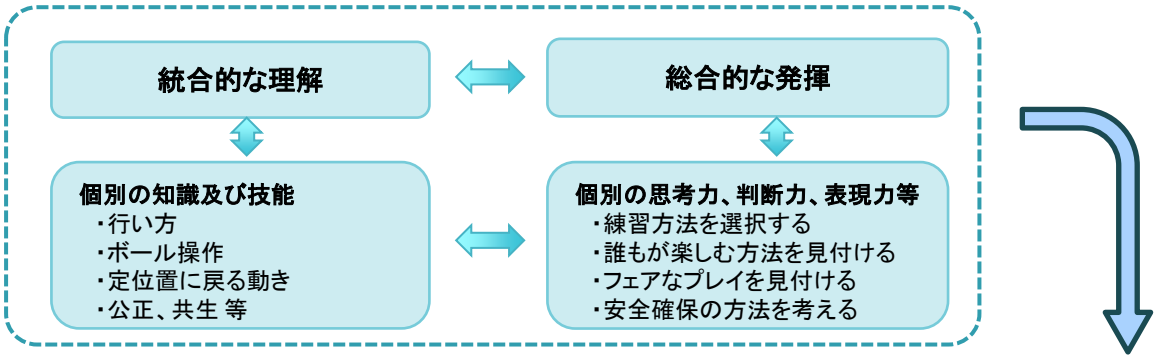
「ボール運動」の「統合的な理解」と「総合的な発揮」を確認してみよう。総合的な発揮にある「誰もが攻防の楽しさや喜びを味わうために必要なことを考える」ことが大事なんだな。
攻防の楽しさを味わうためには、基本的なボール操作やボールを持たない動きなどの技能を習得する必要がある。
みんなが楽しむことができるようにするためには、フェアなプレイなどの公正や違いを認めるなどの共生の知識や技能を身に付けることも必要だ。
公正や共生の知・技を身に付けるには、思・判・表と関連付けながら学びを深めることが効果的かもしれない。



各時間の学習が、どのように「統合的な理解」「総合的な発揮」や単元目標につながっているんだろう。



右のような単元構想図を見て、「統合的な理解」や「総合的な発揮」、単元目標と各時間の学習活動を見比べると、育成する資質・能力や学習活動の相互の関連がわかりやすいな。



第２学年　単元名：ボール運動（ネット型）　バレーボール

（統合的な理解）
・ゲームの特性等に応じて、ボール等に関する操作及び仲間と連携した動きで攻防を展開し、勝敗を競うことにより、仲間とともに一層楽しさや喜びを味わうことができることを理解する。

・運動等の特性等応じて、公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全といった概念を踏まえて必要な行動をとることで、自他が自らの人生において運動に豊かに親しむことができることを理解する

（単元の目標）知識及び技能
・バレーボールの特性等を理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができるようにする。
・フェアなプレイを守ること、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めること、健康・安全に気を配ることを理解するとともに、できるようにする。

（総合的な発揮）
・ゲームの特性等に応じて、誰もが攻防の楽しさや喜びを味わうために必要なことを考え、仲間と協働しながら練習方法や作戦、攻防の展開を工夫する。

・運動等の特性等応じて、公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全といった概念を踏まえて必要な行動をとることで、自他が自らの人生において運動に豊かに親しむことができることを理解する

（単元の目標）思考力、判断力、表現力等
・攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方や運動との関わり方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。

時	学習内容	単元の目標に到達するまでの学習のつながり
10 9	●リーグ戦 ●単元のまとめ	ラリーを継続し、空いた場所をめぐる攻防によるゲームを展開する ⇔ 誰もが攻防の楽しさや喜びを味わうために必要なことを考える
8 7	●チームの課題に応じた練習	ルールやマナーを守ったり相手の健闘を認めたりすること（フェアなプレイ）ができる 一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを認めることができる 定位置に戻る動きを理解し、身に付ける 自己やチームの課題に応じた練習方法を選ぶ 練習やゲームの場面で、最善を尽くす様子やフェアなプレイなどのよい取組を見付ける。また、なぜ良い取組であると考えたか、理由を添えて他者に伝える。
6	●フェアなプレイについて ●チームの課題に応じた練習	フェアなプレイを認めることで、互いを尊重する気持ちが強くなることを理解する
5	●定位置に戻る動き ●簡易ゲーム	違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習やゲームを行う方法（ルールの工夫など）を見付け、仲間に伝える
4	●誰もが楽しめるためには ●個人の課題に応じた練習	誰もが楽しんだり達成感を味わったりすることのできる工夫や調整が必要であることを理解する
3 2 1	●基本的なボール操作 ●簡易ゲーム ●安全確保の方法	ラリーの継続に必要なボール操作の行い方を理解し、身に付ける 教師から提示された動きのポイントやつまづきの事例を参考に、仲間やチームの課題を発見したり出来映えを伝えたりする

誰もがラリーによる攻防の楽しさや喜びを味わえる工夫

単元構想に向けた「統合的な理解」「総合的な発揮」の活用イメージ（案）　（保健）

【小５・心の健康】



小学５年生の「心の健康」の単元で「深い学び」を実現するには、どのような単元構成にすればいいかな。



まず、「心の健康」の「統合的な理解」と「総合的な発揮」を確認してみよう。
学習する内容項目や、それに関連する資質・能力、そして学習後の生活にどのように生かしていくことを目指しているのかも分かるよ。



具体的に単元計画を立てる際、各時間で育成する資質・能力や学習活動が、「統合的な理解」や「総合的な発揮」にどのようにつながっているか確認したいな。



右のような単元構想イメージをもつと、各時間の学習がどのようにつながり、何を目指しているのかが明確になるし、それに合わせた評価機会も設定できそうだよ。
保健に関する領域では、「総合的な発揮」に関する課題を解決していく過程で、「統合的な理解」の内容（健康に関する概念やそれに関わる原則）に着目していく学習過程を意識できれば、各時間の内容が関連付き、深い学びが実現しやすくなりそうだ。

常に「統合的な理解」「総合的な発揮」や単元目標を確認しながら、各時間の学習内容の関連を意識

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
統合的な理解	総合的な発揮
心の発達、心と体との密接な関係、不安や悩みへの対処は心の健康に関連があり、身近な健康を保つことに関わることを理解する	心をよりよく発達させたり、不安や悩みに対処する方法を考え、身近な生活に適用する
内容項目例	
• 心の発達 • 心と体との密接な関係 • 不安や悩みへの対処	• 心の健康に関わる課題の発見 • よりよい心の発達や心と体の関わりについて考えること • 不安や悩みへの対処方法を考えること

「高次の資質・能力」等を活かして単元を構想するプロセスの一例（イメージ）【小５・心の健康】

第５学年　単元名：心の健康（保健領域）

（統合的な理解）
・心の発達、心と体との密接な関係、不安や悩みへの対処は心の健康に関連があり、身近な健康を保つことに関わることを理解する。

（総合的な発揮）
・心をよりよく発達させたり不安や悩みに対処したりする方法を考え、身近な生活に適用する。
※高次の資質・能力は直接の評価対象ではないことに留意

（単元目標・評価規準）知識及び技能
心の発達、心と体との密接な関係、不安や悩みへの対処について、理解するとともに、不安や悩みへの簡単な対処ができる。

（単元目標・評価規準）思考力、判断力、表現力等
心の健康について、課題を見付け、よりよい解決に向けて考える活動を通して、それらを表現できる。

時	学習内容	単元目標・評価規準に到達するまでの学習のつながり
4	●不安や悩みへの対処としての、体ほぐしの運動や呼吸法の実習 ●学習の振り返り	不安や悩みの対処として，体ほぐしの運動や深呼吸を取り入れた呼吸法などがあることについて理解し、それらの対処ができる。
3	●不安や悩みへの対処	不安や悩みへの対処には気持ちを楽にしたり，気分を変えたりするなど様々な方法があり，自分に合った適切な方法で対処できることを理解する。
2	●心と体の密接な関係	心と体は深く影響し合っていることについて理解する。
1	●心の発達	心は，様々な生活経験や学習を通して，年齢に伴って発達することを理解する。

心をよりよく発達させたり、不安や悩みへ対処する方法を明らかにしたりして、身近な生活に生かしたい！

不安や悩みへの対処の仕方について，自分の経験と学習したことを関連付けて考える。
不安や悩みがある時の対処の仕方について課題を見付ける。
心と体がつながっていることの具体例などについて考える。
心をよりよく発達させる方法を考えたり選んだりする。

本単元の学習に関連が強い既習内容	（中学校第１学年）心の健康 （高等学校入学年次or次の年次）心の健康と社会環境
	（学びに向かう力・人間性等の「見取る姿」）【検討中参考イメージ】 **・心の発達や、心とからの密接な関係、不安や悩みへの対処の仕方に着目して、心の健康に関する課題を解決しようとしている。** **・心の健康に関して、学んだことを身近な生活に生かそうとしている。**

体育・保健を学ぶ意義・価値について（各委員からの発表内容を基に作成）

幸福な人生
よりよい社会

学ぶ過程の中で
見方・考え方
が徐々に資質・能力の育成を導くようになるとともに、よりよい社会や幸福な人生に繋げていける

資質・能力
が身に付く

【知識及び技能に関する統合的な理解】【思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮】

主体的・対話的で深い学び

学校における学び

幸福な人生

- 生涯を通じた持続的な身体的・精神的・社会的に良い状態（ウェルビーイングな状態）の実現
- 運動やスポーツとの「する、みる、支える、集まる、つながる」等の関わりを通じた、生涯にわたる楽しさや喜びの享受と自身の可能性を最大化する豊かなスポーツライフの実現
- 自他が安全で安心し、健康を保持増進する人生

より良い社会

- 活力あふれる健康長寿社会・共生社会を実現し社会全体が持続的にウェルビーイングである状態
- 運動やスポーツを通じた地域・経済の活性化、人々の豊かなつながり、新たな価値創造の実現
- 人々が健康・安全で、未知の課題にも柔軟かつ持続的に対応できる能力を備え、豊かな人生を送ることのできる社会を含む環境づくりに、様々な担い手が主体的・協働的に参画する社会

学校で体育・保健を学ぶ「本質的意義」

体育

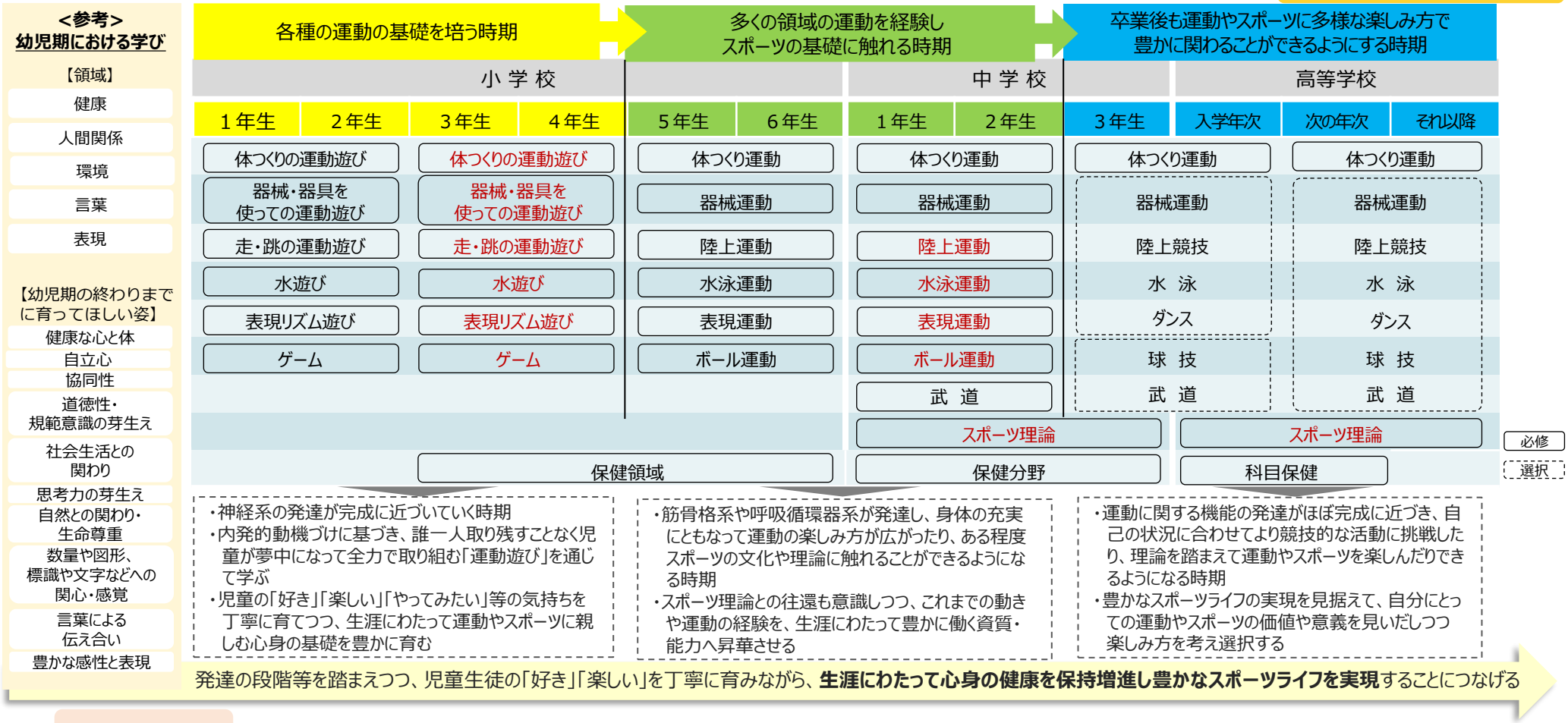
- 全ての児童生徒に運動やスポーツの多様な楽しみ方味わう機会を保障するとともに、人と関わりながら自分らしく健康で生き生きとした人生を送る基盤づくりに貢献する、知・徳・体のバランスを支える不可欠な学び。
- 身体を媒介に協働的に学ぶという独特の学習方法を有し、運動やスポーツの価値を体感できるとともに、認知的能力のみならず、身体面や社会面、情意面に関わる資質・能力の育成にも力を発揮する強みがある。
- 社会の様々な場面でAIの活用が進むなど、人間の活動に変容がある昨今、自身の身体を通して学ぶことは、自己理解の深化につながることに加え、身体を使いこなして能動的に人生を舵取りしながら生き抜く、人間ならではの力を育む上でも大きな意味を持つ。
- 授業における多様性の包摂に関する活動を通じて、自らの豊かなスポーツライフを舵取りする力と、誰も取り残さない共生社会の創り手の育成の両方を目指すことができる。

保健

- 学齢期の健康や安全に関する課題の克服、リスクの軽減に資するとともに、生涯を通じて、身体的・精神的・社会的に良い状態で豊かな生活を送る上での基礎を培う役割がある。なお、学校は、発達段階を踏まえつつ、保健について計画的かつ系統的に学ぶことのできる最適な場所と考えられる。
- 児童生徒の発達の段階等を踏まえつつ、知識の集積に止まらない健康等に関する原則・概念を習得することにより、健康・安全等に関する課題について適切に意思決定や行動選択する力を育み、未知の健康課題にも対応できる柔軟で持続的な資質・能力を身に付けることができる。
- 学習内容を主体的に受け止め日常生活で行動化する実践力を身に付けることで、現代的課題を含めた様々な課題に対応することができるようになるとともに、健康・安全に関するより良い社会を含む環境の創造に主体的・協働的に参画できる力を育てることにつながる。

未来社会を生き抜く「人間力」の育成に直結

運動領域等の学習の系統性の改善イメージ



改善の方向性

※ 具体的な指導内容は更に検討

○ 発達の段階を踏まえ、引き続き大きく４年ごとのまとまりで捉える（同時に、子供の発達はなめらかで連続的であることにも留意）

○ 体育科・保健体育科は体力の向上を直接の目的とするものではないことを踏まえ、発育発達の特徴を捉えつつ、バランスの良い資質・能力の育成を図ることに十分留意が必要

【各段階における趣旨（イメージ）】

小１～４：「運動遊び」を通して全ての児童の「好き」「楽しい」「やってみたい」等の気持ちを丁寧に育て、運動やスポーツに親しむ心身の基礎を豊かに育む

小５～中２：運動技能も含めた子供たちの状況等が一層多様化し、いわゆる「運動嫌い」という認識が発生しやすい段階ということを踏まえ、ルール等を簡易なものとした「運動」を通した学びを基本として整理し、全ての児童生徒が安心して楽しく運動に取り組むことができる機会を一層保障する

中３～高３：「運動やスポーツを主体的に選択すること（自己選択）」「生涯スポーツの多様な楽しみ方に触れること（社会との接続）」「豊かな生涯の実現に向けた自分にとっての運動やスポーツの楽しみ方を考えること（豊かなスポーツライフの設計・実現との関わり）」を基本的な考え方として、卒業後も運動やスポーツを多様に楽しむ資質・能力を育成

保健の学習の系統性の改善イメージ

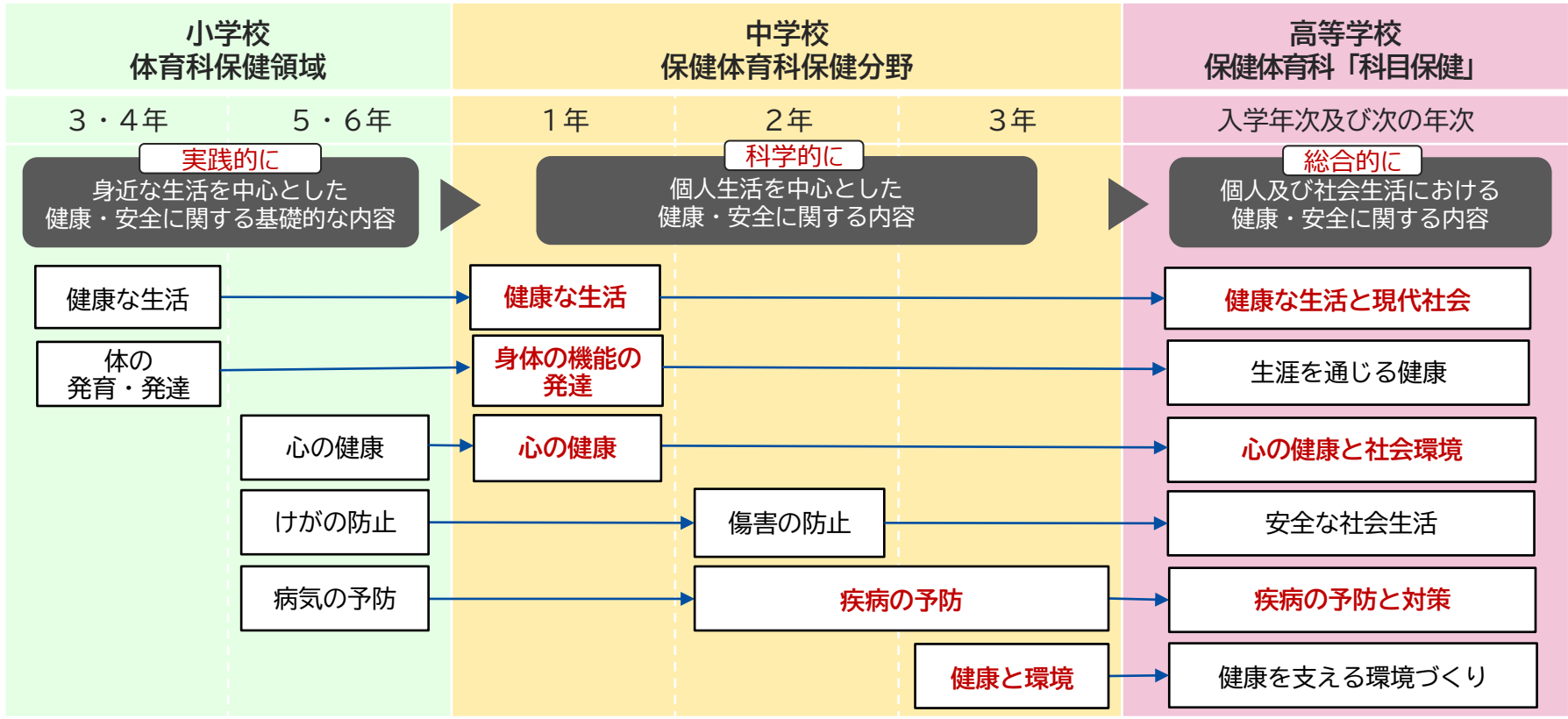
<参考>
幼児期における学び

【領域】

- 健康
- 人間関係
- 環境
- 言葉
- 表現

【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

- 健康な心と体
- 自立心
- 協同性
- 道徳性・規範意識の芽生え
- 社会生活との関わり
- 思考力の芽生え
- 自然との関わり・生命尊重
- 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
- 言葉による伝え合い
- 豊かな感性と表現



※ 図中の矢印は、系統性の主なつながりを表している。なお、具体的な指導内容は更に検討する。

幼児教育段階を含む小学校低学年までの様々な活動を通して培われる健康な生活に関する基礎的な資質・能力を踏まえつつ、児童生徒が学習内容を自身の生活経験等と往還させつつ学べるようにすることに留意

改善の方向性

○ 内容のまとまり相互の関係性の複雑さを解消

これまで、内容のまとまり相互の関係性が複雑になっていたり取り扱う内容が広範になり過ぎていたものを必要に応じて細分化する等し、各段階を見通した系統的な指導がしやすい整理に見直す。

○ 各段階における学びの順序性を整理

各段階において、健康の大切さ等に係る基礎的な資質・能力を身に付けながら、その基礎を元に少しずつ学習の範囲や深さを充実していくことができるよう、まず「健康な生活」について学び、続いて「身体や心」について理解を深めていくような系統性に見直す。

現行

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
○ 運動やスポーツの実践や健康や体力の保持増進・豊かなスポーツライフに関する知識及び技能	○ 運動やスポーツ及び健康に関する思考力、判断力、表現力等（運動実践につながる態度に関する思考力、判断力、表現力等を含む） ※中高	○ 運動やスポーツに関する愛好的な態度、態度に関する各内容（公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全） ○ 主体的に学習に取り組む態度 ○ 感性、思いやり等



- 態度に関する要素（公正、協力、責任等）は、体育科・保健体育科において育むべき資質・能力として重要な内容。
- 一方で、その「指導」と「評価」は、体育科・保健体育科独自の内容（公正、協力、責任等の要素）と全教科共通の面（「粘り強さ」と「自己調整」）があるなど様々な要素が混在し、教師の適切な理解に基づく「指導」と「評価」を難しくしているといった課題があった。特に、体育を専門としない小学校等の教師にとっては一層理解が難しい面があった。
- また、例えば「公正に取り組もうとしている」等の意思的な部分に関する「指導」と「評価」については、態度を「指導」するという意識が、公正、協力などの意義について児童生徒の十分な理解を伴わない形式的な「指導」を生んでしまうのではないかといった懸念や、態度に関する内容の本質を踏まえた子供たちの意思の表出を適切に「評価」することの難しさがあった。



- 態度に関する要素について、「なぜそうするのか」に関わる概念的な知識や「何であるか」に関わる事実・内容に関する「知識」の面、さらに実際の行い方に関わる「技能」の面に着目し、「知・技」を中心に再整理することで、児童生徒の本質的な理解につながる着実な「指導」につなげるとともに、指導事項に係る「評価」の改善を図る。
- 本改善は、対応する「知・技」の記載がなく、「指導」と「評価」の難しさが指摘されていた、中高における「運動実践につながる態度に関する思考力、判断力、表現力等」の改善にも寄与することが期待される。
- 「愛好的な態度」は、「する」「みる」「支える」といった運動やスポーツの「多様な楽しみ方」を目指す姿を一層積極的に価値づけることにつなげる観点から、「運動やスポーツの多様な楽しみ方を目指す態度（仮称）」と示し、「学びに向かう力、人間性等」に引き続き位置付ける。

改善イメージ

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
○ 運動やスポーツの実践や心身の健康の保持増進・豊かなスポーツライフ等に関する知識及び技能（公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全といった運動やスポーツとの関わり方に係る知識及び技能を含む）	○ 運動やスポーツ及び健康に関する思考力、判断力、表現力等（運動実践につながる態度に関する思考力、判断力、表現力等を含む） ※中高	○運動やスポーツの多様な楽しみ方を目指す態度 ○健康・安全について考え、学んだことを日々の生活行動と関連付けて実践しようとする態度 ○ 感性、思いやり等

「運動との関わり方」と表現

全ての教師に分かりやすい形とし、「指導」と「評価」の具体化を図り、本質的な資質・能力の育成につなげる

運動やスポーツの多様な楽しみ方を目指す姿等を一層積極的に価値づけ

※資質・能力内の各要素は便宜的に示しているものであり、必ずしも網羅的に示しているものではない

新たな「学びに向かう力、人間性等」の要素イメージ

学びに向かう力、人間性等

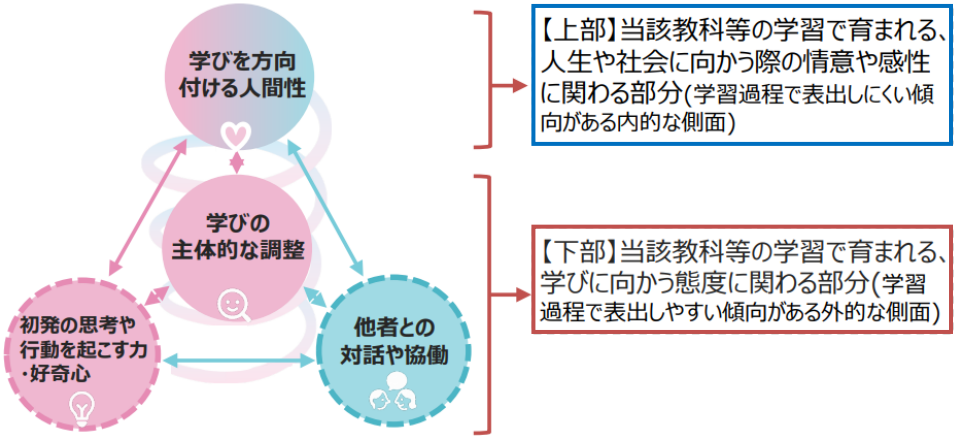
変化の激しい不確実な社会の中で、学びを通じて自分の人生を舵取りし、社会の中で多様な他者とともに生きる力を育むことを目指し、以下のとおり主要な要素等を整理。

①当該教科等の学習で育みたい学びや生活に向かう態度

学びにおいて、好奇心を持って初発の思考や行動を起こし、他者との対話や協働を経ながら、学びを主体的に調整し、次の思考や行動に繋げていく態度
（学習過程で表出しやすい傾向がある外的な側面）

②当該教科等の学習で育みたい情意・感性

人生や社会との関わりにおいて育みたい情意や感性
（学習過程で表出しにくい傾向がある内的な側面）



改善の方向性

- 「意欲」や「主体性」に関する要素をより分かりやすく示す。
- 体育と保健の関連を踏まえた視点を大切にする。
- 「（運動やスポーツに関する）愛好的な態度」として示してきた要素は、将来にわたって豊かなスポーツライフを目指す観点から、児童生徒の多様な姿をこれまで以上に積極的に価値づけることが期待される。
- 健康や安全に関しては、学んだことを行動につなげるといった視点も重要。

「学びに向かう力、人間性等」の要素イメージ

① 当該教科等の学習で育みたい学びや生活に向かう態度【要素】

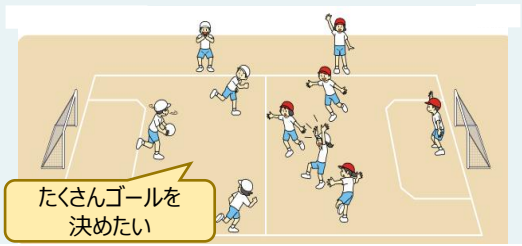
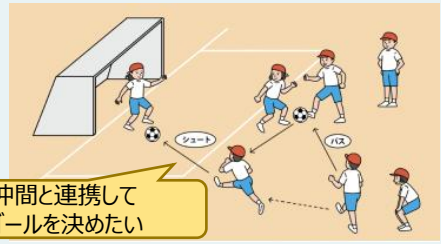
- 既有の知識や経験等を土台として、初発的な思考や行動を起こす態度
- 教師や指導者を含む他者と対話・協働したり、関係する情報を書籍等から得ながら課題に取り組もうとする態度
- 自身の思考や行動等を客観的に把握し、自己調整に努め、意欲的・主体的に課題等に取り組もうとする態度
- 運動やスポーツとの多様な関わりや、それらを通じた人との関わり等に親しみ、その良さや価値を味わおうとする態度
- 健康・安全について考え、学んだことを日々の生活行動と関連付けて実践しようとする態度

② 当該教科等の学習で育みたい情意・感性【要素】

- 運動やスポーツを、多様な楽しみ方を前提として生活の中に取り入れ、自身の状況等に応じた心身の充実に努めながら、明るく豊かな生活を営もうとする態度
- 生涯を通じて心身の健康の保持増進及び回復を目指そうとする態度
- 活力あふれる健康長寿社会・共生社会や安全で安心な社会を実現し、社会全体が持続的にウェルビーイングである状態となることに向けて、その環境づくりに主体的・協働的に参画しようとする態度

※今後更に「見取る姿」の検討につなげることを想定

小学校「運動遊び（低・中学年）」から「運動（高学年）」への発達の段階を踏まえた授業イメージ

共通	運動の楽しさや喜びを味わい、動きの習得を軸とした体育学習		
学年	低学年	中学年	高学年
領域	ボールを使っての運動遊び（仮）  	ボール運動遊び（仮）  	ボール運動 
趣旨	ねらいとする動きを「遊び」の要素を取り入れて行う		ある程度の運動やスポーツの魅力に触れながら行う
内発的動機	たくさん投げたい、的に当てたい	たくさんゴールを決めて得点を競い合ってみたい	仲間と連携してゴールを決めたらとても気持ちいい
授業づくりの工夫（例）	児童が思わず投げたくなる場や用具の工夫	誰もが得点を競い合う楽しさに触れられるようなやり方等の工夫	誰もがある程度の運動やスポーツの魅力に触れられるようなやり方等の工夫
評価	【知・技】 ・技能については、ねらいとする動き等の習得状況を見取る。 ・知識については、ねらいとする動きの行い方が理解できているか及び運動との関わり方（態度に関する要素の理解）について見取る。 【思・判・表】 ・遊び方を選んだり、ルール等を工夫したりしているとともに、考えたことを仲間に伝えていることを見取る。 【学びに向かう力、人間性等】 ・評価の具体については、今後更に検討。		

留意が必要と考えられること

- ✓ 体育における運動遊びは、休み時間における自由な遊びとは異なり、資質・能力（いわゆる体育の学力とも言われるもの）の育成を目指して行う学習活動である。
- ✓ 動きの習得が軸ではあるが、動きの習得のみが体育の学習の目的ではない。動きの習得の過程で、「知・技」や「思・判・表」を往還させたり、年間を通して「学びに向かう力、人間性等」を育むことが大切である。
- ✓ また、動きの習得を軸としつつも運動の楽しさや喜びを児童が豊かに味わえるようにすることが大切。例えばボール運動系においては、運動の楽しさや喜びはゲームに詰まっている。ゲームを行うことを中心に授業づくりを行うことを基本とすることが重要である。
- ✓ 一方、運動やスポーツを肯定的に捉える児童生徒や体力の二極化が指摘されている現状を踏まえると、誰もが安心してゲームに参加することができるよう、場やルール等の工夫以外にも、例えば「主運動につながる運動」を意図的、計画的に実施すること等も考えられる（２人組でパス、ドリブルリレー等）。

体育理論について

現行 「体育理論」内容構成（概要）

中学校	○ 運動やスポーツの多様性 ○ 運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方 ○ 文化としてのスポーツの意義	運動の実践や保健分野との関連を図りつつ、豊かなスポーツライフの実現につながる資質・能力を育成するため、主に中学校期における運動やスポーツの合理的な実践や、生涯にわたる豊かなスポーツライフを送る上で必要となる運動やスポーツに関する科学的知識等で構成。
高等学校	○ スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展 ○ 運動やスポーツの効果的な学習の仕方 ○ 運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方	中学校における学習を踏まえつつ、生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現に向けた主体的な実践を行うことができる資質・能力を一層育成するため、主に現代におけるスポーツの意義や価値、科学的・効果的なスポーツの実践や、豊かなスポーツライフの設計等に関わる内容で構成。 特に高等学校では、スポーツから得られる恩恵とスポーツについての課題の双方から多角的に思考・判断し表現する学習を通して、個人がスポーツ文化を創造する主体となっていることに気付くことを目指している。

改善イメージ

○ 児童生徒が豊かなスポーツライフを実現するとともに、将来のスポーツ文化を創造する主体となっていくためには、運動やスポーツの多様な楽しみ方の視点を理解するとともに、文化・経済・教育面等から捉えられるようになることや安全な行い方について理解を深めることが重要であり「体育理論」を学ぶ意義はこうしたことにある。

○ 指導内容は、豊かなスポーツライフを実現する上で必要となる運動やスポーツに関する科学的な知識等を含む多面的な理解や文化に関する事柄を中心としつつ、改正スポーツ基本法の趣旨に留意して改善を図ることとし、こうした内容や、目標で掲げる「生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育む」こととより整合的なものとする観点から、領域の名称を「スポーツ理論」に改める。

○ 実際に体を動かす領域（実践）や保健との関連を図ることで、自身にとっての運動やスポーツの価値等を見出しながら一層深く理解することにつながることが期待される。

○ 「体育理論」に関する授業モデルや教材研究は他の領域と比較して少ないことに加え、実際の指導方法について教師等が学ぶ機会も少ない。学習指導要領の趣旨を周知することに加え、教師が授業づくりに役立てることのできる学習機会の充実に留意する必要がある。

高等学校 専門学科「体育」の改善について

高等学校専門学科「体育」について

- 学校教育法第50条に基づき設定されている専門教育を主とする学科で、スポーツを通じた専門教育の学習を希望する生徒に、スポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を育成することを目指している。
- 「体育科」設定の具体的なねらいは以下のとおり。

① 体育に関する課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、健やかな心身の育成を図るとともに、生涯を通してスポーツを継続する資質・能力を高め、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養うこと

② スポーツに対して「する、みる、支える、知る」といった実践を行い、我が国におけるスポーツの推進及び発展の担い手を育成すること

＜科目構成等＞

● スポーツ概論 必修

（1）スポーツの文化的特性や現代におけるスポーツの発展　（2）スポーツの効果的な学習の仕方

（3）豊かなスポーツライフの設計の仕方　（4）スポーツの多様な指導法と健康・安全　（5）スポーツの企画と運営

● スポーツⅠ（採点競技・測定競技）
● スポーツⅡ（球技）
● スポーツⅢ（武道・諸外国の対人的競技）
● スポーツⅣ（ダンス）

選択

● スポーツⅤ（野外の運動） 必修

● スポーツⅥ（体つくり運動） 必修

（1）体つくり運動への多様な関わり方　（2）目的に応じた心身の気付きや交流を深めるための運動の仕方

（3）ライフステージ及びライフスタイルに応じた体操や運動の計画の立て方

● スポーツ総合演習 必修

（1）スポーツの多様な理論や実践に関する課題研究

（2）スポーツの多様な指導や企画と運営に関する課題研究

（3）スポーツを通した多様な社会参画に関する課題研究

授業例１：陸上教室・記録会等の企画・実施

（スポーツⅠ・スポーツⅥ・スポーツ総合演習）

高校生が小学校の教員等と連携しながら、陸上教室や記録会等を企画。当日も生徒らが主体となって指導や運営を行い、高校・小学校の両教員等からフィードバックを受ける。





授業例２：スポーツとの様々な関わり方を実技を通して体験する授業

（学校設定科目）

スポーツⅠ～Ⅵの学習内容を踏まえ、立場を交代しながら、実技を通して、様々なスポーツとの関わり方への理解を深める。





高等学校 専門学科「体育」の改善について

現状認識・課題等

- 専門学科「体育」は、高校における専門的なスポーツ教育を行い、スポーツを「する」という面で理解を深めたり技能を高めたりすることに加え、地域や社会のスポーツを「支える」人材の育成という点においても成果を上げてきている例もみられる。
- 一方で、学習指導要領においては、スポーツについて「する」「みる」「支える」「知る」などの多方面から学習を深めていくことが示されているが、実際の指導においては「より高度な運動技能を習得させる」といった考え方による「する」に関する実践が多くみられ、それ以外の面に関する学習には改善の余地があると考えられる。
- 全国的に専門学科「体育」を開設している学校が多くないこともあり、その授業改善に関するモデルや研究は少なく、実質的な授業改善が図られづらい状況がある。

検討の方向性案

- 専門学科「体育」における学習は、スポーツの推進及び発展に向けた資質・能力を養うことを目指すものであり、よりその性格を的確に表現する趣旨から、教科名を「体育」から「スポーツ」に改める。
- 指導内容は、スポーツについて「する」「みる」「支える」「知る」などの多方面から学習を深めていく現行の科目構成を基本としつつ、改正スポーツ基本法で念頭におかれている「スポーツを通じた社会課題の解決」の観点を踏まえ、我が国におけるスポーツの推進及び発展の担い手を育成することを軸とする。
- 専門学科「スポーツ」における学習を実質化させる上では、スポーツに関する科学的な知見や文化的特性等を踏まえながら実技や演習等の活動を豊かに組み込みながら指導することが重要であり、単により高度な運動技能等を習得するような指導に陥らないことに十分な留意が必要である。
- これまで必ずしも豊富ではなかった指導の好事例や授業モデルの横展開、よりよい授業づくりに関する教師等の学習機会の充実についても一層の取組が期待される。

<「目標」の改善イメージ>

【柱書】 体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
【知識及び技能】 スポーツの多様な意義やスポーツの推進及び発展の仕方について理解するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に必要な技能を身に付けるようにする。	【思考力・判断力・表現力等】 スポーツの推進及び発展についての自他や社会の課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	【学びに向かう力、人間性等】 生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推及び発展に寄与することを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

【柱書】 心と体を一体として捉え、生涯を通して主体的にスポーツの推進及び発展に寄与するするための資質・能力について、スポーツに関する課題の発見・解決に向けた学習過程を通して次のとおり育成することを目指す。		
【知識及び技能】 文化としてのスポーツの意義や生涯を通じたスポーツの推進及び発展について理解するとともに、それらに関する技能を身に付けるようにする。	【思考力・判断力・表現力等】 スポーツの推進及び発展について自他や社会の課題を発見し、スポーツに豊かに取り組んだり、課題を解決するために必要なことについて、合理的、計画的に考え判断するとともに、他者に伝える力を養う。	【学びに向かう力、人間性等】 ●生涯にわたるスポーツとの継続的で多様な楽しみ方に関心を持ち、スポーツに関する課題解決に向けて、他者と協力したり自ら試行錯誤したりする態度を養う。 ●自他や社会にとってのスポーツの価値を見出しつつ、スポーツの推進及び発展に寄与することを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

余白の創出の観点等を踏まえた内容の見直し等

１．多様性の包摂や一層の深い学びの実現に資するための余白を創出する学習内容の検討等について

- 現行の学習指導要領において、学習内容として「○○（運動）では、XXをする」というように、具体的な運動等を限定的に示しているとも読み取れる部分がある。「○○（運動）」は、それぞれの運動領域において、ねらいとする資質・能力を育むための媒介として示されているものであるが、実際の指導において「○○（運動）をする」ということが意識されがちとなり、教師・子供双方の負担となったり、活動を通してどのような学習を実現しようとしているのかといった視点が持ちづらくなったりし、児童生徒の内発的動機付けに基づく豊かな活動機会を確保したり、多様性を包摂する授業を実施したりすることに難しさが生じている面がある。

- 体育における運動やスポーツを通した学習は、特定の種目等に係る力（競技力等）を育てることを目的としているのではなく、児童生徒が運動等に取り組む中で試行錯誤したり目標を達成したりしながら、発達の段階に応じた「動き」「運動の行い方」「運動との関わり方」等を学ぶとともに、運動やスポーツの楽しさや喜びを味わったりすることがその趣旨と考えられる。こうした趣旨をより明確化し、どのような資質・能力を育てることを狙っているのかを的確に捉えた上で、余白を創出しつつ全ての子供たちの深い学びにつながる指導と評価を一層充実させていくために、学習指導要領においては、例えば、神経系が完成に近づいていく時期である小１～４（運動の基礎を培う時期）においては、「統合的な理解・総合的な発揮」を踏まえ、どのような「動き」を意図しているのか等を軸として、幼児教育段階との接続にも留意のうえ、身に付ける資質・能力を分かりやすく示す方向で検討する。また、小５以降においては、多くの領域の運動を経験したり運動やスポーツを豊かに経験する段階である趣旨を踏まえ、活動のバリエーションがかえって狭まることのないように十分に留意した上で、運動や種目の示し方を柔軟にすることも視野に入れ、余白の創出や教師の創意工夫に最大限資する観点から慎重に検討することとする。

- 一方で、具体的な活動等を必ずしも限定的に示さないことによって現場における指導のイメージがわきづらくなることを避けるため、どのような活動等を通して指導することが考えられるかについては、指導参考資料を活用することも視野に入れつつ、現場の創意工夫を妨げない範囲で分かりやすく示すこととする。

２．計画的な学習指導の一層の実質化について

- 各運動領域の学習は、２年間のうちに計画的に学ぶことが基本（例：中学校１～２年生の「ボール運動」は、２年間のうちに、「ゴール型」「ネット型」「ベースボール型」について計画的に学ぶこと）となっている。子供たちの実態等を踏まえつつ、より意図的・計画的な指導計画を立てることを促すため、学習指導要領の構造化を図る中で２年間で計画的に学ぶ内容を一層分かりやすく示すとともに、国において指導計画の例等を示す際にも、指導計画づくりにおける工夫についても積極的に発信することとする。

３．体育と保健の一層の関連を図った指導の充実及び教科書の在り方等について

- 体育と保健で共通性が高い指導内容（例：中１保健「心の健康」で、ストレスへの対処法の一つとして運動が示されている。また、中２体育理論「運動やスポーツの効果」では、ストレス解消も含めて運動やスポーツが心身等に及ぼす影響の取扱いがある）や、学習指導要領や解説で示す以上に教科書等で繰り返し丁寧に示されている内容（例：健康には、運動・食事・休養及び睡眠が関係していること）については、個別の知識等の指導に偏ることなく、探究的な学習の充実等によりバランスのよい資質・能力の育成が図られるようにする観点を踏まえつつ、当該段階でどのような資質・能力を育てることを目指しているかについて「統合的な理解・総合的な発揮」を踏まえ慎重に検討を行い、適切な取扱いとなるよう改善を促す。

余白の創出の観点等を踏まえた技能の高度化の見直しについて

改善イメージ

○ 児童生徒が、各自の状況等を踏まえつつ仲間とともに運動やスポーツの楽しさを十分に味わうことができるようにするためには、指導内容が過度に積み上がりすぎないようにすることが必要である。こうした観点から、高２以上（最終段階）で示す技能について、現行の中３～高１程度で示している程度を位置付けることを基本とした上で、全体の系統性を検討する。

○ なお、その上で、児童生徒の状況等に応じて、運動やスポーツの多様な楽しみ方に一層触れることも含めた発展的な学習活動等を通して、運動やスポーツの魅力を様々な形で味わうことができるような内容に取り組むことも考えられること等、指導の工夫の余地があることを分かりやすく示すことにも留意する。

例：「ボール運動」「球技」ベースボール型【技能の系統性】

水準維持を基本としつつ必要に応じて見直す

中３～高１程度で示している内容を必要に応じて高２程度以降に位置付けることを基本とする

学年	中：１、２年生	中：３年生 高：入学年次	高：次の年次、 それ以降
（現行） 本文	**基本的なバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻防をすること**	**安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備などによって攻防をすること**	**状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすること**
（改善イメージ） 本文	**基本的なバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻防をすること**	**バット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備などによって攻防をすること**	**状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすること**
（現行） バット操作	・地面と水平になるようにバットを振り抜くこと。	・タイミングを合わせてボールを捉えること ・ねらった方向にボールを打ち返すこと	・守備スペースが空いた方向をねらってボールを打ち返すこと
（改善イメージ） バット操作	・地面と水平になるようにバットを振り抜くこと。	・タイミングを合わせてボールを捉えること	・ねらった方向にボールを打ち返すこと
（現行） ボール操作	・投げる腕を後方に引きながら投げ手と反対側の足を踏み出し、体重を移動させながら、大きな動作でねらった方向にボールを投げること	・ねらった方向へステップを踏みながら、一連の動きでボールを投げること。	・塁に入ろうとする味方の動きに合わせて、捕球しやすいボールを投げること
（改善イメージ） ボール操作	・投げる腕を後方に引きながら投げ手と反対側の足を踏み出し、体重を移動させながら、大きな動作でねらった方向にボールを投げること	・ねらった方向に移動しながら、大きな動作でボールを投げること	・ねらった方向へステップを踏みながら、一連の動きでボールを投げること。
（現行） 守備	・各ポジションの役割に応じて、ベースカバーやバックアップの基本的な動きをすること	・打球や走者の位置に応じて、中継プレイに備える動きをすること	・得点や進塁を防ぐために、走者の進塁の状況に応じて、最短距離での中継ができる位置に立つこと
（改善イメージ） 守備	・各ポジションの役割に応じて、ベースカバーやバックアップの基本的な動きをすること	・打球や奏者の位置に応じベースカバーやバックアップの動きをすること	・打球や走者の位置に応じて、中継プレイに備える動きをすること

※現行の記載をベースとして 改善の大まかな方向性を示すもので、具体的な内容は追って検討

デジタル学習基盤等の活用について

活用事例イメージ

- 動きや技等の見本を動画等で確認する

（例）児童生徒がいつでもどこでも見本の「動き」等を活動者の目線で確認できる動画を視聴

- ウェブ会議システムを用い、双方向性のある活動を実施

（例）専門家や他の児童生徒集団等とオンラインで接続した授業を実施

- 動き等について画像・動画を撮影し、自身の振り返りや試行錯誤、児童生徒同士の助言や更なる学習活動等に活用

（例）マット運動で、児童が自身の動きを動画で客観視、技の完成度を高めるのに活用

（例）ボール運動（ゴール型）で、チームの動きを動画で確認、次のゲームでの戦略の検討に活用

- 児童生徒が学習の状況等を記録・共有したり、それを用いた振り返り・交流等に活用

（例）長距離走で、トラックを周回するラップタイムを記録、データを用いてタイムを縮める方策を考え実施

（例）保健の学習で、各自が学んだ概念を自身の生活と結び付けた例を端末で入力し、リアルタイムで学級全体で共有した上で、更なる学習活動を展開

（例）ウェアラブル端末等から得られた運動の際の自身の状況に関するデータを分析

- 児童生徒が学習の状況等をまとめ、プレゼンテーション等を行うことに活用

（例）保健「傷害の防止」で、地域の事故が多い箇所をクラウド上で共同でプロット、その情報を基に要因や事故を減らす方法等を整理しプレゼンテーションを実施

- VR技術・アプリ・生成AIその他デジタル技術を活用した異なる視点・経験の活用

（例）VR技術によるプレーイメージの明確化、生成AIとのやり取りによる対話型の振り返り

（例）トレーニング支援アプリにより動きの一致率等を判定、データを基にアドバイスし合う

（例）デジタル技術を活用して簡易化した競技スポーツを経験、新たな楽しみを味わう

期待される効果等

- 概念等の理解の支援、理解の深化
- 専門家等活用の可能性の拡大
- 学校内や単一学級等にとどまらない学習活動の広がりや様々な学びへのアクセスを保障
- 学習状況・思考過程・感覚等の可視化
- 児童生徒同士の対話の促進、学習活動の効率化・深化
- 児童生徒の興味・関心の増加、多様な楽しみ方の可能性の拡大
- 学習活動や指導と評価の効率化

子供たちの主体的・対話的で深い学びを支える

教師の効率的・効果的な指導や評価等を支える

留意が必要と考えられること

- 機器操作等が目的化しないことへの留意
- 児童生徒の身体活動時間の確保への留意
- 児童生徒の機器等の活用しやすさへの配慮
- 個人情報等への適切な配慮

子供たちの状況等を踏まえた学習活動の確保に十分留意

学びを支える「手段」として「目的」を踏まえ効果的に活用

指導に関する環境整備等について

現状認識・課題等

＜活動場所等に関すること＞

● 運動の際の暑さへの対応

昨今の気温や湿度の高い夏の状況を踏まえ、WBGT（暑さ指数）に基づく運動実施の判断が行われたり、体育館等の空調活用やこまめな水分補給・健康観察等によって、安全面に留意しながら子供たちの運動機会を最大限確保する取組が進んできている一方で、体育館等の空調の整備状況やその他の対策の実施状況等には差もみられ、暑い時期に運動を行う授業の実施には課題も指摘されている。

● その他の施設・設備等に関する論点

＜指導体制等に関すること＞

● 教師の指導力の向上に関すること

学習指導要領の趣旨を理解するとともに、教師が授業改善に関して学ぶことのできる機会や資料の改善・充実が必要。その際、他の学校種を含む自校以外の取組について幅広く学ぶことができるようにすることについても充実が期待される。

● 指導体制の整備に関すること

学校医や外部の専門家、外部機関、地域の人材等が様々な教育活動に参画することで、指導の一層の充実を図ることが期待される。ただし、外部人材等との連携に当たっては、当該人材等が専門的知見等を踏まえつつ、学校や子供の状況等に応じた対応ができることについて留意が必要であり、そうした対応に際しては、できるだけ学校現場の負担を軽減することのできる方策が必要である。

● その他の指導体制等に関する論点

検討の方向性案

● 安全面には十分に配慮しつつ、以下のような方策を組み合わせることにより、子供たちの学習機会の確保にバランスよく努めることが必要である。

- 暑熱順化（※）を取り入れることも含めた実効的かつ現実的な安全管理
- 指導計画（実施内容・場所・時期）の工夫
- 体育館等における計画的な空調整備

（※）1～2週間程度をかけて体が暑さに慣れた状態を作ること

● 「運動遊び」をはじめとして「環境づくり」を生かした授業を行うためには、意図的・計画的に条件整備を進めることが必要である。

● 指導の充実の観点から、国において、各教育委員会等と連携しつつ、授業改善に資するモデル開発や研修機会等の充実・推進を図るとともに、デジタル技術も活用した分かりやすく使いやすい指導参考資料等の提供が必要である。また、その際、以下のような点について留意が必要である。

- 全ての子供たちの「好き」を丁寧に育む幼児教育段階等の連携を踏まえた「運動遊び」等に関する実践・資料等
- 小中高の滑らかな接続を意識した指導や、「体育理論（改訂後の名称は別途検討）」等、これまで教材研究や指導参考資料等が必ずしも豊富ではなかった領域等に関する実践・資料等
- 多様性の包摂やデジタル学習基盤等の活用の観点から現場の指導の支えとなる実践・資料等

● 学校現場が活用しやすい多様な人材等の参画を支える方策の検討や、外部人材等の効果的かつ適切な参画に関するノウハウ等の整理が必要。また、小学校専科指導体制の充実も考えられる。

● 実現可能性の観点を踏まえ、必要な範囲で内容の精選も行いながら、体育・保健・他教科等との関連や学習の深まりがイメージしやすい学習指導要領の示し方や、参考資料の作成等が必要である。

水泳授業の在り方等について

＜昨今顕在化している主な課題と各地における対応等の例＞

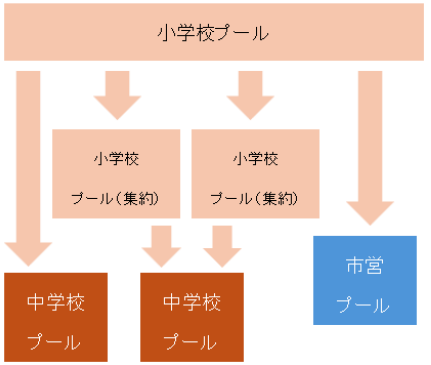
- 学校プールの老朽化やそれに伴う維持管理コストの増加
- 天候等の影響による計画的な授業実施の困難性や安全確保に関する対応の必要性

（対応例）

→ 首長部局と教育委員会部局が連携し、プールの集約化や社会体育施設との複合化による屋内プールの整備を計画的に推進

→ 学校プールの稼働状況や授業計画を踏まえ、近隣校同士でプールを集約化したり、公営プール（屋内プール）への集約化を実施

→ 施設面・指導面等で民間事業者の管理するプール（屋内プール）や指導者等を活用



- 水泳授業に係る教職員の管理上・指導上の負担

（対応例）

→ プール管理の指定管理者制度の活用や、管理業務の民間業者へ委託、指導業務の一部委託

→ プールの指導の一部を民間事業者へ委託

- 民間事業者等との適切な連携に関する対応



地域の実情や安全面等を踏まえた多角的な検討により小学校プールを中学校プールや市営プールに計画的に集約化するケースも見られる。
屋内プールを活用することで計画的な通年指導も可能となる。

方向性

● 学習の在り方や指導の体系等について

水泳授業を実技を通して学ぶ意義は、主として「水に親しむ楽しさや喜びを味わうことができる」「身体的負荷が軽減されることも含め、陸上とは異なる特殊な環境で多様な動きや動きを組み合わせた運動に取り組める」「水難事故から身を守るための力を身に付けることにつながる」である。美しい海・河川・湖等の環境に恵まれる我が国において、こうした教育的意義を踏まえつつ、引き続き全ての児童生徒の学習機会が適切に確保されることが必要。

● 暑熱対策や施設・指導体制整備等について

活動場所の確保・整備について、各学校のプールのみならず、社会体育施設と集約化・複合化して整備する地域のプールを活用すること等も含め、地域の状況に応じた中長期的な視野を持った対応が必要である。民間事業者等と連携して指導する際には、安全面や学校の授業における指導の趣旨を踏まえた対応が必要である。プールの管理は、教師の負担軽減等の観点から、指定管理者制度の活用や管理業務の民間業者へ委託等も考えられる。

● 安全確保につながる運動や心得の指導について

安全確保につながる運動や心得の指導は実際の対応力につなげる観点から水に触れる機会を通して学ぶことが重要。さらに、小学校段階のみではなく中学校段階以降の取組の検討も期待される。

● 多様な楽しみ方の観点、指導の改善・充実について

水の中での活動には多様な楽しみ方があり、生涯スポーツにつなげる観点から、必ずしも泳法等の学習に限らない更に幅広い活動の可能性について検討することも期待される。

調整授業時数制度等を活用した学習指導の工夫等について

活用のイメージ・方向性等

- 運動やスポーツの多様な楽しみ方や多様性の包摂の観点を踏まえた学習を一層深められる取組 ①既存教科等に上乗せ

イメージ：【小中高】 従来からよく見聞きするスポーツ以外にも視野を広げ、年齢や障害の有無等を超えて楽しむことを重視して考えられた新しいスポーツや、最新のテクノロジー等を活用して、様々な立場や状況を超えて楽しめるスポーツに挑戦してみることを通して、スポーツの楽しみ方の視野を広げ、自他にとっての運動やスポーツの価値等を考えたりする授業

- 外部の専門家や機関等と連携し、運動やスポーツ・健康・安全等について専門的知見等を踏まえて深掘りする取組 ③裁量的な時間

イメージ：【小中高】 自治体の防災部局等と連携し、災害発生の仕組みや、災害発生に係る事前・直後・事後の対応の具体から、個人・社会の両面からの安全対策について理解を深め、人々が健康で安全に生活できる社会づくりに関する取組について多角的な検討を深め、交流する授業

- 実社会等との接続を意識した、体育・保健の学習をより探究的に深め交流し合う取組 ①既存教科等に上乗せ

イメージ：【中高】 知見を有するトレーナー等と連携し、生徒の運動やスポーツの実施について科学的にモニタリング。そのデータ分析に基づいて、よりよい運動やスポーツの実施等を目指すことを通して、感覚的な理解にとどまらない手法を用いることで運動やスポーツが充実することや、知見に基づいた取組によって安全面にも留意できること等を幅広く学び、運動やスポーツを支える視点も含めた学びを深める授業

- 地域の特色や地域の人材等を活かした取組 ①既存教科等に上乗せ ③裁量的な時間

イメージ：【小中高】 地域の自然環境を活かした屋外型の運動やスポーツに挑戦したり、運動やスポーツ施設の利用を通して、地域の自然や社会に関する環境を肌で感じながら、そうした資源と運動やスポーツ等の実施・発展に関わりがあること等を学び、運動やスポーツの捉え方の視野が一層広がる授業

イメージ：【小中高】 地域の保健部局等と連携し、当該地域における健康課題のデータやそこから得られる特色等を踏まえ、地域における健康課題への対応等を考える授業

- 体育と保健のより密接な関連をもたせた取組 ①既存教科等に上乗せ

イメージ：【小中高】 保健分野「心の健康」の学習で、ストレスへの対処法としてリラクセーションの方法等を取り上げる際、体育分野「体つくり運動」の体ほぐしの運動で行った運動などを参考に自分に合った運動を実際に試しながら考えるなど、体育と保健との一層の関連を図る授業

留意が必要と考えられること

- 発展的な内容の取扱いに当たっては、当然ながら発展的な内容を取り扱うこと自体を目的とするのではなく、児童生徒の興味・関心や様々な状況を十分に踏まえつつ、児童生徒の一層豊かな活動機会を確保し、活動を通して学びが一層深まることに十分留意することが必要である。その際、カリキュラム・マネジメントの視点を踏まえ、他教科における学習内容との重複も含めた関わりにも留意が必要である。
- こうした更なる学習の広がり・深まりを考える上では、教科の「見方・考え方」や関係する「統合的な理解・総合的な発揮」を検討に活かすことが有効である。

目標における柱書のイメージ

※下線：当該学校種の前の学校種等との相違点

- 学校種の**段階的な高度化は３つの資質・能力の目標において具体的に示す**こととし、**柱書においては、**小学校の外国語活動と小中高の外国語科との違いや各校種の**共通点と相違点を踏まえて端的に記載。**
- **学習過程の書きぶり**については、**従来の「言語活動」を「コミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動など」と整理**したことを踏まえて修正。

現状

小学校　外国語活動	小学校　外国語	中学校	高等学校
外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(参考) ●●する資質・能力（資質・能力の趣旨）について、●●することなどを通して（学習過程）、次のとおり育成することを目指す。

改善イメージ

小学校　外国語活動	小学校　外国語	中学校	高等学校
外国語によるコミュニケーションを図る素地となる資質・能力を、コミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して、次のとおり育成することを目指す。	外国語によるコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を、コミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して、次のとおり育成することを目指す。	外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力を、コミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して、次のとおり育成することを目指す。	

※告示や解説を示すにあたり引き続き検討

目標における「知識及び技能」のイメージ

※下線：当該学校種の前の学校種等との相違点　※赤字：現状と改善イメージとの相違点

- 端的に記載する観点から、各言語材料の記載は「外国語の特徴やきまり」とするとともに、領域に関する記述は「目標」からは省略。
- 小・外国語：「読むこと」「書くこと」は外国語活動で取り扱っていないことから、まず慣れ親しんだ上で身に付けるというプロセスが重要であり、この点は引き続き明示。日本語と外国語との違いに気付いた上で理解するというプロセスについては「内容」で明示し、端的に記載する観点から「目標」からは省略。
- 高：「目的や場面、状況などに応じて」については「適切に」を補足するものであるため、端的に記載する観点から「目標」からは省略。

現状

小学校　外国語活動	小学校　外国語	中学校	高等学校
外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。	外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。

改善イメージ

小学校　外国語活動	小学校　外国語	中学校	高等学校
外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。	外国語の特徴やきまりを理解するとともに、読むこと、書くことにおいて慣れ親しみ、これらの知識を実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。	外国語の特徴やきまりを理解するとともに、これらの知識を実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。	外国語の特徴やきまりの理解を深めるとともに、これらの知識を実際のコミュニケーションにおいて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。

※告示や解説を示すにあたり引き続き検討

目標における「思考力、判断力、表現力等」のイメージ

※下線：当該学校種の前の学校種等との相違点　※赤字：現状と改善イメージとの相違点

- 小・外国語活動：話題の整理を踏まえ修正。
- 小・外国語：話題の整理を踏まえ修正。「推測しながら」「語順を意識しながら」は「内容の取扱い」で明示し、端的に記載する観点から「目標」からは省略。
- 中高：話題について、「日常的な話題」や「社会的な話題」は「内容」で明示すること、また、「身近な社会的な話題」を位置付けることから、「目標」では「様々な話題」、「幅広い話題」とする。
- 高：端的に表すため「概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図など」を省略。

現状

小学校　外国語活動	小学校　外国語	中学校	高等学校
身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。

改善イメージ

小学校　外国語活動	小学校　外国語	中学校	高等学校
ごく身近な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を読んだり書いたりして、伝え合うことができる基礎的な力を養う。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、様々な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、外国語で情報や考えなどを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。

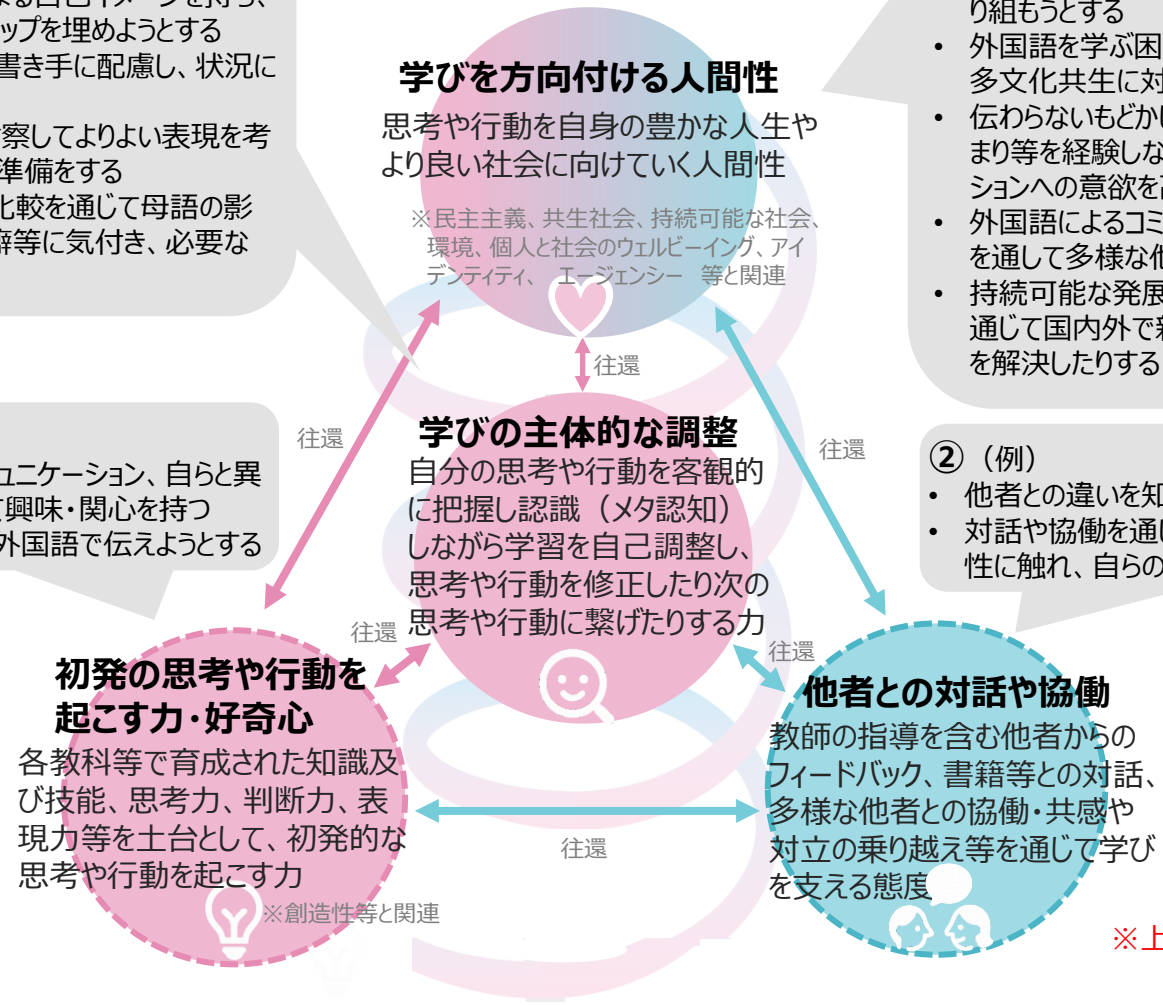
※告示や解説を示すにあたり引き続き検討

外国語における「学びに向かう力、人間性等」の４要素の例

変化が激しい不確実な社会の中で、学びを通じて自分の人生を舵取りし、社会の中で多様な他者とともに生きる力を育む

③（例）
- 外国語を身に付けることによる自己イメージを持ち、自己イメージと現実とのギャップを埋めようとする
- 聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮し、状況に応じて修正する
- 自らのコミュニケーションを省察してよりよい表現を考える等、次の機会に向けて準備をする
- 外国語や外国の文化との比較を通じて母語の影響を受けた表現や思考の癖等に気付き、必要な修正につなげる

④（例）
- 目的意識をもって外国語の学習に継続して取り組もうとする
- 外国語を学ぶ困難の経験を多様性の包摂や多文化共生に対する理解につなげる
- 伝わらないもどかしさや伝わる自己肯定感の高まり等を経験しながら人間同士のコミュニケーションへの意欲を高める
- 外国語によるコミュニケーションを継続し、対話を通して多様な他者と信頼関係を構築する
- 持続可能な発展に向けて、外国語の使用を通じて国内外で新たな価値を創造したり課題を解決したりする



①（例）
- 外国語や外国語によるコミュニケーション、自らと異なる他者の文化等に対して興味・関心を持つ
- 自分の考え・意見を持ち、外国語で伝えようとする

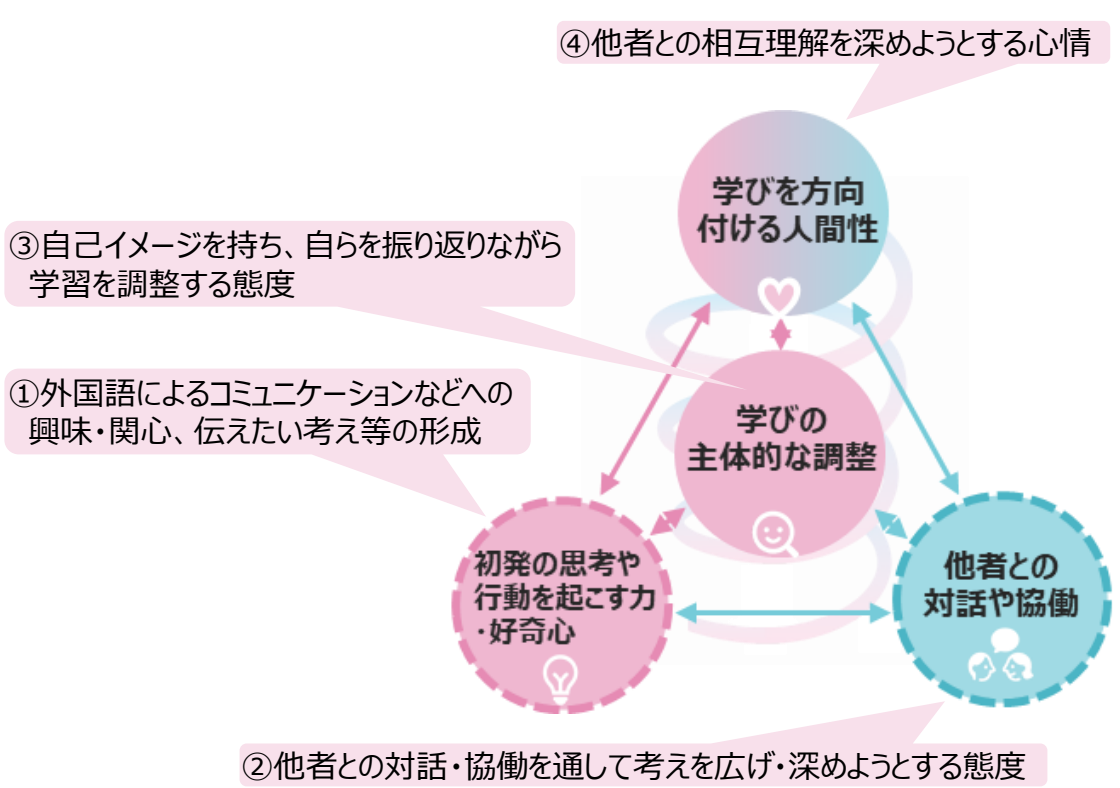
②（例）
- 他者との違いを知り、相互理解を深める
- 対話や協働を通じて、多様な主張や価値観、感性に触れ、自らの考えを広げたり深めたりする

学びに向かう力、人間性の高まり

※上記例は告示にあたり別途検討

※「初発の思考や行動を起こす力・好奇心」と、「学びの主体的な調整」「他者との対話や協働」との往還を通じ、粘り強く継続的に思考・行動する経験が繰り返され、「学びに向かう力、人間性等」が育まれる

外国語における「学びに向かう力、人間性等」の整理



２．当該教科等の学習で育みたい情意・感性

④ 主体的に他者との相互理解を深めようとする心情

１．当該教科等の学習で育みたい学びや生活に向かう態度

① 外国語によるコミュニケーションなどへの興味・関心、伝えたい考え等の形成

② 他者との対話・協働を通して考えを広げ・ 深めようとする態度

③ 自己イメージを持ち、自らを振り返りながら学習を調整する態度

１と２を踏まえ、

【中学校外国語でのイメージ】
外国語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち（①）、他者との対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに（②）、自らの学習を調整して（③）、他者との相互理解を深めようとする態度（④）を養う。

※告示や解説を示すにあたり引き続き検討。解説は前ページや「AI時代に外国語を学ぶ本質的意義」の整理も踏まえて作成

目標における「学びに向かう力、人間性等」のイメージ

※下線：当該学校種の前の学校種等との相違点　※赤字：現状と改善イメージとの相違点

現状

小学校　外国語活動	小学校　外国語	中学校	高等学校
外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

改善イメージ

小学校　外国語活動	小学校　外国語	中学校	高等学校
外国語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、粘り強く自分の考えや気持ちを伝えるとともに、相手を理解しようとする態度を養う。	外国語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、他者との対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を図ろうとする態度を養う。	外国語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、他者との対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を深めようとする態度を養う。	外国語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、他者との対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を深め、外国語の習得に継続して取り組もうとする態度を養う。

※告示や解説を示すにあたり引き続き検討

外国語の新たな「見方・考え方」のイメージ（案）

現状

見方 外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、
社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、

考え方 コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること（101字）

（参考：解説）

見方 外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉えるとは、**外国語で他者とコミュニケーションを行うには、社会や世界との関わりの中で事象を捉えたり、外国語やその背景にある文化を理解するなどして相手に十分配慮したりすることが重要**であることを示している。

考え方 また、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築することとは、多様な人々との対話の中で、目的や場面、状況等に応じて、既習のものも含めて習得した概念（知識）を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、課題を見いだして解決策を考えたり、身に付けた思考力を発揮させたりすることであり、「外国語で表現し伝え合う」ためには、適切な言語材料を活用し、思考・判断して情報を整理するとともに、**自分の考えなどを形成、再構築することが重要**であることを示している。
外国語によるコミュニケーションの一連の過程を通して、このような「見方・考え方」を働かせながら、自分の思いや考えを表現することなどを通じて、生徒の発達の段階に応じて「見方・考え方」を豊かにすることが重要である。この「見方・考え方」を確かで豊かなものとすることで、学ぶことの意味と自分の生活、人生や社会、世界の在り方を主体的に結び付ける学びが実現され、学校で学ぶ内容が、生きて働く力として育まれることになる。さらに、こうした学びの過程が外国語教育の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につながる。その鍵となるものが、教科等の特質に応じた「見方・考え方」である。

改善イメージ

外国語及び外国語によるコミュニケーションを
見方 **文化の違いや社会及び相手との関わり**に着目して捉え、
考え方 **多様な他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自分の考えを伝え、相互理解を図る**こと（91字）

※告示や解説を示すにあたり引き続き検討。解説は「AI時代に外国語を学ぶ本質的な意義」の整理も踏まえて作成

「統合的な理解・総合的な発揮」の設定の趣旨や授業改善に向けたねらい

① 外国語を学ぶ意義の議論を踏まえ、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じた情報や考えの整理・表現の工夫・互いの考えを伝え合うことを目指すことを明確化しつつ、国際的な通用性のある外国語能力を育成する観点から、国際的な基準であるCEFRの分類（Reception・Production・Interaction）を参照し、理解する・表現する・伝え合うに分けて記載。

② 一定の言語体系が習得されており、各技能の熟達が言語運用能力に直結する母語の学習とは異なり、未習得言語の学習では特に４技能をバランス良く育成し、実現可能なコミュニケーションの水準を全体として高めていくことが重要であることから、国語のように技能領域別ではなく、コミュニケーションの意味のまとまり別に示している。これにより、４技能をバランス良く発揮させるような授業づくりを促す。

③ 英語で聞く・読む・話す・書くことに向けて、英語の特徴やきまりを学ぶことの意義を理解している姿を端的に表す。これにより、単に単語の意味や文法を覚えるのではなく、そうした知識を、コミュニケーション活動で組み合わせて使うことにより、英語を聞く・読む際に理解しやすくなったり、話す・書く際により自分が伝えたいことが表現できるようになるなど、理解や表現の質が高まることを実感できる授業づくりへの改善を促す。

思考力、判断力、表現力等

総合的な発揮

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、様々な話題について、
- 情報や考えなどを捉え、整理したり、既存の知識などと関連付けたりすることができる。【理解する】
- 情報や自分の考えなどを整理し、**表現等を工夫して伝えることができる**。【表現する】
- 相手の考えなどを受け止めながら、情報や自分の考えなどを整理し、**表現等を工夫して伝え合うことができる**。【伝え合う】

領域		内容項目例（第１学年相当）	内容項目例（第２学年相当）	内容項目例（第３学年相当）
	話題	日常的な話題について 身近な社会的な話題について　※後半以降を想定		
聞くこと	条件	簡単な語句や文で、はっきりと話されれば		
	できること	（ア）必要な情報を聞き取ることができる・・・		
読むこと	条件	簡単な語句や文で書かれた		
	できること	（ア）必要な情報を読み取ることができる・・・		
	話題	日常的な話題について（身近な話題について、（自分にとって）興味・関心のある話題について） 身近な社会的な話題について　※後半以降を想定		
	条件	簡単な語句や文を用いて		
話すこと（やり取り）	できること	（ア）自分の考えや気持ちなどを即興で伝え合うことができる（※身近な社会的な話題については対象としない）・・・		
話すこと（発表）		（ア）自分の考えや気持ちなどを即興で話すことができる（※身近な社会的な話題については対象としない）・・・		
書くこと		（ア）情報や自分の考え、気持ちなどを文で書くことができる・・・		

知識及び技能

統合的な理解

英語の特徴やきまりに関する知識を、コミュニケーションの中で組み合わせて使うことにより、**英語による理解や表現の質が高まることを理解**している。

領域		内容項目例（１学年相当）	内容項目例（第２学年相当）	内容項目例（第３学年相当）
英語の特徴やきまりに関する事項	ア 音声	音声の特徴を理解し、読んだり話したりする際に活用できる・・・		
	イ 符号	符号の意味や使い方を理解し、読んだり書いたりする際に活用できる・・・・		
	ウ 語、連語及び慣用表現	語、連語及び慣用表現の意味や使い方を理解し、聞いたり読んだりする際に活用できる・・・		
	エ 文、文構造及び文法事項	文、文構造及び文法事項の意味や使い方を理解し、聞いたり読んだり、話したり書いたりする際に活用できる ・　文・・・		

統合的な理解・総合的な発揮

小学校	外国語活動	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	ごく身近な事柄について、 ・情報などを聞き、内容を捉えようとしている。【理解する】 ・相手を意識しながら、自分の考えなどを話して伝えようとしている。【表現する】 ・相手を意識しながら、自分の考えなどを伝え合おうとしている。【伝え合う】
		知識及び技能	統合的な理解	音声や基本的な表現に慣れ親しむことで、日本語と外国語の音声の違い等に気付くとともに、言語や文化の違いや共通点を体験的に理解している。
	外国語	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近な事柄について、 ・聞いて情報を整理し、音声で十分に慣れ親しんだ表現等の意味を考えながら読むことができる。【理解する】 ・自分の考えなどを整理し、表現等を選んで相手に話して伝えるとともに、音声で十分に慣れ親しんだ表現等を用いて、書いて伝えることができる【表現する】 ・相手の考えなどを踏まえ、自分の考えなどを、表現等を選んで伝え合うことができる。【伝え合う】
		知識及び技能	統合的な理解	英語の特徴やきまりに関する知識を、コミュニケーションの中で組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質が高まることを理解している。
中学校		思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、様々な話題について、 ・情報や考えなどを捉え、整理したり、既存の知識などと関連付けたりすることができる。【理解する】 ・情報や自分の考えなどを整理し、表現等を工夫して伝えることができる。【表現する】 ・相手の考えなどを受け止めながら、情報や自分の考えなどを整理し、表現等を工夫して伝え合うことができる。【伝え合う】
		知識及び技能	統合的な理解	英語の特徴やきまりに関する知識を、コミュニケーションの中で組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質が高まることを理解している。

統合的な理解・総合的な発揮

高等学校	英C総合Ⅰ	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、 ・基本的な構成や論理の展開を用いている文章や話から情報や考えなどを捉え、整理したり、既存の知識などと関連付けたりして、自分の考えを形成することができる。【理解する】 ・情報や自分の考えなどを整理し、内容のまとまりなどを意識しながら表現等を工夫して伝えることができる。【表現する】 ・相手の考えなどを受け止めながら、情報や自分の考えなどを整理し、内容のまとまりなどを意識しながら表現等を工夫して伝え合うことができる。【伝え合う】
		知識及び技能	統合的な理解	英語の特徴やきまりに関する知識を、コミュニケーションの中で組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質が高まることを理解している。
	英C総合Ⅱ	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、 ・多様な構成や論理の展開を用いている文章や話から情報や考えなどを捉え、整理したり、既存の知識などと関連付けたりして、自分の考えを形成することができる。【理解する】 ・情報や自分の考えなどを整理し、基本的な構成等を用いながら表現等を工夫して伝えることができる。【表現する】 ・相手の考えなどを受け止めながら、情報や自分の考えなどを整理し、基本的な構成等を用いながら表現等を工夫して伝え合うことができる。【伝え合う】
		知識及び技能	統合的な理解	英語の特徴やきまりに関する知識を、コミュニケーションの中で組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質が高まることを理解している。
	英C総合Ⅲ	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、 ・やや複雑で多様な構成や論理の展開を用いている文章や話から情報や考えなどを捉え、整理したり、既存の知識などと関連付けたりして、自分の考えを形成することができる。【理解する】 ・情報や自分の考えなどを整理し、構成や表現等を工夫して詳しく伝えることができる。【表現する】 ・相手の考えなどを受け止めながら、情報や自分の考えなどを整理し、構成や表現等を工夫して詳しく伝え合うことができる。【伝え合う】
		知識及び技能	統合的な理解	英語の特徴やきまりに関する知識を、コミュニケーションの中で組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質が高まることを理解している。

統合的な理解・総合的な発揮

高等学校	英C発信Ⅰ	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、 ・情報や自分の考え、意見や主張などを整理し、構成や表現等を工夫して伝えることができる。【表現する】 ・相手の考えなどを受け止めながら、情報や自分の考え、意見や主張などを整理し、構成や表現等を工夫して伝え合うことができる。【伝え合う】
		知識及び技能	統合的な理解	英語の特徴やきまりに関する知識を、コミュニケーションの中で組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質が高まることを理解している。
	英C発信Ⅱ	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、 ・情報や自分の考え、意見や主張などを整理し、構成や論理の展開、表現等を工夫して伝えることができる。【表現する】 ・相手の考えを受け止めながら、情報や自分の考え、意見や主張などを整理し、構成や論理の展開、表現等を工夫して伝え合うことができる。【伝え合う】
		知識及び技能	統合的な理解	英語の特徴やきまりに関する知識を、コミュニケーションの中で組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質が高まることを理解している。
	英C発信Ⅲ	思考力、判断力、表現力等	総合的な発揮	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、 ・情報や自分の考え、意見や主張などを整理し、構成や論理の展開、表現等を工夫して詳しく伝えることができる。【表現する】 ・相手の考えを受け止めながら、情報や自分の考え、意見や主張などを整理し、構成や論理の展開、表現等を工夫して詳しく伝え合うことができる。【伝え合う】
		知識及び技能	統合的な理解	英語の特徴やきまりに関する知識を、コミュニケーションの中で組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質が高まることを理解している。

「統合的な理解」「総合的な発揮」等を活かした単元計画づくりの参考イメージ（中学校・外国語）



次の単元では、教科書で「**紹介する**」活動が扱われているな。

新出文法は「**接続詞**」か。教科書をなぞって活動するだけでは、子供たちは「英語で伝え合いたい」という気持ちにはならないだろうな。それに、学習内容を深く理解したり技能を身に付けたりできないだろうし、資質・能力も身に付きにくいだろうな。

そもそもこの単元では本質的にどういう資質・能力を育てたいんだっけ?



まず、学習指導要領の記述を確認してみよう。

デジタル学習指導要領（イメージ）

学習を終えた後に目指したい学習の深まりの姿を確認できる。

目標

外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力を、コミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して、次のとおり育成することを目指す

見方・考え方

外国語及び外国語によるコミュニケーションを文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、多様な他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自らの考えを伝え、相互理解を図ること

他教科や小学校を含めた前後の学習内容も確認できる。デジタル学習指導要領では解説の記述や評価規準例も見られる。

（総合的な発揮）

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、様々な話題について、

- 情報や考えなどを捉え、整理したり、既存の知識などと関連付けたりすることができる。【理解する】
- 情報や自分の考えなどを整理し、表現等を工夫して伝えることができる。【表現する】
- 相手の考えなどを受け止めながら、情報や自分の考えなどを整理し、表現等を工夫して伝え合うことができる。【伝え合う】

思・判・表

（統合的な理解）

英語の特徴やきまりに関する知識を、コミュニケーションの中で組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質が高まることを理解している。

知・技



生徒が最終的に「統合的な理解」「総合的な発揮」を身に付けられるように学習内容と活動を考えればいいのか。「コミュニケーションを行う目的や場面、状況など」の設定が鍵になるね。

「コミュニケーション活動」と「コミュニケーション活動を支える活動」とを往還する学習過程の中で、子供たちが、学んだ表現や文法事項等を使い、本単元におけるコミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて表現できるようにしよう。

デジタル学習指導要領では、学習指導要領解説の記述や、小学校を含む前後の学習内容なども確認できるから個に応じた指導・支援を考えられる。



生徒が「英語で伝え合いたい」という気持ちをもち、既習事項と本単元で学んだ内容などを活用しながら「分かった！できた！」と思える単元を構想したいな。

生徒の実態や、育成したい資質・能力、小学校を含む前後の学習内容や教科書の該当ページなどを踏まえ、「コミュニケーション活動」と「コミュニケーション活動を支える活動」の往還を位置付けると、この単元に充てられる授業時数は何時間になるかな。



本単元では、生徒に「**相手に応じて、事実や自分の考えなどを紹介できる**」力を身に付けさせたい。本単元では「接続詞」を新たに学ぶから、紹介したいものを詳しく説明したり、おすすめしたい理由なども伝えたりできる。昨年度、総合的な学習の時間で地域のことを探究したし、小学校で食べ物のことに触れながらおすすめの場所の紹介をしているから、それらとつなげて「**住んでいる町の食べ物を紹介する**」単元にしよう。そして、オンラインで海外の生徒に実際に紹介する機会を設けよう。きっと生徒はワクワクするだろうな。

次は、学習の流れを考えよう。生徒が、本単元における「コミュニケーションを行う目的や場面、状況など」を理解し、活動の見通しを立てられるよう、単元の最初の時間の導入を工夫しよう。第２時以降は、教科書の内容理解と関連させた「コミュニケーション活動を支える活動」を行い、徐々に生徒が思考、判断、表現できるような「コミュニケーション活動」を行っていこう。単元の後半では、教科書で学んだことや既習事項を生かして「コミュニケーションを行う目的や場面、状況など」に応じて生徒が思考、判断、表現できる「コミュニケーション活動」を多く行おう。最終的には、海外の生徒に紹介をするので、学級の仲間やALTなど、紹介する人を変えることで、「相手に応じて紹介ができる」ような構成にしよう。その中で、知識・技能が身に付いていないと感じたら、「コミュニケーション活動を支える活動」を行いながら２つの活動を往還させていこう。

これで、本単元の学習内容や流れが決まった。パフォーマンステストも含めると、本単元に充てる授業時数は合計で９時間になるな。



本単元における「コミュニケーションを行う目的や場面、状況など」や、学習内容、学習の流れが決まったので、評価計画を立てるか。育成したい資質・能力をきちんと見取れる評価にしたいな。



本単元では、「話すこと［発表］」に焦点を当てて指導してきたから、**パフォーマンス課題**を設定して、「知識・技能」、「思考・判断・表現」を見取ることにしよう。

デジタル学習指導要領を使えば、評価規準例も一括で見られるから便利だな！

「統合的な理解」「総合的な発揮」等を活かして単元を構想するプロセスの一例（イメージ）

中学校第２学年相当　単元名：My Favorite Food in ○○

※「単元目標・評価規準」については、現行学習指導要領の「知識及び技能」及び「思考力、判断力、表現力等」を、「統合的な理解」及び「総合的な発揮」を踏まえて事務局にてイメージとして作成したもの。

（総合的な発揮）**コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、様々な話題について、**
・情報や考えなどを捉え、整理したり、既存の知識などと関連付けたりすることができる。【理解する】
・**情報や自分の考えなどを整理し、表現等を工夫して伝えることができる。【表現する】**
・相手の考えなどを受け止めながら、情報や自分の考えなどを整理し、表現等を工夫して伝え合うことができる。【伝え合う】

（統合的な理解）
英語の特徴やきまりに関する知識を、コミュニケーションの中で組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質が高まることを理解している。

（単元目標・評価規準）思考力、判断力、表現力等
日本に来たことがない海外の生徒に「食べてみたい！」と思ってもらえるように、住んでいる町のおすすめしたい食べ物とその理由などを整理して紹介することができる。（「話すこと［発表］」）

（単元目標・評価規準）知識及び技能
［知識］接続詞などの特徴やきまりを理解することができる。
［技能］住んでいる町のおすすめしたい食べ物とその理由などを、接続詞などを用いて伝える技能を身に付けることができる。

※知技を思判表と同一のパフォーマンステストで評価する例

パフォーマンス課題：日本に来たことがないALTの家族に「食べてみたい！」と思ってもらえるように、住んでいる町のおすすめしたい食べ物とその理由などを整理して紹介しよう。

時	学習活動
9	●パフォーマンステスト 知 思 ●単元の振り返り
8	●海外の生徒とオンラインで、相手の好みや食文化に合わせて住んでいる町のおすすめしたい食べ物を紹介し合う 知 思
7	●クラスメイトやALTと、相手の好みに合わせて住んでいる町のおすすめしたい食べ物を紹介し合う
6 5 4 3 2	●教科書の対話文や本文を読み、引用するなどしながら、紹介したいこととその理由などを伝え合う
1	●単元の目標を理解するとともに、住んでいる町の好きな食べ物についてやり取りする

単元目標・評価規準に到達するまでの学習のつながり

「コミュニケーション活動」 ⇔ 「コミュニケーション活動を支える活動」

などを通して、知・技と思・判・表の資質・能力を一体的に育成

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、
- 住んでいる町のおすすめしたい食べ物とその理由など（事実や自分の考え等）を整理する。
- 接続詞などを活用して、おすすめしたい食べ物とその理由などを伝え合う。
- 相手の好みや食文化など、必要な情報を整理し、聞き出す。
- 自分の考えや聞き出した内容などを基に、まとまりのある内容で伝え合う。【表現する】【伝え合う】

接続詞の特徴やきまり（意味や使い方）を理解している。［知識］

住んでいる町のおすすめしたい食べ物とその理由などを、接続詞などを用いて伝え合う。［技能］

相手の好みなどを聞き出す際の表現等や接続詞becauseの意味や使い方の理解を基に、「好きなもの（食べ物や本など）とその理由」を伝え合う。［技能］

- （下記に加えて）コミュニケーションの目的を達成するために、相手から聞き出したい情報を整理し、聞き出す。

教科書本文等を参考にしながら、相手から聞き出す際の表現等の意味や使い方を理解する。［知識］

because, when, if, that などの接続詞を、話や文章などの中で話したり書いたりする。［技能］
（例）・接続詞ifを使って、「時間があったらしたいこと」を 聞き出したり、「時間があったらできること」について伝え合ったりする。
・I think thatを使って、「自分の考え」を伝え合う。

- （下記に加えて）分かりやすく伝えるために、伝える順番等を考えて伝え合う。

接続詞や既習の表現、教科書本文等を参考にして、
- おすすめしたい食べ物とその理由（事実や自分の考え等）を整理する。
- 接続詞などを活用して、おすすめしたい食べ物とその理由などを伝え合う。

【表現する】【伝え合う】

語句や文法事項等の理解を基に、ご当地の食べ物などについて書かれた教科書本文の概要を捉える。【理解する】

ご当地の食べ物などについて書かれた教科書本文の語句や表現等の意味や使い方を理解する。［知識］
becauseなどの接続詞の特徴やきまり（意味や使い方）を理解する。［知識］

既習の表現や文法事項等を活用して、住んでいる町の好きな食べ物を紹介し合う。

教師が紹介する町の好きな食べ物について、既習の表現や文法事項等と関連付けて理解する。

既習の表現や文法事項等の理解を基に、住んでいる町の好きな食べ物について聞き取ったり、伝え合ったりする。［技能］

単元の目標を理解する。コミュニケーションを行う目的：日本に来たことがない海外の生徒に「食べてみたい！」と思ってもらうため
場面：おすすめしたい住んでいる町の食べ物やその理由などを紹介する
状況など：日本に来たことがない海外の生徒とオンライン交流の際に伝える

住んでいる町の好きな食べ物を紹介する際に用いられる表現や文法事項等を理解する。［知識］

本単元の学習に関連が強い既習内容：■小学校：おすすめの場所の紹介（食べ物のことを含む）　■第１学年：自己紹介、 学校紹介　■他教科など：第１学年「総合的な学習の時間」で地域のことを探究

（学びに向かう力、人間性等の「見取る姿 」）　※今後検討

※「見取る姿」は各単元ごとに見取るのではなく、学年・学期などの長い期間を通じて見取るものであることに留意

※「外国語」では、外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力を、コミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して育成することとしており、それぞれの活動内容が育成する資質・能力と一体となっている場合が多い

AI時代に外国語を必修とする「本質的意義」の再整理

－自らの人生を舵取りできる、多様な他者と協働できる資質・能力への貢献の観点から－

1．言葉、文化、コミュニケーションへの深い理解を育むこと

● 異なる言語・文化への理解を促す

- 自らと異なる他者の言語や文化等との接触・理解・共感・受容
- 言語習得の困難の経験による外国人や日本語学習者の立場・心情の理解
  - ➡ 以上が相まって、多様な主張や価値観への寛容性を生み、多様性の包摂や多文化共生に対する理解を促す可能性

● 母語や自国の文化のメタ認知を促す

- 外国語と対比されることにより、母語の特徴や良さの認知に繋がる
- 外国の文化と対比されることにより、自国の文化への理解が深まる
- 外国人に伝えるため、自国の歴史・文化を学ぶ動機付けが促される

● コミュニケーションへの深い理解を促す

- 言語や文化のメタ認知やコミュニケーション等の経験を通じた相手意識の向上
  - ・相手の言葉や意図の受け止め方（聞く・読む）
  - ・相手や相手の文化への配慮、コミュニケーションの目的、場面や状況等に応じた表現、自分の言葉の分かりやすさ（「やさしい日本語」にも繋がる）（話す・書く）
- 伝わらないもどかしさや失敗を乗り越えるレジリエンスや伝わることによる自己肯定感等の高まり、それらを行き来する経験
- ノンバーバル・コミュニケーションの重要性の理解や表現方法の工夫
  （アイコンタクト、間の取り方、身振り・手振り 等）
  - ➡ 以上が相まって、翻訳ツール等によるやり取りを超えた、生身の身体を有する人間同士のリアルなコミュニケーションへの関心・意欲を促す可能性

2．自分の考えが磨かれて思考が深まるとともに、人間関係が豊かになること

● 外国語を介して、自分の考え・意見の形成・整理が促進される

- 外国語を通じて流通する多様な主張や価値観、感性への接触・受容
- 外国語で対話・協働するために、普段から自分の考え・意見を整理したり、外国語ならではの論理展開で伝える意識が向上する
- 外国人に伝えるため、自国の歴史・文化を学ぶ動機付けが促される（再掲）
  - ➡ アウトプットを意識した効果的インプットや論理的思考力の伸長を促す可能性

● 人間関係の質・量が豊かになり、多面的視野に繋がる

- 世界中の様々な人々と直接つながり、信頼関係の構築が可能となる
- 人間同士のリアルなコミュニケーションにより、翻訳やAIを介する場合と比べて得られる情報が格段に広がり、多面的視野に繋がる
- 異なる言語でのコミュニケーションを通じて新たな自分を発見できたり、より広い視野から自分の好き・得意を考えたり、複言語・複文化の強みを生かして将来の選択肢が広がる可能性も

※現在のAI技術を前提とした場合ではあるが、AIにより手軽に翻訳・通訳が可能となる中であっても、出力の正確性・適切性を批判的に検討したり、ツールの力も使いつつも、リアルなコミュニケーションを行ったりするためには相応の英語力が必要という視点や、外国語によるコミュニケーションのためにAI技術を効果的に活用する力が必要という視点もある

※これらは外国語を学校教育で必修とすることの意義を卒業後も継続的に学習した場合も想定しながら整理したものであり、これらの全てが、全ての児童生徒において、初等中等教育の過程で高いレベルで発現すると考えているものではない

※AI技術が今後も予想を超える速さで進歩することを踏まえると、AIに代替されるべきではない、人間に残したい部分は何かを重視する必要（下線部分）

よりよい社会（社会のウェルビーイング）

- 多様性の包摂、国内外の多様な他者との共生・共創
- グローバルな視点・情報を駆使した価値創造・課題解決
- 持続可能な民主主義・平和な社会の構築

幸福な人生（個人のウェルビーイング）

- 思考の多様性・柔軟性、価値観の再構築
- 国内外の多様な他者と直に意思疎通できる安心感・自信、豊かな人間関係
- 言葉の壁や国境を越えて自らの人生を舵取り（進学・留学・就職）

英語運用能力に関する社会全体の課題と学校教育における対応の方向

10年も習ったのに英語が話せない…



社会の期待・認識

ギャップを少しでも埋めるためにできることは？

学校で改善できること



コミュニケーション重視の授業改善を行ってきているが…

ギャップが生まれる背景

授業時間の制約

① 必要な学習時間は到達したい水準で異なるものの、学校教育だけでは時間に限界

- 英語話者が日本語の一般的な専門能力を身に付けるために必要な授業時間数は2,200時間※1
- 一方、日本の小中高の外国語の授業時間は600～1,000時間程度

② 授業時間が限られているのに、優先的に学ぶべき語彙が整理されていない

- 各校種の語彙数は目安があるのみ（小:600～700、中:1,600～1,800、高:1,800～2,500）で、中学校の教科書では語彙選定にばらつき

卒業後の学習状況

③ 学習の継続につながる目的意識や学習方略が十分ではなく、高卒後の伸びが少ない

- 高3のうち、「英語力を高める学習方法が分からない」は6割
- 大学生の英語運用能力（自己評価）は1年生が一番高いというデータも

社会環境・社会の認識

④ 英語を頻繁に使わざるを得ない環境がなく、社会全体で切迫感や学習動機が弱い

- 学校で学んだことを学校外で使う機会はほとんどない社会的環境が言語習得の観点で不利との共通認識が必要

⑤ 「英語が話せない」原因は、「伝える内容が十分整理されていない」等の場合も

- 自分の意見が母語で十分言語化されていない
- 国際交流で必須となる自分の国や地域に関するインプットが少ない

学校教育での対応の方向性（案）

① AI等のデジタル学習基盤を活用し、授業内外における学びの量と質の充実を図る

- 家庭学習との効果的な連携による発話時間等の確保
- AIの活用により、恥ずかしがらずに話すこと等の練習量を大幅に増加

② 語彙の難易度（CEFRレベル等）も勘案し、基盤語彙リストを作成

※最も頻度の高い3,000語※2が一般的なテキストの約95%を占める と言われており、20,000語を学んでも、カバー率は約99%。
日常会話に必要な語彙は721語というデータも※3

③ 自律的学習者を育てる方向で、授業改善を図る

- 科学的知見に基づく学習方略指導（第二言語習得理論、認知心理学、学習科学）
- 目的意識の涵養（英語を使う自己イメージを持たせる活動）
- AIの活用や家庭学習と連携した授業デザインの推進

④ 英語を学ぶ動機付けを高める機会を授業内外で多層的に充実する

- 英語キャンプ、英語での探究、海外校との交流、海外留学、ALT等の配置拡充
- 先行事例の成果を共有し、各地方における取組を推進
- AIの活用により、恥ずかしがらずに話すこと等の練習量を大幅に増加

⑤ 英語で伝えたい内容を整理・発信する活動の充実

- トピックの改善（自分が本当に伝えたいこと、自分の国や地域のことを重視）
- AIで自分が言いたいこと（母語）を英語にする活動の強化
- 教育課程全体で自分の意見を根拠に基づいて説明する活動を強化

※ 1 U.S. Department of STATE, FOREIGN SERVICE INSTITUTEのHP（Foreign Language Training - United States Department of State）

※ 2 3,000語はワード・ファミリー（word families）という単位であり、ある英単語の活用形や派生形を含めて、「１語」と数える。
例：includeのワードファミリーには、その活用形であるincludes、included、including や、派生形であるinclusive、inclusion などが含まれる。
（出典）中田達也. (2023). 最新の第二言語習得研究に基づく 究極の英語学習法. KADOKAWA. P91-96

※3 「The New General Service List – Spoken 1,2」 New General Service List Project

構造化のイメージ（中学校の例）

現状

外国語の目標

知識及び技能 / 思考力、判断力、表現力等 / 学びに向かう力、人間性等

英語の目標（領域別目標）

聞くこと / 読むこと / 話すこと[やり取り] / 話すこと[発表] / 書くこと

内容

知識及び技能

音声/符号/語、連語及び慣用表現/文、文構造及び文法事項

思考力・判断力・表現力等

言語活動及び言語の働きに関する事項

言語活動(例)

聞くこと / 読むこと / 話すこと[やり取り] / 話すこと[発表] / 書くこと

言語の使用場面(例)

言語の働き(例)

指導計画の作成と内容の取扱い

言語材料の段階的な指導、指導内容や指導方法の工夫　など

「コミュニケーションの意図（仮称）」の扱い方を「指導計画の作成と内容の取扱い」で明示

改善イメージ

外国語の目標

知識及び技能 / 思考力、判断力、表現力等 / 学びに向かう力、人間性等

英語の目標

英語の目標は３つの柱で整理

知識及び技能 / 思考力、判断力、表現力等 / 学びに向かう力、人間性等

領域別目標の要素を「内容」に位置付け、段階的な高度化と資質・能力の深まりを示す

内容

CEFRの分類も参照し３つに整理

思考力・判断力・表現力等

思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
（理解する）（表現する）（伝え合う）

聞くこと / 読むこと / 話すこと[やり取り] / 話すこと[発表] / 書くこと

「並行」パターンで示す

知識及び技能

知識及び技能に関する統合的な理解

音声/符号/語、連語及び慣用表現/文、文構造及び文法事項　など

※技能は5領域と関連付けて示す

指導計画の作成と内容の取扱い

「内容」は資質・能力に限定し、従来の「言語活動の例」等は「指導計画の作成と内容の取扱い」へ

コミュニケーション活動（例）

聞くこと / 読むこと / 話すこと[やり取り] / 話すこと[発表] / 書くこと

コミュニケーションの場面(例) ※コミュニケーション活動で取り上げる

コミュニケーションの意図（仮称）(例) ※コミュニケーション活動で取り上げる

小学校外国語活動と外国語の接続

現状

- 現行学習指導要領では、小学校３・４年から「外国語活動」を導入し、音声を中心に外国語に慣れ親しみ、外国語学習への動機付けを高めた上で、５・６年から段階的に「読むこと」「書くこと」を加え、総合的・系統的に指導するため、「外国語科」を導入
- Ｒ４学習指導要領実施状況調査によると、４技能全てで相当数の児童が通過した問題が多く、3･4年での外国語活動から音声に慣れ親しんできた積み重ねの成果が一定程度表れている
- 一方、以下のような課題も顕在化
  - ①「書くこと」に課題（例：一文を書き写す問題の正答率が学校間で約30～90%の差。教師オンライン質問調査では「児童が興味・関心をもちやすい」、「児童が理解しやすい」と回答した割合がいずれも低い項目は「書くこと」に集中）
  - ②「読むこと」に課題（例：教師オンライン質問調査では児童が「興味・関心をもちにくい」、「理解しにくい」と回答した割合が他項目に比べて高い）
  - ③ 外国語活動については、国が教材（Let's Try！）を作成し、配布しているが、一部の内容について伝え合う目的や必然性のある場面が設定しにくい単元があるとの指摘

- こうした中、英語を学ぶ意欲が、学年が上がるごとに下がる傾向も出ており、外国語活動（文字の音声に慣れ親しませる段階）から、外国語科（「読むこと」「書くこと」の活動）に円滑に接続できていないとの指摘
- 小学校外国語科では、読むこと、書くことに慣れ親しんだ上で、実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けることを目指しているが、基礎的な技能の習得に課題が生じている可能性

改善イメージ

- 外国語活動教材Let's Try！を以下の観点から見直す
  - より身近で興味を持ち、楽しく活動できる内容を充実
  - ５・６年の外国語科につながるよう、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを意識した活動を児童の発達の段階に応じて段階的に取り扱う
- 小学校段階で身に付けるべき文字については以下の観点から見直す
  - 国語科のローマ字の学習、総合的な学習の時間に付加する「情報の領域（仮称）」のタイピングなどの情報活用能力の育成に資する学習活動との関連を図りながら、外国語活動においても文字に慣れ親しむ活動を大切にする
  - 外国語活動（音声での慣れ親しみ）から、外国語科（「読むこと」「書くこと」を含む）に円滑に接続できるよう、初期指導の重要性や留意事項を示す

小学校・中学校における接続・連携

現状

● 前回改訂では、「小学校の外国語活動で音声中心で学んだことが、中学校の段階で文字への学習に円滑に接続されていない」「英語の発音と綴りの関係、文構造の学習に課題がある」という小中接続の課題も踏まえ、小学校５・６年に「外国語科」を導入

【学習指導要領実施状況調査が示す実施状況】
① 小学生への質問調査では、英語を学ぶ意欲は全学年で８割以上
② 中学生への質問調査では、「小学校での英語の授業が役に立った」と回答する割合は改訂前よりも向上
③ 中1の英語が好きではない理由は、「文法が難しい」「単語のつづりや文字を覚えるのが難しい」「英語の文を書くのが難しい」が上位
④ 中学校教師への質問調査では、小学校での指導方法・内容を把握できていない教師が多数

● 小学校から中学校への接続（文字を覚えたり、文構造について理解したり、簡単な語句や基本的な表現を読んだり書いたりする指導から、綴りを覚えたり、文を書く指導や文法指導）が引き続き課題。接続に当たって重点的に指導することを教師が必ずしも理解・意識できていない

改善イメージ

（１）指導内容の段階的な示し方

● 小・中学校における指導内容が、領域ごとに段階的に高度化するように指導事項を示し、構造化を図る

● その際、英語の領域別の目標の要素を「内容」に位置付け、話題や活動の段階的な高度化を学年段階の目安とともにきめ細かく示す

● 本改訂においては、指導事項の精選や学年区分の柔軟化が方向性として示されていることを踏まえ、指導事項の増加につながらないよう留意するとともに、学年別に明確に指導事項を分けるのではなく、「〇学年相当」など、柔軟性を残しつつ目安を示す

● 段階付けするポイントとしては以下が考えられる
✓ 話題：取り扱う話題を段階的に高度化する
✓ 活動（特に「読むこと」「書くこと」）：
- 小学校における「読むこと」「書くこと」の指導の段階をきめ細かく示す
- 中学校の初期段階において、音声を中心とした活動を重視するとともに、小学校で取り扱った話題や言語材料（語句や表現など）を繰り返し扱うことを示す

※今後、語彙の難易度を勘案して基盤語彙リストを作成予定

（次ページに続く）

小学校・中学校における接続・連携

改善イメージ（前ページからの続き）

（２）重点を置いて指導すべき点の明確化

- 各学校段階で身に付けさせるべき事項と、前学校種からの学びの接続のために重点を置いて指導すべき事項を、より具体的に示す
- 新たに学習した内容を活用できるようになるまでには相当程度の時間を要することを踏まえ、前学校段階で学習したものを含む既習事項や話題等を発達の段階に応じて繰り返し扱うことの重要性を示す
- その際、「コミュニケーション活動」において活用することによって、理解を深めることとする

【具体的な検討事項】

✓ 小学校（中学校への接続のための留意事項）：

- 中学校の文法指導につなげるため、日本語と英語の語順の違い等（文構造）の気付きを促すこと
- 音声と文字の関係に慣れ親しみ、簡単な語句や基本的な表現を読んだり書いたりできるようにすること

✓ 中学校（小学校からの接続のための留意事項）：

- 中１の初期段階
  - 小学校の指導と関連させて音声を中心に活動を行い、発音と綴りとを関連付けて丁寧に指導すること
  - 小学校では音声に十分慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写したり、例となる文を参照しながら書いたりすることまでにとどめていることを踏まえ、文構造（語順）を意識しながら書くよう丁寧に指導すること
- ３年間を通じて
  - 発音と綴りとを関連付けて丁寧に指導すること
  - 小学校における指導との接続に留意し、音声面を大切にしながら「読むこと」「書くこと」につなげること
    「読むこと」：簡単なものから段階的に語句や英文を読んで意味を理解すること
    「書くこと」：語句や英文を「読むこと」から、「書くこと」につなげること

（３）学年ごとの目標のあり方

- 指導内容を段階的に示すことに伴い、現行の学習指導要領において各学校に策定が義務付けられている学年ごとの目標の役割を、学習指導要領が担うこととなる。このため、学年ごとの目標の一律の作成義務は無くし、各学校の状況や校種間の接続・連携の観点等から必要な場合に、任意で作成する位置付けとする

「話題」の段階的な示し方のイメージ

※小中連携の観点から考えられる段階付けを一部イメージ化したもの。

小学校

ポイント：「読むこと」「書くこと」の話題を段階的に示す

外国語活動

※活動との組み合わせで話題の順序が前後することはありうる

聞くこと

相手のことや身の回りの物
（例）友達のこと、好きな物、欲しい物

ごく身近な事柄
（例）日常生活（時刻、曜日、場所）

（音声での慣れ親しみ）

話すこと［やり取り］

基本的なやり取りに関する事柄
（例）挨拶、感謝、簡単な指示、依頼

ごく身近な事柄
（例）日常生活（時刻、曜日、場所）

自分のことや身の回りの物
（例）好きな物、欲しい物

相手のこと
（例）好きな物、欲しい物

話すこと［発表］

自分のことや身の回りの物
（例）名前、好きな物、欲しい物

ごく身近な事柄
（例）日常生活（時刻、曜日、場所）

（音声での慣れ親しみ）

外国語

聞くこと

相手のこと
（例）友達や家族のこと、誕生日、好きな物、趣味、得意なこと

身近な事柄
（例）学校生活、地域

読むこと 話題を段階的に示す

自分のことや相手のこと

身近な事柄

話すこと［やり取り］

基本的なやり取りに関する事柄
（例）挨拶、指示、依頼

自分のことや相手のこと
（例）友達や家族のこと、誕生日、好きな物、趣味、得意なこと

身近な事柄
（例）学校生活、地域

話すこと［発表］

自分のことや相手のこと
（例）友達や家族のこと、誕生日、好きな物、趣味、得意なこと

身近な事柄
（例）学校生活、地域

書くこと 話題を段階的に示す

自分のことや相手のこと

身近な事柄

中学校

ポイント：「社会的な話題」から「身近な社会的な話題」へ変更
中１の初期段階で小学校で扱った話題を繰り返し扱う

聞くこと・読むこと

【中1の初期段階】
小学校で扱った話題を繰り返し扱う

日常的な話題

変更

身近な社会的な話題

話すこと・書くこと

【中1の初期段階】
小学校で扱った話題を繰り返し扱う

日常的な話題
身近な話題
- ごく身近な事柄（自分のこと、相手と共通して関心をもっていること）
- 身近な事柄（身の回りのこと、相手と共通してもっている話題）（例）学校、地域

（自分にとって）興味関心のある話題
（自分にとって興味関心があるが、相手が必ずしも興味関心をもっているとは限らない）

変更 **身近な社会的な話題**
※聞いたり読んだりしたことを基に、書いたりすることを含む

3学年相当　4学年相当　5学年相当　6学年相当　1学年相当　2学年相当　3学年相当

「読むこと」「書くこと」の段階的な示し方のイメージ

※小学校から中学校への接続（文字を覚えたり、文構造について理解したり、簡単な語句や基本的な表現を読んだり書いたりする指導から、綴りを覚えたり、文を書く指導や文法指導）が引き続き課題である点も踏まえ、小中連携の観点から考えられる段階付けを一部イメージ化したもの。

小学校

外国語活動

聞くこと

文字の読み方が発音されるのを聞いて、識別する

外国語

読むこと

文字の形を認識し、名称の読み方を発音することができる

音声と文字の関係に慣れ親しんだり、音声と語句や表現を結びつけたりする

簡単な語句や基本的な表現を読んで意味を捉える

簡単な語句や基本的な表現から具体的な情報を読み取る

書くこと

文字を一文字ずつ丁寧に書く

音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写す

自分の考えや気持ちなどを表す語句を選んで書き写す

例となる語句や表現を参考に、自分の考えや気持ちなどを表す語句や表現を書く

中学校

読むこと・書くこと

【中1の初期段階】
・小学校の指導と関連させて音声を中心に活動を行い、発音と綴りとを関連付けて丁寧に指導する
・文構造（語順）を意識しながら書くよう、丁寧な指導を行う
※徐々に自分で考えて「書くこと」ができるようにする

【３年間を通じて】
・発音と綴りとを関連付けて丁寧に指導を行う
・小学校における指導との接続に留意し、音声面を大切にしながら「読むこと」「書くこと」につなげる
▶簡単なものから段階的に語句や英文を読んで意味を理解する
▶ 語句や英文を読むことから、「書くこと」につなげる

３学年相当　4学年相当　５学年相当　6学年相当　1学年相当　2学年相当　3学年相当

高校の外国語科目の改善イメージ①

現状

現状と課題

- 前回改訂では５領域を総合的に扱うことを一層重視する必履修科目として「英語コミュニケーションⅠ」（以下「英語コミュニケーション」を「英コミュ」という）を設定し、更なる総合的な英語力の向上を図るための選択科目として「英コミュⅡ」及び「英コミュⅢ」を設定
- また、「話すこと」「書くこと」を中心とした発信力の強化を図るため、特にスピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッション、まとまりのある文章を書くことなどを扱う選択科目として「論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」（以下「論理・表現」を「論表」という）を設定
- 世界的にも外国人留学生数が増加している中、日本の大学等においても留学生総数が過去最多となったことや、企業においても英語でのビジネスコミュニケーションを行える力が求められていることを踏まえると、引き続き高校までの英語教育には総合的な英語力の向上と発信力の強化が求められている
- 学習の基盤となる資質・能力の一つである「言語能力」に関し、「知識・技能及び思考力・判断力・表現力等の一体的育成」等の実現に向けた思考・判断・表現の過程では、言語により「外化※」し、自分なりの意味を構築していくことが不可欠

※外化：書く・話すなどの活動を通じ、知識の理解や頭の中で思考したことなどを表現すること

改善イメージ

科目名の見直し

- 前回改訂で意図した総合的な英語力の向上と発信力の強化は現在も一層の推進が求められていることを踏まえ、英コミュと論表の科目の趣旨は維持する
- 英語によるコミュニケーションを中核とする科目趣旨を端的に示すため、両科目に「英語コミュニケーション」を共通して置く

  ※今回、「言語活動」の文言を見直し、「コミュニケーション活動」及び「コミュニケーション活動を支える活動」と整理したこととも整合する
- その上で、従来の「英語コミュニケーション」は５領域を総合的に扱う趣旨を示すため必履修科目として「英語コミュニケーション（総合）Ⅰ」、選択科目として「英語コミュニケーション（総合）Ⅱ・Ⅲ」とする
- 「論理・表現」は、Production（表現）と Interaction（やり取り）（「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」、「書くこと」）による発信力を一層強化するための選択科目として「英語コミュニケーション（発信）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」とし、当該３領域により、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて英語で情報や考え、意見や主張などを発信するという科目趣旨を丁寧に説明するとともに、科目名の英訳においては科目趣旨が表せるように検討する

  ※いずれも科目名は仮称。従来の論表は「英語コミュニケーション（発信）」とすることで、「話すこと」「書くこと」による「外化」を中心として発信力を強化する趣旨であることを示す

科目共通の方向性

- 新たな英コミュと新たな論表の２科目を併行履修する場合には、新たな英コミュで読んだり聞いたりした話題を新たな論表でも扱ったり、新たな英コミュで扱った言語材料を新たな論表でも活用したりするなど、科目間のカリマネが重要。教師の自助努力のみに委ねずに、カリマネが進むよう、使用する教材間の話題や活動の連携を促進するとともに、学習指導要領において指導上の工夫を促す（なお、科目の組替えにより統合する場合も同様）
- 領域別あるいは領域統合の活動においては、中高接続の観点も踏まえ、「社会的な話題」に身近なものも含むようにするとともに、中学校での既習の言語材料を繰り返し活用しながら、「思・判・表」を発揮する活動を重視する

高校の外国語科目の改善イメージ②

現状

「英語コミュニケーション」（英コミュ）

- 5領域の活動のバランスや５領域を総合的に扱うことに対する意識は浸透しつつある
- 一方、教材の文章には発信に活用するには難しい語彙や文法が含まれている場合がある等により、読んだり聞いたりしたことを基に、話したり書いたりするといった領域統合が十分に行われていない

「論理・表現」（論表）

- ５領域を総合的に育成する英コミュと比べて、授業で活動を通した英語使用の機会が十分に与えられておらず、科目の趣旨に沿った指導が十分行われていない実態がある
- その要因としては、以下が考えられる
  - 文法事項を網羅的に指導するため、文法事項を軸にした単元構成の教科書や副教材を活用して、文法解説と問題演習を中心とした授業展開が行われている場合がある
  - 言語使用における正しさを過度に強調し、文法事項や用法の解説が授業の中心となる場合がある
  - やり取りにおける発話や、生徒が書いた文章などに対して個別のフィードバックを行うことが物理的に困難であったり、負担が大きいため、教師が指導方法に難しさを感じている場合がある

改善イメージ

「英語コミュニケーション（総合）」（仮称）

- 小中高の最終段階として総合的な英語力の向上を目指す新たな英コミュが、実社会における外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力をより高められるよう、中学校における学習内容の確実な習熟を図りながら、５領域を総合的に扱いつつ、領域統合を一層重視する科目として内容の改善を図る
- 新たな英コミュの科目趣旨に沿った指導が行われるよう、教材の工夫を促進する
  （例）聞いたり読んだりする資質・能力の育成を目的とした教材と、聞いたり読んだりしたことを基にした領域統合の活動が行いやすいように、発信に活用できる言語材料で構成された教材という２段階で単元を構成するなど

「英語コミュニケーション（発信）」（仮称）

（１）科目の方向性・目的

- 発信力の強化を目指す観点から、新たな論表は表現等を工夫しながら、他教科を含めこれまで学び・体験してきたことも踏まえつつ、幅広い話題について発信できること等を重視する

（２）知識及び技能の内容と取扱い

- 新たな論表で強化する「知・技」として「論理の構成や展開」の扱いを充実させる

（３）活動の充実・体系化

- 主な活動として、現行のスピーチ、プレゼン、ディベート、ディスカッションに加えて、「日常的な会話」を行い、コミュニケーション方略を使いながら会話を継続したり発展させたりする力の育成を扱う
- 書くことの活動の充実を図るため、プロセスを重視した指導を強化するとともに、活動のバリエーションを示す
- 科目趣旨に沿った指導が行われるよう、教材については「コミュニケーション活動」を中心とした単元構成、単元配置になるよう改善を図る
- AIを含むデジタル学習基盤の活用も含め、生徒へのフィードバックの充実に向けた工夫を解説等で示す

高校

外国語科目の変遷と改訂の方向性

平成11年3月告示

必履 OCⅠ（２単位）
OCⅡ（４単位）
聞く、話す中心

※OC：オーラル・コミュニケーションの略

必履 英語Ⅰ（３単位）
英語Ⅱ（４単位）
４技能を総合的、統合的に育成

リーディング（４単位）
読む中心

ライティング（４単位）
書く中心

必履修はOCⅠか英語Ⅰのどちらか１科目選択必履修

平成21年3月告示

コミュニケーション英語基礎（２単位）
必履 コミュニケーション英語Ⅰ（３単位）
コミュニケーション英語Ⅱ（４単位）
コミュニケーション英語Ⅲ（４単位）
４技能の総合的、統合的な育成を一層強化

英語表現Ⅰ（２単位）
英語表現Ⅱ（４単位）
論理的に表現する能力の育成に焦点

英語会話（２単位）
身近な話題について英語で会話する能力の育成

現行（平成30年3月告示）

必履 英語コミュニケーションⅠ（３単位）
英語コミュニケーションⅡ（４単位）
英語コミュニケーションⅢ（４単位）
４技能の総合的、統合的な育成を一層強化

論理・表現Ⅰ（２単位）
論理・表現Ⅱ（２単位）
論理・表現Ⅲ（２単位）
論理的に表現する能力の育成に焦点

改訂の方向性

必履 英語コミュニケーション（総合）Ⅰ（仮称）（６新単位）
英語コミュニケーション（総合）Ⅱ（仮称）（８新単位）
英語コミュニケーション（総合）Ⅲ（仮称）（８新単位）
科目の趣旨を維持しつつ、領域統合を一層強化

英語コミュニケーション（発信）Ⅰ（仮称）（４新単位）
英語コミュニケーション（発信）Ⅱ（仮称）（４新単位）
英語コミュニケーション（発信）Ⅲ（仮称）（４新単位）
「論表」の趣旨を維持しつつ、発信力を一層強化

【専門教科（英語）】

総合英語
英語理解
英語表現
異文化理解
生活英語
時事英語
コンピュータ・LL演習

総合英語
英語理解
英語表現
異文化理解
時事英語

総合英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
ディベート・ディスカッションⅠ・Ⅱ
エッセイライティングⅠ・Ⅱ

※上記科目の改善の方向性を踏まえ、必要な改善を行う

英語を学ぶ動機や発信力を高めるための話題・活動の改善イメージ（中学校の例）

※告示や解説の検討の際に文言や具体例について別途検討

充実

自分のこと

好きなこと、体験したこと、
将来の夢など

身に付けたい英語力についての自己イメージを持つことを促すため、
「英語を使ってやってみたいこと」を示す

（例）自分の好きなスポーツについて聞く
自分の好きな文化に関する記事を読む
英語話者に対して、**英語を使ってやってみたいこと**や自分の将来の夢を話す
ALTに自分の好きなことや嫌いなこと、体験したことについて書いて紹介する

自分の意見

校則や学校の課題など
に対する自分の意見

他者の意見や様々な情報を整理しながら自分の意見を形成・発信する活動を促すため、
「自分の意見」を示す

（例）**自分の意見を形成するために他者の意見や様々な情報を聞く・読む**
皆がより過ごしやすい学校生活にするために、**クラスメイトと困っていることや校則について自分の意見を発表**
健康的な食生活やスクリーンタイムなどについて、**自分の意見を書いて説明する**

※子供たちがより自分の意見を形成・発信する活動に取り組みやすいよう、話題に「身近な社会的な話題」に変更

日本のこと

日本の文化・歴史・
生活・地理など

日本のことについての理解を深め、発信する活動を促すため、
話題・活動の例を充実する

（例）**外国と比較するために日本について調べたり、外国に関連する情報を聞く・読む**
ALTに日本の生活を書いて説明する
海外の児童生徒とお互いの文化を発表し合う

※これまで「教材に関する留意事項」で示していた(ア)多様な考え方に対する理解、(イ)我が国の文化や英語の背景にある文化、(ウ)国際理解の観点を話題・活動に明示

強化

地域のこと

地域の文化・
おすすめの場所・
地域と外国とのつながりなど

児童生徒が自分の住んでいる地域のことを伝える活動を促すため、
地域のことも話題・活動の例に位置付ける

（例）**地域の魅力発信に取り組んでいる英語話者のプレゼンを聞く・読む**
国内の外国人留学生に地域のおすすめの場所等を書いて紹介する
姉妹都市の生徒に自分の地域と相手の地域とのつながりや違いについて発表する

小学校

文化及び外国語と日本語の違いについて盛り込む要素（イメージ）

※本資料はあくまで盛り込むべき要素のイメージを示したものであり、実際の学習指導要領本文及び解説の文章は議論を踏まえて引き続き検討
※赤字が新たに盛り込む要素（「指導計画の作成と内容の取扱い」は現行の記載を基にしている）

小学校（外国語活動）

第４章　外国語

第１　目標

外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。（知識及び技能）

（見方・考え方）

外国語及び外国語によるコミュニケーションを文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、多様な他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自らの考えを伝え、相互理解を図ること

第２　各言語の目標及び内容等　英語

２　内容

知識及び技能

（統合的な理解）音声や基本的な表現に慣れ親しむことで、日本語と外国語の音声の違い等に気付くとともに、言語や文化の違いや共通点を体験的に理解している。

英語の特徴等に関する事項

ア　音声　英語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いに気付く

文化に関する事項

・日本と外国との生活や習慣、行事などの違いを知り、多様な考え方があることに気付く
・異なる文化を持つ人々との交流などを体験し、文化等に関する理解を深める

３　指導計画の作成と内容の取扱い

⑴　（指導計画の作成）

オ　外国語活動を通して、外国語や外国の文化のみならず、国語や我が国の文化についても併せて理解を深めるようにすること。言語活動で扱う題材についても、我が国の文化や、~~英語の背景にある~~世界の文化に対する関心を高め、理解を深めようとする態度を養うのに役立つものとすること。

小学校（外国語）

第２章　第10節　外国語

第１（見方・考え方）

外国語及び外国語によるコミュニケーションを文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、多様な他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自らの考えを伝え、相互理解を図ること

第２　各言語の目標及び内容等　英語

２　内容

知識及び技能

英語の特徴等に関する事項

エ　文及び文構造

日本語と英語の語順の違い等に気付くとともに、意味や使い方を理解して、活用できる。

３　指導計画の作成と内容の取扱い

（３）（教材に関する留意事項）

イ　英語を使用している人々を中心とする世界の人々や日本人の日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史、伝統文化、自然などに関するものの中から、児童の発達の段階や興味・関心に即して適切な題材を変化をもたせて取り上げるものとし、次の観点に配慮すること。

（ｱ）我が国の文化や、~~英語の背景にある~~世界の多様な文化に対する関心を高め、理解を深めようとする態度を養うことに役立つこと。

（ｲ）言語や文化の違いや共通点、多様なものの見方や考え方があることを理解することにより、多様性の包摂や他者との相互理解を図ろうとする態度を養うのに役立つこと。~~多様な考え方に対する理解を深めさせ、公正な判断力を養い豊かな心情を育てることに役立つこと。~~

（ｳ）広い視野から国際理解を深め、国際社会と向き合うことが求められている我が国の一員としての自覚を高める~~とともに~~、国際協調の精神を養うとともに、多文化共生に対する理解を促すことに役立つこと。

中 高

文化及び外国語と日本語の違いについて盛り込む要素（イメージ）

※本資料はあくまで盛り込むべき要素のイメージを示したものであり、実際の学習指導要領本文及び解説の文章は議論を踏まえて引き続き検討
※赤字が新たに盛り込む要素（「指導計画の作成と内容の取扱い」は現行の記載を基にしている）

中学校

第２章　第９節　外国語

第１（見方・考え方）

外国語及び外国語によるコミュニケーションを文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、多様な他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自らの考えを伝え、相互理解を図ること

第２　各言語の目標及び内容等　英語

３　指導計画の作成と内容の取扱い

（２）（内容の取扱い）

イ　音声指導に当たっては、~~、日本語との違いに留意しながら~~、練習コミュニケーション活動を支える活動などを通して２の（１）のアに示す言語材料を継続して指導するとともに、音声指導の補助として、必要に応じて発音表記を用いて指導することもできることに留意すること。また、発音と綴りとを関連付けて指導すること。

エ　文法事項の指導に当たっては、次の事項に留意すること。

（ｳ）用語や用法の区別などの指導が中心とならないよう配慮し、実際に活用できるようにする~~とともに、語順や修飾関係などにおける日本語との違いに留意して指導する~~こと。

オ　コミュニケーション活動及びコミュニケーションを支える活動の中で、日本語と英語の音声や語彙、文構造、文法などの違いに気付かせることに留意しながら指導すること。

カ　多様な他者との相互理解を図るためには相手の文化的背景などに配慮したコミュニケーションが重要であることの理解を深めるとともに、活動においては相手に配慮してコミュニケーションを行えるよう工夫すること。

（３）（教材に関する留意事項）

イ　~~英語を使用している人々を中心とする~~世界の人々や日本人の日常生活、風俗習慣、物語、地理、 歴史、伝統文化、自然科学などに関するものの中から、生徒の発達の段階や興味・関心に即して適切な題材を効果的に取り上げるものとし、次の観点に配慮すること。

（ｱ）我が国の文化や、~~英語の背景にある世界の多様な~~文化に対する関心を高め、理解を深めようとする態度を養うのに役立つこと。

（ｲ）言語や文化の違いや共通点、多様なものの見方や考え方があることを理解することにより、多様性の包摂や多様な他者との相互理解を深めようとする態度を養うのに役立つこと。~~多様な考え方に対する理解を深めさせ、公正な判断力を養い豊かな心情を育てるのに役立つこと。~~

（ｳ）広い視野から国際理解を深め、国際社会と向き合うことが求められている我が国の一員としての自覚を高める~~とともに~~、国際協調の精神を養う~~とともに~~、多文化共生に対する理解を促すのに役立つこと。

高等学校

第２章　第８節　外国語

第１款（見方・考え方）

外国語及び外国語によるコミュニケーションを文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、多様な他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自らの考えを伝え、相互理解を図ること

第２款　各科目

第３款　各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い

１　（指導計画の作成）

（7）言語能力の向上を図る観点から、言語活動などにおいて国語科と連携を図り、指導の効果を高める~~とともに、日本語と英語の語彙や表現、論理の展開などの違いや共通点に気付かせ、その背景にある歴史や文化、習慣などに対する理解が深められるよう工夫をする~~こと。

２　（内容の取扱い）

（7）コミュニケーション活動及びコミュニケーションを支える活動の中で、日本語と英語の音声や語彙、文構造、文法、論理の展開などの違いに気付かせることに留意しながら指導すること。

(8) 多様な他者との相互理解を図るためには相手の文化的背景などに配慮したコミュニケーションが重要であることの理解を深めるとともに、活動においては相手に配慮してコミュニケーションを行うよう工夫すること。

３　（教材に関する留意事項）

（2）~~英語を使用している人々を中心とする~~世界の人々や日本人の日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史、伝統文化、自然科学などに関するものの中から、生徒の発達の段階や興味・関心に即して適切な題材を効果的に取り上げるものとし、次の観点に配慮すること。

（ｱ）我が国の文化や、~~英語の背景にある世界の多様な~~文化に対する関心を高め、理解を深めようとする態度を養うのに役立つこと。

（ｲ）言語や文化の違いや共通点、多様なものの見方や考え方があることを理解することにより、複眼的に社会や世界を見る力や多様性の包摂、多様な他者との相互理解を深めようとする態度を養うのに役立つこと。~~多様な考え方に対する理解を深めさせ、公正な判断力を養い豊かな心情を育てるのに役立つこと。~~

（ｳ）社会がグローバル化する中で、広い視野から国際理解を深め、国際社会と向き合うことが求められている我が国の一員としての自覚を高める~~とともに~~、国際協調の精神を養う~~とともに~~、多文化共生に対する理解を促すのに役立つこと。

（ｴ）人間、社会、自然などについての考えを深めるのに役立つこと。

外国語教育における文化の理解等に関するイメージ

外国語の「見方・考え方」

言葉、文化、コミュニケーションへの深い理解を育む

●異なる言語・文化への理解を促す　●母語や自国の文化のメタ認知を促す　●コミュニケーションへの深い理解を促す

高等学校

言語習得：外国語によるコミュニケーションにおいて、相手の文化的背景などを踏まえて配慮ができる

相互理解：言語や文化の違いや共通点、多様なものの見方や考え方があることを理解することにより、多様な他者との相互理解を深めようとする

（参考：現行の解説）
- 相手の外国語の文化的背景によって「配慮」の仕方も異なってくることを理解できる
- 他者を配慮し受け入れる寛容の精神や平和・国際貢献などの精神を獲得し、多面的思考ができるような人材を育てる
- 我が国の文化と、英語の背景にある文化との共通点や相違点を知るようになるとともに、そうしたことに関心をもち、理解を深めようとする態度を育成する
- 世界の中の日本人であることの自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養うように配慮する

中学校

言語習得：外国語によるコミュニケーションにおいて、相手の文化的背景などを踏まえた配慮を図ろうとする

相互理解：言語や文化の違いや共通点、多様なものの見方や考え方があることを理解することにより、多様な他者との相互理解を深めようとする

（参考：現行の解説）
- 相手の外国語の文化的背景によって「配慮」の仕方も異なってくることを理解できる
- 他者を配慮し受け入れる寛容の精神や平和・国際貢献などの精神を獲得し、多面的思考ができるような人材を育てる
- 我が国の文化と、英語の背景にある文化との共通点や相違点を知るようになるとともに、そうしたことに関心をもち、理解を深めようとする態度を育成する
- 世界の中の日本人であることの自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養うように配慮する

小学校・外国語

言語習得：外国語によるコミュニケーションにおいて、日本語と英語の違いに気付き、外国語の言語文化に慣れ親しむ

相互理解：我が国の文化や、世界の多様な文化に対する関心を高め、理解を深めようとする

（参考：現行の解説）
- 日本語との音声の違いにとどまらず、文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについても日本語との違いに気付く
- 気付きで終わるのではなく、それらが外国語でコミュニケーションを図る際に活用される、生きて働く知識として理解される
- 多様な考え方を理解し、柔軟に対応することや、公正な判断力を養い、相手の状況や立場を共感的に理解できる心情を育成する
- 我が国の文化と、英語の背景にある文化との共通点相違点を知るようになるとともに、そうしたことに関心をもち、理解を深めようとする態度やお互いの文化を尊重する態度を育成する
- 複数の文化に触れることが、（略）英語によるコミュニケーションの中で我が国の文化を発信することにもつながっていく日本の文化や価値観、考え方などについての自覚を高める

小学校・外国語活動

言語や文化の違いや共通点を体験的に理解し、外国語や外国語によるコミュニケーションに慣れ親しむ

（参考：現行の解説）
- 外国語と日本語との違いを知り、言葉の面白さや豊かさに気付く
- 日本と外国との生活や習慣、行事などの違いを知り、多様な考え方があることに気付く
- 異なる文化をもつ人々との交流などを体験し、文化等に対する理解を深める
- 母語と外国語を比べることで、言語には普遍性と固有性があることに気付く
- 母語の性質や価値、外国語の性質や価値をよりよく理解できるようになる

語彙の改善イメージ（案）

現状

- 各校種の語彙数の目安があるのみ
  - 中学校では難易度の高い語彙が登場
  - 各教科書の語彙選定にばらつき
  - 過度な負担、重要な語彙の学習が不十分

改善イメージ

- 語彙選定の基盤語彙リストを示すとともに話題を改善
  - 教科書の語彙の難易度の平準化
  - 教科書の語彙選定の平準化
  - 負担の適正化、重要な語彙を身に付けられる

現行の語彙数

合計 4,000～5,000（リストなし）

※大学受験等への対応のために5,000語以上の語彙を学習する場合もある

高 1,800～2,500語

英コミュⅠ 400～600
英コミュⅡ 700～950
英コミュⅢ 700～950

中 1,600～1,800語

小 600～700語

語彙数の精選
明確なリスト化

今後のあり方

合計 ●語程度

語彙リスト

- 複数のコーパスを参照するなどして作成
- 語彙の難易度（CEFRレベル等）、使用頻度等に基づく重要度等（カタカナ語との対応等を含む）を勘案して優先順位付け及び各学校段階への振り分けを検討
  - ※その際、他のアジア諸国における状況も参考にする必要
  - ※高校については、生徒の実態も様々であるため、教科書の多様性の担保が必要であることに留意が必要
  - ※小・中学校においても、難易度が過度に高まらないようにしつつも、引き続き教科書で多様な話題を取り扱うことができるよう配慮が必要
  - ※リストを必要に応じて更新できるよう継続的に調査研究を実施

※入試や調査の作問に資するよう、各教科書の新出語彙リストは電子データとして提供されるべき

話題の改善イメージ（中学校の例）

現状

取り扱う話題が学年別で示されておらず、様々な難易度のものが混在

中１～中３

日常的な話題

生徒の日々の生活に関わる話題のうち、生徒にとって身近な学校生活や家庭生活などにおけるもの
生徒の興味・関心の対象となることや社会生活で必要なこと

（例）

自分に関すること
- 自分の好きなことや嫌いなこと、趣味、日常的に行っていることや過去の行動などに関する事柄
- 住んでいる場所や部屋の様子、行きたい場所、所有しているもの、好きな動植物や飼っているペット
- １日の日課、週末や長期休暇の出来事や計画、将来の夢
- 学校生活における出来事、学校行事（修学旅行先、部活動）

友達や家族、教師等に関すること
- 家庭生活における出来事、友人や教師が休日を過ごした中で感じたこと、ALTの好きなものや体験（お気に入りの日本食、旅行中に体験したこと）

相手に関すること
- 外国の中学生の学校生活

その他
- 天気予報、交通情報、製品の取扱い方、スポーツクラブのパンフレット

社会的な話題

社会で起こっている出来事や問題に関わる話題

（例）エネルギー問題、環境問題（地球温暖化、自然との共存等）、世界情勢、科学技術、平和問題、人権問題、国際協力、ICTの普及、社会貢献

（その他）

身近な事柄

（例）友達からの招待、電話の留守電機能にあるメッセージ

関心のある事柄

自分が関心をもっていること

（例）趣味や好き嫌い、日記や短い説明

身の回りのことで生徒が共通して関心をもっていること

（例）スポーツ、音楽、映画、テレビ番組、学校行事（文化祭など）、休日の計画、日常の出来事

※現行の解説を基に作成

改善イメージ

各学年で取り扱うべき話題の難易度を整理し、身近なものから段階的に抽象的なものを取り扱うよう改善

中１相当 | **中２相当** | **中３相当**

聞くこと・読むこと

日常的な話題

（例）友達、家族、学校、地域、店、公共機関　など

身近な社会的な話題

（例）健康的な食生活、スクリーンタイム、皆が過ごしやすい学校づくりなど

※フェイクニュース、インバウンド、外国人から見える日本、国際協力などについては生徒が興味をもったり自分と関連付けて捉えられるように内容を工夫

話すこと・書くこと

日常的な話題

身近な話題について
- ごく身近な事柄や出来事について
  （例）自分のこと、相手と共通して関心をもっていること
- 身近な事柄について
  （例）身の回りのこと、相手と共通してもっている話題（学校、地域）

（自分にとって）興味・関心のある話題

※相手が必ずしも興味・関心をもっているとは限らない

身近な社会的な話題

※上記話題については、内容の具体的な文言及び学年内における「できること」の段階付けを含め、告示や解説を示すにあたり別途検討

外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力を育成する単元の活動・指導（イメージ）

生徒が行う活動

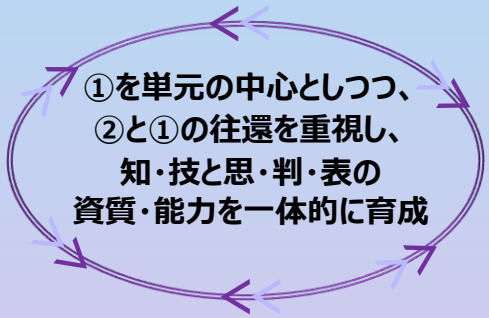
①コミュニケーション活動（主に思・判・表を育成）

※知・技も習熟・熟達に向かう

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて

外国語で理解したり、表現したり、伝え合ったりする活動

授業と家庭学習との連携



②コミュニケーション活動を支える活動（主に知・技を育成）

話や文章などの中で音声や語彙、文法等を理解し、活用する活動

（例）
・特定の語彙や文法等を簡単なやりとりや発表、書くことで使う活動
・特定の語彙や文法等の意味や使い方に気付いたり理解したりする活動
・語句や表現を覚える活動
・流暢性を高める活動

教師の指導

①の活動に対する指導

（例）
コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じた、
- 聞き取ったり、読み取ったりした情報の整理などに関する指導
- 相手に伝える内容に関する指導
- 分かりやすく伝えるための伝える順序などに関する指導
- 相手の理解に配慮した伝え方の工夫に関する指導

（①⇔②を往還させる指導の例）
①の「コミュニケーションを行う目的や場面、状況など」を生徒に共有して学習の目的意識を持たせ、
- ①を行うことにより知識及び技能の必要性（表現しきれないことや間違い等）に気付かせ、②により改善を図り、再度①を行う
- ②である程度活用できるようになった知識及び技能を①で使わせ、必要に応じて再度②を行う

②の活動に対する指導

（例）
- 特定の語彙や文法等について、意味や使い方の理解を促す指導
- 新規事項を既習事項と関連付けて整理する指導
- 関連する語彙や文法等を効果的に整理する指導
- 様々な学習方略の指導

※いずれも個々の生徒の理解や特性に応じ、個別又は全体に対して実施

※①と②は活動・指導の順序を表すものでもない
※①においてコミュニケーションの意図（仮称） 等を参照するとともに、②においてコミュニケーションの意図（仮称）を扱う際は語彙や文法等を特定しない場合もある
※単元全体や個々の授業でどのような資質・能力の育成を目的としているかに着目して活動や指導の内容を判断すべきであり、上記で示しているものは個々の活動や指導の外形的な条件ではない

外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力を育成する単元の活動・指導（イメージ）

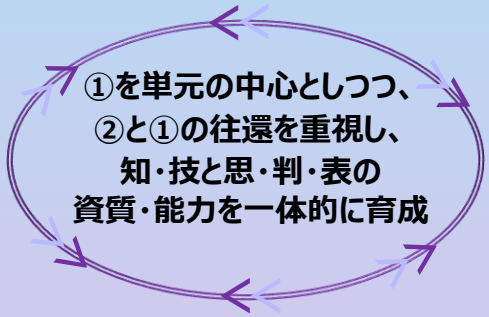
※黄マーカー：中学校との主な相違点

児童が行う活動

①コミュニケーション活動（主に思・判・表を育成）

※知・技も深まる

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて
外国語で理解したり、表現したり、伝え合ったりする活動



授業と家庭学習との連携

②コミュニケーション活動を支える活動（主に知・技を育成）

話や文などの中で音声や文字、語彙、表現等を理解し、活用する活動

（例）
- 特定の語彙や表現等を簡単なやりとりや発表、書くことで使う活動
- 音声や文字、語彙、表現、文構造等について日本語との違いについて気付いたり理解したりする活動
- 音声を中心に語彙や表現を聞いたり話したりすることを身に付ける活動

教師の指導

①の活動に対する指導

（例）
コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じた、
- 聞き取ったり、読み取ったりした情報の整理などに関する指導
- 相手に伝える内容に関する指導
- 分かりやすく伝えるための伝える順序などに関する指導
- 相手の理解に配慮した伝え方の工夫に関する指導

（①⇔②を往還させる指導の例）
①の「コミュニケーションを行う目的や場面、状況など」を児童に共有して学習の目的意識を持たせ、
- ①を行うことにより知識及び技能の必要性（表現しきれないことや間違い等）に気付かせ、②により改善を図り、再度①を行う
- ②である程度活用できるようになった知識及び技能を、①で使わせ、必要に応じて再度②を行う

②の活動に対する指導

（例）
- 特定の語彙や表現、文構造等について、理解を促す指導
- 特定の語彙や表現等の意味や使い方について整理する指導
- 様々な学習方略の指導

※いずれも個々の児童の理解や特性に応じ、個別又は全体に対して実施

※小学校外国語においては、音声や文字、語彙、表現等を特定の場面などと関連付けながら気付かせる段階であることを踏まえ、②を①と関連付けて指導することが特に大事
※①と②は活動・指導の順序を表すものでもない
※①においてコミュニケーションの意図（仮称） 等を参照する
※単元全体や個々の授業でどのような資質・能力の育成を目的としているかに着目して活動や指導の内容を判断すべきであり、上記で示しているものは個々の活動や指導の外形的な条件ではない

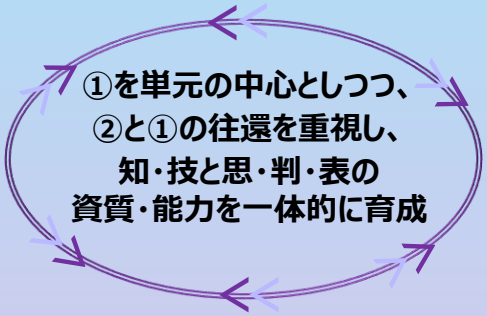
外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力を育成する単元の活動・指導（イメージ）

※黄マーカー：小学校・外国語との主な相違点

児童が行う活動

①コミュニケーション活動（主に思・判・表を育成）

外国語で理解したり、表現したり、伝え合ったりする活動



②コミュニケーション活動を支える活動（主に知・技を育成）

英語の音声や基本的な表現等に慣れ親しみ、言語や文化の違いや共通点について体験的に理解する活動

（例）
- 外国と日本の違いや共通点に気付く活動
- 英語の音声や基本的な表現等を聞く活動
- 英語の簡単な語句や基本的な表現等を用いて話す活動

教師の指導

①の活動に対する指導

（例）
コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを意識した、
- 相手に伝える内容に関する指導
- 相手に配慮した伝え方の工夫に関する事項

（①⇔②を往還させる指導の例）
- ②で慣れ親しんだ英語の音声や基本的な表現を①の活動で使わせ、必要に応じて再度②を行う
- ①を行った上で②により英語の音声や基本的な表現への気付きを促し、使い方に慣れ親しませ、再度①を行う

②の活動に対する指導

（例）
- 外国と日本の違いや共通点に気付かせる指導
- 英語の音声や簡単な語句、基本的な表現等に慣れ親しむ指導

※小学校外国語活動においては、初めて英語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ段階であることを踏まえ、②で扱った英語の音声や基本的な表現等を①と関連付けて指導することが特に大事
※①と②は活動・指導の順序を表すものでもない
※単元全体や個々の授業でどのような資質・能力の育成を目的としているかに着目して活動や指導の内容を判断すべきであり、上記で示しているものは個々の活動や指導の外形的な条件ではない

外国語

中 高

外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力を育成する指導のあり方等に盛り込む要素（イメージ）

※本資料はあくまで盛り込むべき要素のイメージを示したものであり、実際の学習指導要領本文及び解説の文章は引き続き検討。

本文に盛り込む要素（イメージ）

第１　目標

- 外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力を、コミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して、次のとおり育成することを目指す

（知識及び技能）（思考力、判断力、表現力等）（学びに向かう力、人間性等）

第２　各言語の目標及び内容等　英語 ※高校では「各科目」

３　指導計画の作成と内容の取扱い ※高校では「各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い」

- コミュニケーション活動は、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて外国語で理解したり、表現したり、伝え合ったりする活動とし、主に思・判・表を育成する
- コミュニケーション活動を効果的に行うため、コミュニケーション活動を支える活動として、話や文章などの中で、音声や語彙、表現、文構造、文法等を理解し、活用する活動を行い、主に知・技を育成する
- コミュニケーション活動とコミュニケーション活動を支える活動は、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことについて行う
  （※高校では統合的な活動も記載）
- コミュニケーション活動とコミュニケーション活動を支える活動を往還しながら、知・技と思・判・表を一体的に育成する
  - ✓ 実際の活動には、知・技と思・判・表の育成の両方の要素が含まれることが多いと考えられるが、主にどのような資質・能力を育成しようとしているのかを踏まえて活動を行うことの重要性
  - ✓ 導入した語彙や文法等をすぐに話せる、書けることを求めるのではなく、聞いたり読んだりして理解する段階から、次第に話したり書いたりする段階へと発展させる

解説で記載する要素例（イメージ）

- コミュニケーション活動では、生徒が既習事項等を最大限駆使して行うことの重要性
- コミュニケーション活動の中で、音声や語彙、文法等の意味や使い方の理解が深まったり、場面や状況に応じて組み合わせて使う力が高まったりするなど、知・技も習熟・熟達に向かうことに留意
- コミュニケーション活動を単元の中心としつつ、生徒の学習状況等に応じて、コミュニケーション活動とコミュニケーション活動を支える活動のバランスを考慮する必要性
- コミュニケーション活動を効果的に行うため、コミュニケーション活動を支える活動の適切なタイミング（コミュニケーション活動の前後や間）を考慮する必要性
- 具体的な指導例

小・外国語

外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力を育成する指導のあり方等に盛り込む要素（イメージ）

※本資料はあくまで盛り込むべき要素のイメージを示したものであり、実際の学習指導要領本文及び解説の文章は引き続き検討。

※黄マーカー：中学校との主な相違点

本文に盛り込む要素（イメージ）

第１　目標

- 外国語によるコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を、コミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して、次のとおり育成することを目指す
  （知識及び技能）（思考力、判断力、表現力等）（学びに向かう力、人間性等）

第２　各言語の目標及び内容等　英語

３　指導計画の作成と内容の取扱い

- コミュニケーション活動は、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて外国語で理解したり、表現したり、伝え合ったりする活動とし、主に思・判・表を育成する
- コミュニケーション活動を効果的に行うため、コミュニケーション活動を支える活動として、話や文章などの中で、音声や文字、語彙、表現、文構造等を理解し、活用する活動を行い、主に知・技を育成する
- コミュニケーション活動とコミュニケーション活動を支える活動は、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことについて行う

- 小学校外国語においては、音声や文字、語彙、表現、文構造等を特定の場面などと関連付けながら気付かせる段階であることを踏まえ、コミュニケーション活動とコミュニケーション活動を支える活動を往還しながら、知・技と思・判・表を一体的に育成する
  - ✓ 実際の活動には、知・技と思・判・表の育成の両方の要素が含まれることが多いと考えられるが、主にどのような資質・能力を育成しようとしているのかを踏まえて活動を行うことの重要性
  - ✓ 導入した語彙や表現等をすぐに話せる、書けることを求めるのではなく、聞いたり読んだりして理解する段階から、次第に話したり書いたりする段階へと発展させる。特に、読むこと、書くことにおいては、音声で十分に慣れ親しんだ上で、理解したり活用したりできる指導を行う

解説で記載する要素例（イメージ）

- コミュニケーション活動では、児童が既習事項等を最大限駆使して行うことの重要性
- コミュニケーション活動の中で、音声や文字、語彙、表現、文構造等についての理解が深まり、場面や状況に応じて組み合わせて使う力が高まったりするなど、知・技も深まることに留意
- コミュニケーション活動を単元の中心としつつ、児童の学習状況等に応じて、コミュニケーション活動とコミュニケーション活動を支える活動のバランスを考慮する必要性
- コミュニケーション活動を効果的に行うため、コミュニケーション活動を支える活動の適切なタイミング（コミュニケーション活動の前後や間）を考慮する必要性
- 具体的な指導例

外国語

小・外国語活動

外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力を育成する指導のあり方等に盛り込む要素（イメージ）

2-2 外㊱

※本資料はあくまで盛り込むべき要素のイメージを示したものであり、実際の学習指導要領本文及び解説の文章は引き続き検討。

※黄マーカー：小学校・外国語との主な相違点

本文に盛り込む要素（イメージ）

第１　目標

- 外国語によるコミュニケーションを図る素地となる資質・能力を、コミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して、次のとおり育成することを目指す
  （知識及び技能）（思考力、判断力、表現力等）（学びに向かう力、人間性等）

第２　各言語の目標及び内容等　英語

３　指導計画の作成と内容の取扱い

- コミュニケーション活動は、外国語で理解したり、表現したり、伝え合ったりする活動とし、主に思・判・表を育成する
- コミュニケーション活動を効果的に行うため、コミュニケーション活動を支える活動として、英語の音声や基本的な表現等に慣れ親しみ、言語や文化の違いや共通点について体験的に理解する活動を行い、主に知・技を育成する
- コミュニケーション活動とコミュニケーション活動を支える活動は、聞くこと、話すことについて行う
- 小学校外国語活動においては、音声や語彙を使用される場面などと関連付けながら気付かせる段階であることを踏まえ、コミュニケーション活動とコミュニケーション活動を支える活動を往還しながら、知・技と思・判・表を一体的に育成する
  - ✓ 実際の活動には、知・技と思・判・表の育成の両方の要素が含まれることが多いと考えられるが、主にどのような資質・能力を育成しようとしているのかを踏まえて活動を行うことの重要性
  - ✓ 導入した語彙や表現等をすぐに話せることを求めるのではなく、聞いて慣れ親しむ段階から、次第に話すことに慣れ親しむ段階へとつなげていく

解説で記載する要素例（イメージ）

- コミュニケーション活動では、児童が十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて行うことの重要性
- 英語の音声や基本的な表現等に慣れ親しみ、コミュニケーション活動で、相手と意味のあるやり取りを様々な場面設定の中で行うことを通して、英語の音声や基本的な表現等への気付きを促すとともに、日本と外国の言語や文化の違いや共通点について理解するなど、知・技も同時に育成されることに留意
- コミュニケーション活動を単元の中心としつつ、初めて外国語に触れる段階であることに考慮して、コミュニケーション活動とコミュニケーション活動を支える活動のバランスを考慮する必要性
- コミュニケーション活動を効果的に行うため、コミュニケーション活動を支える活動の適切なタイミング（コミュニケーション活動の前後や間）を考慮する必要性
- 具体的な指導例

中学校

「コミュニケーションの意図（仮称）」について本文・解説に盛り込む要素（イメージ）

※本資料はあくまで盛り込むべき要素のイメージを示したものであり、実際の学習指導要領本文及び解説の構成や文章は引き続き検討。また、小学校・高等学校の記述も今後検討。
※（例）は本資料の理解のために示しているものであり、解説における指導の観点や例示の記載は今後検討。

本文に盛り込む要素（イメージ）

3　指導計画の作成と内容の取扱い

コミュニケーション活動（思・判・表の指導）における取扱い

- コミュニケーション活動は、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて外国語で理解したり、表現したり、伝え合ったりする活動とし、主に思考力、判断力、表現力等を育成する。コミュニケーション活動を行うに当たっては、**別表を参照する**
- 「コミュニケーション活動」の中では、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを設定し、目的の達成に向けて、伝える内容や順序などを意識しながら既習の知識及び技能を駆使することが重要である

（例：「日本に来たことがない海外の生徒におすすめしたい食べ物を紹介する」活動の場合、まず**「挨拶」**から入り、相手の好きな食べ物や苦手なものや食べられないものを**「質問」**し、相手の好みに合わせておすすめの食べ物について**「説明」**し、おすすめする**「理由を述べる」** など）
※解説では受容の例も示す

コミュニケーション活動を支える活動（知・技の指導）における取扱い

- 「コミュニケーション活動」につながるよう、「コミュニケーション活動を支える活動」において、同じ語彙や表現、文法事項等でも、**使用される場面や状況などに応じた様々な意味や使い方**があることを意識し、使えるようにすることが重要である

（例：「Can you ～？」は、「（～ができるか）**質問する**」のみの場合もあれば、**「依頼する」**（Can you help me?）や**「誘う」**（Can you come to our school festival?）といった意図を含みうる）

- また、**似たような意味や使い方**がある既習事項を整理し、使えるようにすることも、コミュニケーションで使える知識及び技能とするために重要であるとともに、コミュニケーションの目的を達成しやすくなり、思考力、判断力、表現力等の育成にも資するものである

（例：「コミュニケーション活動を支える活動」において、様々な**「依頼」**の仕方について既習の表現を使う　など）

※なお、必ずしも毎回上記のような指導をしなければならないものではなく、既習事項を整理する際に生徒の実態に応じて段階的に取り扱うことが必要である

教材における取扱い

- コミュニケーション活動においては、**別表を参照**し、それに必要な知識及び技能を取り扱うようにする

※現行の「言語の働き」に関連する内容のみを記載

別表

※以下は現行を基にした案であり、文言や例示等を含め、詳細は引き続き検討。

①コミュニケーション活動
（具体的な活動を例示）

②コミュニケーションの場面
（現行の「言語の使用場面の例」を再整理の上、例示）

③コミュニケーションの意図（仮称）
（現行の「言語の働きの例」を再整理の上、例示）

- 「相手との関係を円滑にする」・「気持ちを伝える」
  （例）挨拶する、・・・
- 「事実・情報を共有する」・「相手の行動を促す」
  （例）質問する、説明する、理由を述べる、依頼する、招待する、・・・
- 「考えや意図を共有する」
  （例）意見を言う、・・・

例示にあっては、CEFRの言語コミュニケーション活動のマクロ機能も参照し、小中高の接続を踏まえつつ、段階的に高度化するようにする

資質・能力の育成に繋がる学習評価のプロセスの再整理（案）

※中学校をイメージして作成
（黄色マーカーは外国語独自の部分）

国が定める基準・参考資料

学習指導要領・解説	学習指導要領・解説	学習指導要領・解説	国研参考資料	指導要録通知(※1)	国研参考資料(※2)
外国語の目標	英語の目標	個別の内容	内容のまとまり（領域）ごとの評価規準例	「学びに向かう力」の「見取る姿」	単元の「指導と評価計画」作成の実例
各教科等がどのような資質・能力の育成を目指しているのかを端的に示す		各教科等で育成すべき具体的な資質・能力を示す	内容のまとまりごとの評価規準例を示すもの	「学びに向かう力の３要素」の見取りの着眼点を各教科毎に端的に示す	各学校が実際に単元の「指導と評価の計画」を作成する上での具体例やポイントを示すもの
知技・思判表・学びに向かう力		知技・思判表×５領域	知技・思判表×５領域		
		※思判表は領域別に、知技は５領域との関連を示す			

基に作成

参照・活用

参照・活用

各学校で行う学習評価の手順例

目標設定

単元の目標（評価規準）の設定

何を身に付けさせたいかを明確にし、単元の目標を設定する（目標はそのまま評価規準となるようにする）

※単元で扱う「内容のまとまり」（領域）の目標を設定する

指導と評価の構想

評価課題のデザイン

身に付けさせたい資質・能力の発揮を見取り、その水準を判断できる評価課題を考える（単元の学習課題をそのまま評価課題とすることも考えられる）

（一体的に構想）

学習過程のデザイン

評価課題に向けて、多様な特性を持つ児童生徒が資質・能力を身に付けやすい学習活動を組み立てる

指導と評価の実施

授業の実施

多様な子供たちの個に応じた学習過程の工夫を支えながら、学習活動を展開する

（子供の状況に応じて学習・指導を調整）

形成的評価の計画的な実施

身に付けさせたい姿と現状の差分を学習途中で見取り、適切なフィードバックを与える

総括的評価

学習成果を観点別評価・評定へ総括する。学年末に絞るなど頻度を抑え、形成的評価を充実する

単元の目標・評価規準の作成の際に基にする部分のイメージ（中学校の例）

外国語の目標

外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力を、コミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して、次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
外国語の特徴やきまりを理解するとともに、これらの知識を、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、様々な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	外国語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、他者との対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を深めようとする態度を養う。

見方・考え方

外国語及び外国語によるコミュニケーションを文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、多様な他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自らの考えを伝え、相互理解を図ること

英語の目標

英語によるコミュニケーションを図る資質・能力を、コミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して、次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
英語の特徴やきまりを理解するとともに、これらの知識を、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、様々な話題について、英語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	英語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、他者との対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を深めようとする態度を養う。

内容

思考力、判断力、表現力等

（総合的な発揮）
コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、様々な話題について、
・情報や考えなどを捉え、整理したり、既存の知識などと関連付けたりすることができる。【理解する】
・情報や自分の考えなどを整理し、表現等を工夫して伝えることができる。【表現する】
・相手の考えなどを受け止めながら、情報や自分の考えなどを整理し、表現等を工夫して伝え合うことができる。【伝え合う】

知識及び技能

（統合的な理解）
英語の特徴やきまりに関する知識を、コミュニケーションの中で組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質が高まることを理解している。

		第１学年相当	第２学年相当	第３学年相当
聞くこと	話題	日常的な話題について 身近な社会的な話題について　※後半以降を想定		
	条件	簡単な語句や文で、はっきりと話されれば		
	できること	（ア）必要な情報を聞き取ることができる （イ）概要を捉えることができる （ウ）要点を捉えることができる		
読むこと	条件	簡単な語句や文で書かれた		
	できること	（ア）必要な情報を読み取ることができる （イ）概要を捉えることができる （ウ）要点を捉えることができる		
話すこと（やり取り） 話すこと（発表）	話題	日常的な話題について（身近な話題について、（自分にとって）興味・関心のある話題について） 身近な社会的な話題について　※後半以降を想定		
	条件	簡単な語句や文を用いて		
	できること	（ア）自分の考えや気持ちなどを即興で伝え合うことができる（※身近な社会的な話題については対象としない） （イ）事実や自分の考え、気持ちなどを整理し伝え合うことができる （ウ）聞いたり読んだりしたことを基に、考えたことや感じたこと、その理由などを伝え合うことができる （ア）自分の考えや気持ちなどを即興で話すことができる（※身近な社会的な話題については対象としない） （イ）事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことができる （ウ）聞いたり読んだりしたことを基に、考えたことや感じたこと、その理由などを話すことができる		
書くこと	できること	（ア）情報や自分の考え、気持ちなどを文で書くことができる （イ）事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができる （ウ）聞いたり読んだりしたことを基に、考えたことや感じたこと、その理由などを書くことができる		
英語の特徴やきまりに関する事項	ア　音声	音声の特徴を理解し、読んだり話したりする際に活用できる。聞いて意味を捉える際に、音声の特徴についての知識を活用できる ・・・		
	イ　符号	符号の意味や使い方を理解し、読んだり書いたりする際に活用できる ・・・		
	ウ　語、連語及び慣用表現	語、連語及び慣用表現の意味や使い方を理解し、聞いたり読んだりする際に活用できる。頻度の高いものについては、話したり書いたりする際にも、活用できる ・・・		
	エ　文、文構造及び文法事項	文、文構造及び文法事項の意味や使い方を理解し、聞いたり読んだり、話したり書いたりする際に活用できる ・文　・・・ ・文構造　・・・ ・文法事項　・・・		

【オレンジ枠】
各学校が単元の目標（評価規準）を設定する際に基にする部分

【水色枠】
国が「内容のまとまりごとの評価規準例」を作成する際の「内容のまとまり」

資質・能力の関係性の整理イメージ（中学校の例）

※以下は並行パターンとして知・技と思・判・表の関係性を整理するために作成したものであり、活動や指導の順序性、評価場面等を示しているものではない。

思考力、判断力、表現力等

個別の思考力、判断力、表現力等

外国語によるコミュニケーションを行う**目的や場面、状況などに応じて**
コミュニケーションの目的を達成するために聞いたり、読んだり、話したり、書いたりできる力



思・判・表
（例）内容の[聞くこと]（イ）
身近な社会的な話題について
簡単な語句や文で、
はっきりと話されれば
概要を捉えることができる



思・判・表
（例）内容の[書くこと]（ア）
日常的な話題について
簡単な語句や文を用いて
情報や自分の考え、気持ちなどを
文で書くことができる

「①コミュニケーション活動」**（聞く・読む・話す・書く）**で育成

資質・能力の「深まり」

思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮

複雑な課題の解決に向けて、思考力、判断力、表現力等を
組み合わせたり選んだりして総合的に働かせた姿

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、様々な話題について、相手の考えなどを受け止めながら、情報や自分の考えなどを整理し、表現等を工夫して伝え合うことができる　など

思・判・表　思・判・表　思・判・表

知・技を活用しながら、実際のコミュニケーションで目的を達成できる思考力、判断力、表現力等

学習評価の対象となる部分

※当面は「統合的な理解」「総合的な発揮」の育成状況自体について一律に直接的な評価を行うことは求めず、「統合的な理解」「総合的な発揮」は各学校における単元構想を含む指導・評価の計画や実施の質を構造的に支える役割を果たすものとして整理
※知技と思判表を同一のパフォーマンステスト等で評価することも引き続き可能（具体的には評価参考資料の作成の際に検討）

資質・能力の「一体的育成」

資質・能力の「一体的育成」

知識及び技能

個別の知識や技能

話や文章などの中で、音声や語彙、表現、文構造及び文法等を理解し（知識）、活用できる力（技能）



知・技
（例）語彙や表現、文構造
及び文法事項を、
英語で読む際に活用できる



知・技
（例）音声や語彙、表現、
文構造及び文法事項を、
英語で話す際に活用できる

「②コミュニケーション活動を支える活動」**（聞く・読む・話す・書く）**で育成
※「①コミュニケーション活動」で活用することによっても深まる

資質・能力の「深まり」

知識及び技能に関する統合的な理解

知・技が相互に関連付けられて一般化され、
統合的な理解となった姿

英語の特徴やきまりに関する知識を、コミュニケーションの中で組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質が高まることを理解している

知・技　知・技　知・技

実際のコミュニケーションで活用できる知識及び技能

英語の目標・高校の科目目標と「統合的な理解」「総合的な発揮」

見方・考え方

見方
考え方

外国語及び外国語によるコミュニケーションを
文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、
多様な他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自らの考えを伝え、相互理解を図ること

英語の目標 高校の科目目標

小学校 外国語活動	小学校 外国語	中学校	高等学校(英コミュ(総合)Ⅰ)(仮称)
英語によるコミュニケーションを図る素地となる資質・能力を、コミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して、次のとおり育成することを目指す。	英語によるコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を、コミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して、次のとおり育成することを目指す。	英語によるコミュニケーションを図る資質・能力を、コミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して、次のとおり育成することを目指す。	英語によるコミュニケーションを図る資質・能力を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと及びこれらを結び付けた統合的なコミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して、次のとおり育成することを目指す。

内容

思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮

小学校 外国語活動	小学校 外国語	中学校	高等学校（英コミュ（総合）Ⅰ）（仮称）
ごく身近な事柄について、 ・情報などを聞き、内容を捉えようとしている。【理解する】 ・相手を意識しながら、自分の考えなどを話して伝えようとしている。【表現する】 ・相手を意識しながら、自分の考えなどを伝え合おうとしている。【伝え合う】	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近な事柄について、 ・聞いて情報を整理し、音声で十分に慣れ親しんだ表現等の意味を考えながら読むことができる。【理解する】 ・自分の考えなどを整理し、表現等を選んで相手に話して伝えるとともに、音声で十分に慣れ親しんだ表現等を用いて、書いて伝えることができる。【表現する】 ・相手の考えなどを踏まえ、自分の考えなどを、表現等を選んで伝え合うことができる。【伝え合う】	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、様々な話題について、 ・情報や考えなどを捉え、整理したり、既存の知識などと関連付けたりすることができる。【理解する】 ・情報や自分の考えなどを整理し、表現等を工夫して伝えることができる。【表現する】 ・相手の考えなどを受け止めながら、情報や自分の考えなどを整理し、表現等を工夫して伝え合うことができる。【伝え合う】	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、 ・基本的な構成や論理の展開を用いている文章や話から情報や考えなどを捉え、整理したり、既存の知識などと関連付けたりして、自分の考えを形成することができる。【理解する】 ・情報や自分の考えなどを整理し、内容のまとまりなどを意識しながら表現等を工夫して伝えることができる。【表現する】 ・相手の考えなどを受け止めながら、情報や自分の考えなどを整理し、内容のまとまりなどを意識しながら表現等を工夫して伝え合うことができる。【伝え合う】

知識及び技能に関する統合的な理解

小学校 外国語活動	小学校 外国語	中学校	高等学校（英コミュ（総合）Ⅰ）（仮称）
音声や基本的な表現に慣れ親しむことで、日本語と外国語の音声の違い等に気付くとともに、言語や文化の違いや共通点を体験的に理解している。	英語の特徴やきまりに関する知識を、コミュニケーションの中で組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質が高まることを理解している。	英語の特徴やきまりに関する知識を、コミュニケーションの中で組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質が高まることを理解している。	英語の特徴やきまりに関する知識を、コミュニケーションの中で組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質が高まることを理解している。

※告示や解説を示すにあたり引き続き検討

構造化のイメージ（小・外国語活動の例）

外国語活動の目標　外国語によるコミュニケーションを図る素地となる資質・能力を、コミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して、次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。	ごく身近な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。	外国語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、粘り強く自分の考えや気持ちを伝えるとともに、相手を理解しようとする態度を養う。

見方・考え方　外国語及び外国語によるコミュニケーションを文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、多様な他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自らの考えを伝え、相互理解を図ること

英語の目標　英語によるコミュニケーションを図る素地となる資質・能力を、コミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して、次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
英語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、英語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。	ごく身近な事柄について、英語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。	英語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、粘り強く自分の考えや気持ちを伝えるとともに、相手を理解しようとする態度を養う。

内容

				第３学年相当	第４学年相当
思考力、判断力、表現力等	（総合的な発揮） ごく身近な事柄について、 ・情報などを聞き、内容を捉えようとしている。【理解する】 ・相手を意識しながら、自分の考えなどを話して伝えようとしている。【表現する】 ・相手を意識しながら、自分の考えなどを伝え合おうとしている。【伝え合う】	聞くこと	話題	相手のことや身の回りの物について	ごく身近な事柄について
			条件	ゆっくりはっきりと話されれば	
			できること	（ア）簡単な語句や基本的な表現を聞き取ろうとしている	
		話すこと（やり取り）	話題	基本的なやり取りに関する事柄について 自分のことや身の回りの物について	自分や相手のこと及びごく身近な事柄について
			条件	簡単な語句や基本的な表現を用いて	
			できること	（ア）挨拶、感謝、指示をしたりそれらに応じたりしようとしている （※基本的なやり取りに関する事柄に対応） （イ）動作を交えながら、自分の考えや気持ちを伝え合おうとしている （※自分のことや身の回りの物に対応） （ウ）サポートを受けて、質問をしたり質問に答えたりしようとしている （※自分や相手のこと及びごく身近な事柄）	（思・判・表）現行の英語の領域別目標を基に、話題とできることについて段階的に示す
		話すこと（発表）	話題	自分のことや身の回りの物について	ごく身近な事柄について
			条件	簡単な語句や基本的な表現を用いて	
			できること	（ア）人前で実物などを見せながら、話そうとしている	
知識及び技能	（統合的な理解） 音声や基本的な表現に慣れ親しむことで、日本語と外国語の音声の違い等に気付くとともに、言語や文化の違いや共通点を体験的に理解している。	英語の特徴等に関する事項	ア　音声	英語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いに気付く	文字の取扱い（知・技）について丁寧に示す
			イ　文字	文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるかが分かる ・文字の名称を表す読み方を聞いて、大文字や小文字と結びつけられる ・身の回りの物を表す語句の発音を聞いて、何を指しているか分かる	
		文化に関する事項		・日本と外国との生活や習慣、行事などの違いを知り、多様な考え方があることに気付く ・異なる文化を持つ人々との交流などを体験し、文化等に関する理解を深める	

※内容の具体的な文言及び学年内における「できること」の段階付けを含め、告示や解説を示すにあたり別途検討
※校種間の接続のための留意事項（各学校段階で身に付けさせるべき事項と、前学校種からの学びの接続のために重点をおいて指導すべき事項）については主として「内容の取扱い」に記載する（小学校外国語科、中学校も同様）

構造化のイメージ（小・外国語の例）

外国語の目標

外国語によるコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を、コミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して、次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
外国語の特徴やきまりを理解するとともに、読むこと、書くことにおいて慣れ親しみ、これらの知識を実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を読んだり書いたりして伝え合うことができる基礎的な力を養う。	外国語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、他者との対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を図ろうとする態度を養う。

見方・考え方

外国語及び外国語によるコミュニケーションを文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、多様な他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自らの考えを伝え、相互理解を図ること

英語の目標

英語によるコミュニケーションを図る素地となる資質・能力を、コミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して、次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
英語の特徴やきまりを理解するとともに、読むこと、書くことにおいて慣れ親しみ、これらの知識を実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ英語の語彙や基本的な表現を読んだり書いたりして伝え合うことができる基礎的な力を養う。	英語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、他者との対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を図ろうとする態度を養う。

内容

				第５学年相当	第６学年相当
思考力、判断力、表現力等	（総合的な発揮） コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近な事柄について、 ・聞いて情報を整理し、音声で十分に慣れ親しんだ表現等の意味を考えながら読むことができる。【理解する】 ・自分の考えなどを整理し、表現等を選んで相手に話して伝えるとともに、音声で十分に慣れ親しんだ表現等を用いて、書いて伝えることができる。【表現する】 ・相手の考えなどを踏まえ、自分の考えなどを、表現等を選んで伝え合うことができる。【伝え合う】	聞くこと	話題	相手のことや身近な事柄について	
			条件	ゆっくりはっきりと話されれば	
			できること	（ア）簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることができる （イ）具体的な情報を聞き取ることができる　※後半以降を想定	（ウ）短い話の概要を捉えることができる
		読むこと	話題	自分のことや相手のことについて 身近な事柄について　※後半以降を想定	
			条件	音声で十分に慣れ親しんだ上で	
			できること	（ア）簡単な語句や基本的な表現を読んでその意味を捉えることができる	（イ）簡単な語句や基本的な表現から具体的な情報を読み取ることができる
		話すこと（やり取り）	話題	基本的なやり取りに関する事柄について 自分のことや相手のこと及び身近な事柄について	
			条件	簡単な語句や基本的な表現を用いて	
			できること	（ア）　挨拶をしたり、指示や依頼に応じたりすることができる（※基本的なやり取りに関する事柄に対応） （イ）　自分の考えや気持ちなどを述べ合うことができる（※自分のことや相手のこと及び身近な事柄に対応）	（ウ）その場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができる（※自分のことや相手のこと及び身近な事柄に対応）
		話すこと（発表）	話題	自分のことや相手のこと及び身近な事柄について	
			条件	簡単な語句や基本的な表現を用いて	
			できること	（ア ）自分の考えや気持ちを話すことができる	（イ）自分の考えや気持ちを伝えようとする内容を整理した上で、話すことができる
		書くこと	話題	自分のことや相手のことについて 身近な事柄について　※後半以降を想定	
			条件	音声で十分に慣れ親しんだ上で	
			できること	（ア）自分の考えや気持ちなどを表す語句を選んで書き写すことができる	（イ）例となる語句や表現を参考に、自分の考えや気持ちなどを書くことができる
知識及び技能	（統合的な理解） 英語の特徴やきまりに関する知識を、コミュニケーションの中で組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質が高まることを理解している。	英語の特徴等に関する事項	ア　音声	音声の特徴を理解し、読んだり話したりする際に活用できる。また、聞いたり話したりする際に、音声の特徴に気付き、活用できる ・・・	
			イ　文字及び符号	英語の文字を識別し、その読み方を発音したり、大文字、小文字を書いたりできるようにすることができる。また、符号の使い方を理解し、読んだり書いたりする際に活用できる ・大文字や小文字の形を認識し、名称の読み方を発音することができる ・音声と文字との関係に慣れ親しんだり、音声と語句や表現を結びつけたりすることができる ・コミュニケーションを行うために文字を書くことを意識させ、文字の形や長さなどを理解して、丁寧に語句や表現を書き写すことができる ・終止符や疑問符、コンマなどの基本的な符号の使い方を理解することができる	
			ウ　語、連語及び慣用表現	語、連語及び慣用表現について、音声を中心に意味を理解し、聞いたり読んだり、話したり書いたりする際に活用できる ・・・	
			エ　文及び文構造	日本語と英語の語順の違い等に気付くとともに、意味や使い方を理解して活用できる。なお、文を書き写す際には、語と語の区切りに注意して書き写すことができる ・文　・・・ ・文構造　・・・	

（思・判・表）現行の英語の領域別目標を基に、話題とできることについて段階的に示す

読むことについて丁寧に示す

書くことについて丁寧に示す

文字の取扱いについて丁寧に示す

※内容の具体的な文言及び学年内における「できること」の段階付けを含め、告示や解説を示すにあたり別途検討

構造化のイメージ（中学校の例）

外国語の目標

外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力を、コミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して、次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
外国語の特徴やきまりを理解するとともに、これらの知識を、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、様々な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	外国語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、他者との対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を深めようとする態度を養う。

見方・考え方

外国語及び外国語によるコミュニケーションを文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、多様な他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自らの考えを伝え、相互理解を図ること

英語の目標

英語によるコミュニケーションを図る資質・能力を、コミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して、次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
英語の特徴やきまりを理解するとともに、これらの知識を、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、様々な話題について、英語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	英語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、他者との対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を深めようとする態度を養う。

内容

				第１学年相当	第２学年相当	第３学年相当
思考力、判断力、表現力等	（総合的な発揮） コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、様々な話題について、 ・情報や考えなどを捉え、整理したり、既存の知識などと関連付けたりすることができる。【理解する】 ・情報や自分の考えなどを整理し、表現等を工夫して伝えることができる。【表現する】 ・相手の考えなどを受け止めながら、情報や自分の考えなどを整理し、表現等を工夫して伝え合うことができる。【伝え合う】		話題	日常的な話題について 身近な社会的な話題について　※後半以降を想定		
		聞くこと	条件	簡単な語句や文で、はっきりと話されれば		
			できること	（ア）必要な情報を聞き取ることができる （イ）概要を捉えることができる （ウ）要点を捉えることができる		
		読むこと	条件	簡単な語句や文で書かれた		
			できること	（ア）必要な情報を読み取ることができる （イ）概要を捉えることができる （ウ）要点を捉えることができる		
		話すこと（やり取り）	話題	日常的な話題について（身近な話題について、（自分にとって）興味・関心のある話題について）	身近な社会的な話題について　※後半以降を想定	
			条件	簡単な語句や文を用いて		
		話すこと（発表）	できること	（ア）自分の考えや気持ちなどを即興で伝え合うことができる（※身近な社会的な話題については対象としない） （イ）事実や自分の考え、気持ちなどを整理し伝え合うことができる （ウ）聞いたり読んだりしたことを基に、考えたことや感じたこと、その理由などを伝え合うことができる （ア）自分の考えや気持ちなどを即興で話すことができる（※身近な社会的な話題については対象としない） （イ）事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことができる （ウ）聞いたり読んだりしたことを基に、考えたことや感じたこと、その理由などを話すことができる		
		書くこと		（ア）情報や自分の考え、気持ちなどを文で書くことができる （イ）事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができる （ウ）聞いたり読んだりしたことを基に、考えたことや感じたこと、その理由などを書くことができる		
知識及び技能	（統合的な理解） 英語の特徴やきまりに関する知識を、コミュニケーションの中で組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質が高まることを理解している。	英語の特徴やきまりに関する事項	ア　音声	音声の特徴を理解し、読んだり話したりする際に活用できる。聞いて意味を捉える際に、音声の特徴についての知識を活用できる ・・・		
			イ　符号	符号の意味や使い方を理解し、読んだり書いたりする際に活用できる ・・・		
			ウ　語、連語及び慣用表現	語、連語及び慣用表現の意味や使い方を理解し、聞いたり読んだりする際に活用できる。頻度の高いものについては、話したり書いたりする際にも、活用できる ・・・		
			エ　文、文構造及び文法事項	文、文構造及び文法事項の意味や使い方を理解し、聞いたり読んだり、話したり書いたりする際に活用できる ・文　・・・ ・文構造　・・・ ・文法事項　・・・		

（思・判・表）現行の英語の領域別目標を基に、話題とできることについて段階的に示す

※内容の具体的な文言及び学年内における「できること」の段階付けを含め、告示や解説を示すにあたり別途検討

構造化のイメージ（高・英語コミュニケーション（総合）Ⅰ（仮称）の例）

外国語の目標

外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力を、コミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して、次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
外国語の特徴やきまりを理解するとともに、これらの知識を、実際のコミュニケーションにおいて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、外国語で情報や考えなどを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	外国語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、他者との対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を深め、外国語の習得に継続して取り組もうとする態度を養う。

見方・考え方

外国語及び外国語によるコミュニケーションを文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、多様な他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自らの考えを伝え、相互理解を図ること

英コミュ（総合）Ⅰ（仮称）の目標

英語によるコミュニケーションを図る資質・能力を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと及びこれらを結び付けた統合的なコミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動を通して、次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
英語の特徴やきまりの理解を深めるとともに、これらの知識を、実際のコミュニケーションにおいて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、英語で基本的な構成や論理の展開を用いている文章や話から情報や考えなどを理解したり、これらを活用して、情報や考えなどを、内容のまとまりなどを意識しながら表現等を工夫して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	英語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、他者との対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を深め、外国語の習得に継続して取り組もうとする態度を養う。

内容

思考力、判断力、表現力等

（総合的な発揮）
コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、
・基本的な構成や論理の展開を用いている文章や話から情報や考えなどを捉え、整理したり、既存の知識などと関連付けたりして、自分の考えを形成することができる。【理解する】
・情報や自分の考えなどを整理し、内容のまとまりなどを意識しながら表現等を工夫して伝えることができる。【表現する】
・相手の考えなどを受け止めながら、情報や自分の考えなどを整理し、内容のまとまりなどを意識しながら表現等を工夫して伝え合うことができる。【伝え合う】

聞くこと	話題	日常的な話題について 身近なものを含む社会的な話題について
	条件	話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、必要に応じて支援を活用すれば、対話や基本的な構成の叙述、説明、放送、意見などを聞いて、
	できること	（ア）話し手の意図を把握することができる（※日常的な話題に対応） （イ）概要や要点を目的に応じて捉えることができる（※身近なものを含む社会的な話題に対応）
読むこと	条件	使用される語句や文、情報量などにおいて、必要に応じて支援を活用すれば、基本的な構成の叙述文、説明文、意見文などを読んで、
	できること	（ア）書き手の意図を把握することができる（※日常的な話題に対応） （イ）概要や要点を目的に応じて捉えることができる（※身近なものを含む社会的な話題に対応）
話すこと（やり取り）	条件	使用する語句や文、対話の展開などにおいて、必要に応じて支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、
	できること	（ア）情報や自分の考え、気持ちなどを、即興で話して伝え合うやり取りを続けることができる （※日常的な話題に対応） （イ）聞いたり読んだりしたことを基に、情報や自分の考え、気持ちなどを整理し、内容のまとまりなどを意識しながら表現等を工夫して話して伝え合うやりとりができる
話すこと（発表）	条件	使用する語句や文、事前の準備などにおいて、必要に応じて支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、
	できること	（ア）情報や自分の考え、気持ちなどを整理し、内容のまとまりなどを意識しながら表現等を工夫して話して伝えることができる （イ）聞いたり読んだりしたことを基に、情報や自分の考え、気持ちなどを整理し、内容のまとまりなどを意識しながら表現等を工夫して話して伝えることができる
書くこと	条件	使用する語句や文、事前の準備などにおいて、必要に応じて支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて
	できること	（ア）情報や自分の考え、気持ちなどを整理し、内容のまとまりなどを意識しながら表現等を工夫して書いて伝えることができる （イ）聞いたり読んだりしたことを基に、情報や自分の考え、気持ちなどを整理し、内容のまとまりなどを意識しながら表現等を工夫して書いて伝えることができる

社会的な話題に中学校との接続の観点から「身近なもの」を位置付け

「聞くこと」「読むこと」ではテキストのバリエーションを示す

知識及び技能

（統合的な理解）
英語の特徴やきまりに関する知識を、コミュニケーションの中で組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質が高まることを理解している。

英語の特徴やきまりに関する事項	ア 音声	音声の特徴を理解し、読んだり話したりする際に活用できる。聞いて意味を捉える際に、音声の特徴についての知識を活用できる ・・・
	イ 符号	符号の意味や使い方を理解し、読んだり書いたりする際に活用できる ・・・
	ウ 語、連語及び慣用表現	語、連語及び慣用表現の意味や使い方を理解でき、聞いたり読んだりする際に活用できる。頻度の高いものについては、話したり書いたりする際にも活用できる ・・・
	エ 文、文構造及び文法事項	文、文構造及び文法事項の意味や使い方を理解し、聞いたり読んだり、話したり書いたりする際に活用できる ・文 ・・・ ・文構造 ・・・ ・文法事項 ・・・

※内容の具体的な文言及び科目内における「できること」の段階付けを含め、告示や解説を示すにあたり別途検討

構造化のイメージ（高・英語コミュニケーション（発信）Ⅰ（仮称）の例）

外国語の目標

外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力を、コミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して、次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
外国語の特徴やきまりの理解を深めるとともに、これらの知識を実際のコミュニケーションにおいて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、外国語で情報や考えなどを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	外国語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、他者との対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を深め、外国語の習得に継続して取り組もうとする態度を養う。

見方・考え方

外国語及び外国語によるコミュニケーションを文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、多様な他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自らの考えを伝え、相互理解を図ること

英コミュ（発信）Ⅰ（仮称）の目標

英語によるコミュニケーションを図る資質・能力を、話すこと、書くこと及びこれらを聞くこと、読むことと結び付けた統合的なコミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して、次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
英語の特徴やきまりの理解を深めるとともに、これらの知識を、実際のコミュニケーションにおいて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、英語で情報や考え、意見や主張などを、構成や表現等を工夫して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	英語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、他者との対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を深め、外国語の習得に継続して取り組もうとする態度を養う。

内容

思考力、判断力、表現力等

（総合的な発揮）
コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、
・情報や自分の考え、意見や主張などを整理し、構成や表現等を工夫して、伝えることができる。【表現する】
・相手の考えなどを受け止めながら、情報や自分の考え、意見や主張などを、構成や表現等を工夫して伝え合うことができる。【伝え合う】

話すこと（やり取り）	話題	日常的な話題について 身近なものを含む社会的な話題について
	条件	使用する語句や文、対話の展開などにおいて、必要に応じて支援を活用すれば、多様な基本的な語句や文を用いて
	できること	（ア）情報や自分の考え、気持ちなどを即興で伝え合うやり取りが円滑に進むように方策を講じながら、会話を継続することができる（※日常的な話題に対応） （イ）やり取りを通して必要な情報を得ることができる（※日常的な話題に対応） （ウ）ディスカッションやディベートにおいて、聞いたり読んだりして得られた情報や考えなどを活用しながら、構成や表現等を工夫して、情報や意見、主張などを話して伝え合うことができる
話すこと（発表）	条件	使用する語句や文、事前の準備などにおいて、必要に応じて支援を活用すれば、多様な基本的な語句や文を用いて
	できること	（ア）情報や自分の考え、気持ちなどを整理し、構成や表現等を工夫して話して伝えることができる（※日常的な話題に対応） （イ）スピーチやプレゼンテーションなどにおいて、聞いたり読んだりして得られたことを活用しながら、構成や表現等を工夫して、情報や自分の意見、主張などを話して伝えることができる
書くこと	条件	使用する語句や文、事前の準備などにおいて、必要に応じて支援を活用すれば、多様な基本的な語句や文を用いて
	できること	（ア）オンライン上などで、情報や自分の考え、気持ちなどを書いて伝え合うやり取りを行うことができる（※日常的な話題に対応） （イ）情報や自分の考え、気持ちなどを整理し、構成や表現等を工夫して叙述文、説明文、意見文などを書いて伝えることができる （ウ）聞いたり読んだりして得られた情報や考えなどを活用しながら、構成や表現等を工夫して、叙述文、説明文、意見文などの形式で、情報や意見、主張などを書いて伝えることができる

「話すこと（やりとり）」に日常的な会話を位置付け

「書くこと」にやり取りを位置付け

知識及び技能

（統合的な理解）
英語の特徴やきまりに関する知識を、コミュニケーションの中で組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質が高まることを理解している。

英語の特徴やきまりに関する事項 ア 音声	音声の特徴を理解し、話す際に活用できる ・・・
英語の特徴やきまりに関する事項 イ 符号	符号の意味や使い方を理解し、書く際に活用できる ・・・
英語の特徴やきまりに関する事項 ウ 語、連語及び慣用表現	語、連語及び慣用表現の意味や使い方を理解し、話したり書いたりする際に活用できる ・・・
英語の特徴やきまりに関する事項 エ 文、文構造及び文法事項	文、文構造及び文法事項の意味や使い方を理解し、話したり書いたりする際に活用できる ・・・
英語の特徴やきまりに関する事項 オ 文章の構成、論理の展開及び表現	様々な論理の構成・展開及びそれらに応じた表現を理解し、話したり書いたりする際に活用できる ・・・

論理の構成・展開の具体的な内容を充実

※内容の具体的な文言及び科目内における「できること」の段階付けを含め、告示や解説を示すにあたり別途検討

高・英語コミュニケーション（総合）（仮称）の目標と「統合的な理解」「総合的な発揮」

外国語の目標　外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力を、コミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して、次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
外国語の特徴やきまりを理解するとともに、これらの知識を、実際のコミュニケーションにおいて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、外国語で情報や考えなどを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	外国語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、他者との対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を深め、外国語の習得に継続して取り組もうとする態度を養う。

見方・考え方　外国語及び外国語によるコミュニケーションを文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、多様な他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自らの考えを伝え、相互理解を図ること

※下線は高・外国語の目標との主な相違点

英コミュ（総合）Ⅰ（仮称）

英語によるコミュニケーションを図る資質・能力を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと及びこれらを結び付けた統合的なコミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動を通して、次のとおり育成することを目指す。

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
目標	英語の特徴やきまりの理解を深めるとともに、これらの知識を、実際のコミュニケーションにおいて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、英語で基本的な構成や論理の展開を用いている文章や話から情報や考えなどを理解したり、これらを活用して、情報や考えなどを、内容のまとまりなどを意識しながら表現等を工夫して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	英語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、他者との対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を深め、外国語の習得に継続して取り組もうとする態度を養う。
総合的な発揮	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、 ・基本的な構成や論理の展開を用いている文章や話から情報や考えなどを捉え、整理したり、既存の知識などと関連付けたりして、自分の考えを形成することができる。【理解する】 ・情報や自分の考えなどを整理し、内容のまとまりなどを意識しながら表現等を工夫して伝えることができる。【表現する】 ・相手の考えなどを受け止めながら、情報や自分の考えなどを整理し、内容のまとまりなどを意識しながら表現等を工夫して伝え合うことができる。【伝え合う】		
統合的な理解	英語の特徴やきまりに関する知識を、コミュニケーションの中で組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質が高まることを理解している。		

英コミュ（総合）Ⅱ（仮称）

「英コミュ（総合）Ⅰ（仮称）」で育成した資質・能力を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと及びこれらを結び付けた統合的なコミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動を通して、次のとおり更に伸ばすことを目指す。

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
目標	※英コミュ（総合）Ⅰ（仮称）と同様	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、英語で多様な構成や論理の展開を用いている文章や話から情報や考えなどを理解したり、これらを活用して、情報や考えなどを、基本的な構成等を用いながら表現等を工夫して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	※英コミュ（総合）Ⅰ（仮称）と同様
総合的な発揮	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、 ・多様な構成や論理の展開を用いている文章や話から情報や考えなどを捉え、整理したり、既存の知識などと関連付けたりして、自分の考えを形成することができる。【理解する】 ・情報や自分の考えなどを整理し、基本的な構成等を用いながら表現等を工夫して伝えることができる。【表現する】 ・相手の考えなどを受け止めながら、情報や自分の考えなどを整理し、基本的な構成等を用いながら表現等を工夫して伝え合うことができる。【伝え合う】		
統合的な理解	※英コミュ（総合）Ⅰ（仮称）と同様		

英コミュ（総合）Ⅲ（仮称）

「英コミュ（総合）Ⅱ（仮称）」で育成した資質・能力を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと及びこれらを結び付けた統合的なコミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動を通して、次のとおり更に伸ばすことを目指す。

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
目標	※英コミュ（総合）Ⅰ（仮称）と同様	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、英語でやや複雑で多様な構成や論理の展開を用いている文章や話から情報や考えなどを理解したり、これらを活用して、情報や考えなどを、構成や表現等を工夫して詳しく表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	※英コミュ（総合）Ⅰ（仮称）と同様
総合的な発揮	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、 ・やや複雑で多様な構成や論理の展開を用いている文章や話から情報や考えなどを捉え、整理したり、既存の知識などと関連付けたりして、自分の考えを形成することができる。【理解する】 ・情報や自分の考えなどを整理し、構成や表現等を工夫して詳しく伝えることができる。【表現する】 ・相手の考えなどを受け止めながら、情報や自分の考えなどを整理し、構成や表現等を工夫して詳しく伝え合うことができる。【伝え合う】		
統合的な理解	※英コミュ（総合）（仮称）Ⅰと同様		

※告示や解説を示すにあたり引き続き検討

高・英語コミュニケーション（発信）（仮称）の目標と「統合的な理解」「総合的な発揮」

外国語の目標

外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力を、コミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して、次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
外国語の特徴やきまりの理解を深めるとともに、これらの知識を実際のコミュニケーションにおいて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、外国語で情報や考えなどを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	外国語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、他者との対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を深め、外国語の習得に継続して取り組もうとする態度を養う。

見方・考え方

外国語及び外国語によるコミュニケーションを文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、多様な他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自らの考えを伝え、相互理解を図ること

※下線は高・英語コミュニケーション（総合）（仮称）との主な相違点

英コミュ（発信）Ⅰ（仮称）

英語によるコミュニケーションを図る資質・能力を、話すこと、書くこと及びこれらを聞くこと、読むことと結び付けた統合的なコミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して、次のとおり育成することを目指す。

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
目標	英語の特徴やきまりの理解を深めるとともに、これらの知識を、実際のコミュニケーションにおいて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、英語で情報や考え、意見や主張などを、構成や表現等を工夫して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	英語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、他者との対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を深め、外国語の習得に継続して取り組もうとする態度を養う。
総合的な発揮	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、 ・情報や自分の考え、意見や主張などを整理し、構成や表現等を工夫して伝えることができる。【表現する】 ・相手の考えなどを受け止めながら、情報や自分の考え、意見や主張などを整理し、構成や表現等を工夫して伝え合うことができる。【伝え合う】		
統合的な理解	英語の特徴やきまりに関する知識を、コミュニケーションの中で組み合わせて使うことにより、英語による理解や表現の質が高まることを理解している。		

英コミュ（発信）Ⅱ（仮称）

「英コミュ（発信）Ⅰ（仮称）」で育成した資質・能力を、話すこと、書くこと及びこれらを聞くこと、読むことと結び付けた統合的なコミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して、次のとおり更に伸ばすことを目指す。

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
目標	※英コミュ（発信）Ⅰ（仮称）と同様	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、英語で情報や考え、意見や主張などを、構成や論理の展開、表現等を工夫して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	※英コミュ（発信）Ⅰ（仮称）と同様
総合的な発揮	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、 ・情報や自分の考え、意見や主張などを整理し、構成や論理の展開、表現等を工夫して伝えることができる。【表現する】 ・相手の考えを受け止めながら、情報や自分の考え、意見や主張などを整理し、構成や論理の展開、表現等を工夫して伝え合うことができる。【伝え合う】		
統合的な理解	※英コミュ（発信）Ⅰ（仮称）と同様		

英コミュ（発信）Ⅲ（仮称）

「英コミュ（発信）Ⅱ（仮称）」で育成した資質・能力を、話すこと、書くこと及びこれらを聞くこと、読むことと結び付けた統合的なコミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して、次のとおり更に伸ばすことを目指す。

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
目標	※英コミュ（発信）Ⅰ（仮称）と同様	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、英語で情報や考え、意見や主張などを、構成や論理の展開、表現等を工夫して詳しく表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	※英コミュ（発信）Ⅰ（仮称）と同様
総合的な発揮	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、 ・情報や自分の考え、意見や主張などを整理し、構成や論理の展開、表現等を工夫して詳しく伝えることができる。【表現する】 ・相手の考えを受け止めながら、情報や自分の考え、意見や主張などを整理し、構成や論理の展開、表現等を工夫して詳しく伝え合うことができる。【伝え合う】		
統合的な理解	※英コミュ（発信）Ⅰ（仮称）と同様		

※告示や解説を示すにあたり引き続き検討

産業教育の目標、見方・考え方（素案）

目標

地域や社会、産業の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力について、実践的・探究的な学びを行うことなどを通して、次のとおり育成することを目指す。

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
産業教育	各職業分野について社会的な意義や役割を踏まえ、体系的・系統的に理解するとともに、各職業分野の発展及び職業人としての自己の成長のために必要となる技能を身に付けるようにする。	各職業分野に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて探究するとともに、職業人としての倫理観を踏まえ、合理的かつ創造的に解決する力を養う。	① 各職業分野の事象に主体的・協働的に関わり、職業人としての視点から、問いを見いだし、よりよい解決に向け追求し続けようとする態度を養う。 ② 職業人としての倫理観と豊かな人間性を育むとともに、社会の一員として産業の発展に寄与し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

※産業教育の目標、見方・考え方を踏まえ、各教科において更に検討。

見方・考え方

- 社会や産業に関する事象を、職業に関する各教科の本質に根差した視点で捉え、職業人としての自己の成長と、社会や産業の発展につなげること。

＜各教科における見方・考え方の整理（イメージ）＞

農業	農業や農業関連産業に関する事象を、生産・環境・資源の統合的な視点で捉え、職業人としての自己の成長と、農業や農業関連産業の持続的な発展につなげること
工業	工業に関する事象を、よりよいものづくりを創出する視点で捉え、職業人としての自己の成長と、社会の発展につなげること
商業	企業活動に関する事象を、利益の追求と社会的責任の視点で捉え、職業人としての自己の成長と、ビジネスの持続的な発展につなげること
水産	水産や海洋に関する事象を、海洋資源を持続的に利用する視点で捉え、職業人としての自己の成長と、水産業及び海洋関連産業の持続的な発展につなげること
家庭	生活産業に関する事象を、生活の質の向上の視点で捉え、職業人としての自己の成長と、生活産業の発展につなげること
看護	人間の健康に関する事象を、回復や増進の視点で捉え、職業人としての自己の成長と、健康的な生活・環境の実現や地域医療の発展につなげること
情報	情報に関する事象を、情報の構造と働きに着目して、課題解決や価値創造の視点で捉え、職業人としての自己の成長と、情報及び情報技術を活用したよりよい社会の実現につなげること
福祉	生活に関する事象を、人間の尊厳と自立の視点で捉え、職業人としての自己の成長と、地域福祉の推進につなげること

「統合的な理解・総合的な発揮」の設定の趣旨やねらい

①統合的な理解では、職業に関する教科であるからこそ、その学びが実社会・実生活にどのようにつながり、どのように活かすことができるのかという視点を特に重視。

②総合的な発揮では、科学的根拠をもって考察する視点を重視。これにより、情報技術を活用し、データサイエンスやAI等を用いて科学的根拠を見いだし、それをもとに課題の発見・解決に当たっていく授業づくりを促す。

③ 変化の激しい社会の中で、職業人として自ら主体的に判断し、新たな世界や社会を切り拓いていくことができるよう、合理的かつ創造的な課題解決の視点を重視。これにより、単に既存の技術の適用にとどまらず、課題解決に当たって創造的に新しいアイデアを生み出していくような学習活動の充実を目指す。

		知識及び技能 統合的な理解	思考力、判断力、表現力等 総合的な発揮
原則履修科目（基礎的な科目）	（１）各産業の社会的な意義や役割	産業を継承・発展・創造していくことが、**私たちの暮らしをよりよくすることにつながる**ことを理解する。	これからの我が国の各産業の在り方に関する課題を発見し、それらを取り巻く諸問題や今後の可能性について、**科学的な根拠に基づき**、**合理的かつ創造的に構想**することができる。
	（２）各教科で学習する内容の概括	各産業分野に関する知識や技能を高めていくことが、**よりよい産業の継承・発展・創造につながる**ことを理解する。	各産業の各分野に関する課題や成果を発見し、それらを**科学的な根拠に基づき**、**合理的かつ創造的に解決、検証**することができる。
	（３）教科全体を通じた実践的・探究的な学習	既習事項を活用したり、多様な他者と連携・協働したりすることで、**未知の課題に直面しても創造的な解決につなげることができる**ことを理解する。	既習事項を比較したり、結び付けたりすることや、課題の解決に向けて計画したり、発信したりすることで、**合理的かつ創造的に解決に向けた選択を行う**ことができる。

「統合的な理解・総合的な発揮」等を活かした単元計画づくりの参考イメージ（産業教育）

✓ 教科書をなぞるだけの授業では、単なる知識・技術の伝達になってしまう。
✓ 変化の激しい社会において、柔軟に対応できる資質・能力を身に付けるためには、「何ができるようになるか」といったゴールイメージを持ち、それらを意識した授業を展開しなければならないな。

身に付けるべき資質・能力を踏まえた指導計画の作成

➢ 学習指導要領の記述の確認

✓ 統合的な理解、総合的な発揮
✓ 次期改訂において資質・能力ベースの記述への改善

デジタル学習指導要領（イメージ）

目　　標

見方・考え方

（統合的な理解）　　（総合的な発揮）

○○○・・・・を理解する。　　△△△・・・考察する。

知・技　　思・判・表

学習指導要領を確認すれば、
✓ 「統合的な理解」、「総合的な発揮」として、学習を終えた後に目指したい学習の深まりの姿を確認できる。
✓ また、他教科や前後の学習内容も確認できるし、デジタル学習指導要領では、解説の記述や評価規準例も見られるようになる。

➢ 単元計画の作成

✓ 統合的な理解、総合的な発揮等を踏まえ、配当時間の設定
✓ 理論と実践の往還を意識した配列
※実験・実習の配当時間や配当時期の設定
✓ 他教科及び同じ教科の中で複数科目との関連付け

学習指導要領を踏まえ指導計画を作成してみよう。職業に関する教科では、
✓ 理論と実践の往還を意識した配列が重要。特に、実験や実習は当該期間（時季）でしかできないものがあるため、これらを意識した単元配列が求められる。
✓ 同じ教科の中で複数の科目を並行して学習するため、それらの科目との関連を踏まえる必要がある。

時間	学習活動	重点	記録	備考
3	●●●（理論）			
4	●●●（実験・実習）			
5	●●●（理論）			※「△△△△」と関連させながら指導。

一体的に構想

➢ 評価計画の作成

✓ 「記録に残す評価」の精選、「学習改善等に生かす評価」の充実
✓ ペーパーテストだけではなく、パフォーマンス課題を用いた評価

評価計画も一体的に構想することで、学習評価を資質・能力の育成に活用するイメージがもて、指導と評価の一体化を進めることができる。

「統合的な理解・総合的な発揮」等を活かして単元を構想するプロセスの一例（イメージ）

【農業】

※「統合的な理解」及び「総合的な発揮」の記載は事務局にて例として作成したもの。

科目名：農業と環境　単元名：農業と農業関連産業 「農業生産の基礎」

※統合的な理解、総合的な発揮は直接の評価対象ではないことに留意

（統合的な理解）
農業及び農業関連産業は、環境要素や地域特性を踏まえた栽培、加工の技術に支えられており、これらを高めていくことが、よりよい農業生産につながることを理解する。

（総合的な発揮）
農業及び農業関連産業における事象を、生命現象と環境の関係性、産業間の関連、地域特性の観点から考察することができる。

（単元目標・評価規準）知識及び技能
（ア）農業生物の種類・特性・育成に影響する環境要素の種類と働きを理解している。
（イ）GAPに基づく観察・記録・分析・評価の方法を身に付けている。
（ウ）収穫後の農産物が、生鮮・加工など多様な形で流通していることを理解している。

（単元目標・評価規準）思考力、判断力、表現力等
（ア）農業生物の育成と環境要素の相互関係について、実習データをもとに考察し、よりよい農業生産の計画と工程管理に結び付けて表現できる。
（イ）農業生産と農業関連産業とのつながりを、生産の過程と関連付けて考察し、表現できる。

時	学習内容	単元目標・評価規準に到達するまでの学習のつながり（抜粋）
22 21	● 生育データの分析・考察・評価課題 ・全工程データの整理・分析 ・環境要素と生育の考察 ・改善策の立案・論述	種類や特性、生育段階に応じた適切な環境要素の設定が、よりよい農業生産につながっていることを理解する（ア・イ） 科学的な根拠をもって改善策を立案し、論述などにより表現する。（ア） 農業生産と関連産業とのつながりの観点も加えて考察し、表現する（イ）
20 19	● 収穫・収穫後管理（実習） ・収穫作業の実施 ・収穫物の調製・品質確認・記録	収穫期に影響する環境要素の種類と働きを理解する。（ア） 収穫後の農産物が生鮮・加工など多様な形で流通することを理解する（ウ） 施肥・生育管理実習の観察データをもとに収穫適期を考察する（ア） 定植期の環境要素が、生育期に及ぼす影響について考察する（ア）
18 17	● 収穫・収穫後管理（理論） ・収穫適期の判断基準 ・収穫後の品質管理と貯蔵	
16 - 13	● 施肥・生育管理（実習） ・整枝・誘引・施肥作業の実施 ・継続的な生育観察・記録 ・GAPに基づく工程管理	生育期に影響する環境要素の種類と働きを理解する（ア） GAPに基づく記録・管理の方法を身に付ける（イ） 生育データをもとに管理作業の必要性と根拠を考察する（ア） 定植期の環境要素が、生育期に及ぼす影響について考察する（ア）
12 11	● 生育管理（理論） ・生育段階と管理作業の関係	
10 9	● 定植・初期管理（実習） ・定植作業・初期生育管理の実施 ・生育観察・環境データの記録	定植期に影響する環境要素の種類と働きを理解する（ア） 肥料の種類と施肥設計の原理を理解する。（ア） 育苗実習のデータをもとに、定植・施肥の判断根拠を考察する（ア） 発芽・初期成育時の環境要素が、定植期に及ぼす影響について考察する（ア）
8 7	● 施肥・定植・初期管理（理論） ・定植適期の判断基準 ・肥料の種類と施肥設計 ・土壌・生育環境と生育の関係	
6 5	● 育苗（実習） ・播種・育苗管理の実施 ・生育状況の観察・記録	発芽・初期成育に影響する環境要素の種類と働きを理解する（ア） 生育状況と環境データを観察・記録し続けることが、分析・評価・改善につながることを理解するとともに、その技能を身に付ける（ア・イ） 発芽の状況と環境要素の関係について考察する（ア）
4 3	● 育苗（理論）（例：トマト） ・発芽条件・育苗管理 ・温度・光・水分と初期生育	
2	● 農業生物の主な性質 ● 農業生物の栽培計画 ● 農業生産工程管理（GAP）	農業生物の性質について理解する（ア） GAPの考え方や実践方法を理解する（イ） 地域特性を踏まえた栽培計画表を作成し、表現する（ア、イ）
1	● 単元のガイダンス ● 農業と農業関連産業の概要	農業と農業関連産業の概要を理解するとともに、理論と実習を往還しながら学ぶ学び方を理解する（ア） 農業生産と関連する産業とつながりについて考察する。（イ）

生命現象と環境の関係性に着目し、農業及び農業関連産業を支える技術とよりよい農業生産のつながりを捉える。

【農業と情報】 農業の各分野における先進技術や革新技術に関する学び

本単元の学習に関連が強い既習内容　（中学校　情報・技術）生物育成

【家庭】食生活と健康　【理科（生物基礎）】生物の特徴　との関連も考えられる

（学びに向かう力、人間性等の「見取る姿 」）　【検討中参考イメージ】

※「見取る姿」は各単元ごとに見取るのではなく、学年・学期などの長い期間を通じて見取るものであることに留意

・農業関係者や地域社会との連携・協働や対話・議論を通じて、課題をよりよく解決しようとしている。 ・農業及び農業関連産業の事象に職業人としての視点から問いを見いだし、生産・環境・資源のつながりを意識しながら粘り強く追求しようとしている。 ・学習の過程を主体的に振り返り、農業と暮らしや社会とのつながりを意識しながら、自己の思考や行動を評価・改善しようとしている。

【農業】 「統合的な理解・総合的な発揮」等を活かした単元計画づくりの参考イメージ

単元構想のイメージ

1．科目名：農業と環境

2．単元名：農業と農業関連産業 「農業生産の基礎」

3．教科の見方・考え方

学習指導要領の記述

農業や農業関連産業に関する事象を、生産・環境・資源の統合的な視点で捉え、職業人としての自己の成長と農業の持続的な発展につなげること。

4．分野・区分の統合的な理解・総合的な発揮

学習指導要領の記述

統合的な理解	総合的な発揮
農業及び農業関連産業は、環境要素や地域特性を踏まえた栽培、加工の技術に支えられており、これらを高めていくことが、よりよい農業生産につながることを理解する。	農業及び農業関連産業における事象を、生命現象と環境の関係性、産業間の関連、地域特性の観点から考察することができる。

5．学びに向かう力、人間性の「見取る姿」

指導要録通知の「学びに向かう力」の「見取る姿」

- 農業関係者や地域社会との連携・協働や対話・議論を通じて、課題をよりよく解決しようとしている。
- 農業及び農業関連産業の事象に職業人としての視点から問いを見いだし、生産・環境・資源のつながりを意識しながら粘り強く追求しようとしている。
- 学習の過程を主体的に振り返り、農業と暮らしや社会とのつながりを意識しながら、自己の思考や行動を評価・改善しようとしている。

6．単元の目標・評価規準

何を身に付けさせたいかを明確にする
【目標（評価規準）の設定】

目標（評価規準）	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	農業生物の種類・特性・育成に影響する環境要素の種類と働きを理解するとともに、GAPに基づく観察・記録・分析・評価の方法を身に付けている。また、収穫後の農産物が生鮮・加工など多様な形で流通していることを理解している。	農業生物の育成と環境要素の相互関係について、実習データをもとに考察し、農業生産の計画と工程管理に取り組んでいる。あわせて、農業生産と農業関連産業とのつながりについて考察し、表現している。

7．評価課題

身に付けさせたい資質・能力の身に付け取り、その水準を判断できる課題を考える
【評価課題のデザイン】

「栽培実習の生育データをもとに生育に影響を与えた環境要素を分析し、農産物が加工・流通を通じて農業関連産業とどうつながるかにも触れながら、よりよい農業生産に向けた改善策を科学的な根拠を示して提案しなさい。」

8．指導と評価の計画

評価課題に向けて資質・能力を身に付け、発揮しやすい学習活動を組み立てる
【学習過程のデザイン】

身に付けさせたい姿と現状の差分を学習途中で見取り、適切なフィードバックの方法を考える
【形成的評価の計画的な実施】

時間	学習活動	重点	記録	備考（※実習の実施時期は作付けのタイミングに応じて設定する。）
1	● 単元のガイダンス ● 農業と農業関連産業の概要	知		※ガイダンスでは、科目全体の流れ（本単元→プロジェクト学習への接続）と、理論と実習を往還しながら学ぶ本単元の進め方を指導する。 ※農業生産と農業関連産業とのつながりに触れる。
2	● 農業生物の主な性質 ● 農業生物の栽培計画 ● 農業生産工程管理（GAP）	知 思	○ ○	※農業生物の性質、GAPの考え方・実践方法を理解させる。 ※地域特性を踏まえて作物・栽培方法を選定する視点をもって栽培計画表を作成できるよう指導する。
3 4	● 育苗（理論）（例：トマト） ・発芽条件・育苗管理 ・温度・光・水分と初期生育	知		※発芽・初期生育に影響する環境要素を理解させる。育苗実習で理論を実習で確認させるための前提知識として位置付ける。
5 6	● 育苗（実習） ・播種・育苗管理の実施 ・生育状況の観察・記録	知 思	○ ○	※発芽条件を実習で確認させる。 ・観察・記録の習慣を形成する最初の実習。 ・「農業と情報」と関連させ、データの収集・分析・活用の学びと接続する。
7 8	● 施肥・定植・初期管理（理論） ・定植適期の判断基準 ・肥料の種類と施肥設計 ・土壌・生育環境と生育の関係	知 思	○ ○	※育苗実習の観察結果を振り返りながら、定植適期・施肥設計・土壌環境の理論を学ぶ。 ※観点別学習評価は、生育データをもとにした定植・施肥の判断根拠の考察を記述分析で評価する。
9 10	● 定植・初期管理（実習） ・定植作業・初期生育管理の実施 ・生育観察・環境データの記録	知 思	 ○	※定植適期の理論を根拠に判断・実施させる。 「なぜこのタイミングで定植するか」を生徒自身が根拠をもって説明できるよう指導する。
11 12	● 生育管理（理論） ・生育段階と管理作業の関係	知 思	○ ○	※定植後の生育観察データをもとに、生育管理の必要性を理論で確認させる。実習データが理論学習の動機となる往還の場面として指導する。生育データをもとにした管理作業の必要性と根拠を記述式で評価する。
13 ～ 16	● 施肥・生育管理（実習） ・整枝・誘引・施肥作業の実施 ・継続的な生育観察・記録 ・GAPに基づく工程管理	知 思	○ ○	※施肥設計の理論を根拠に判断・実施させる。 ・農業と情報と関連させ、データの収集・分析・活用の学びと接続する。
17 18	●収穫・収穫後管理（理論） ・収穫適期の判断基準 ・収穫後の品質管理と貯蔵	知 思	○ ○	※観察データをもとに収穫適期の判断基準を理論で確認させるとともに、収穫後の農産物が生鮮・加工など多様な形で流通することを理解させる。
19 20	●収穫・収穫後管理（実習） ・収穫作業の実施 ・収穫物の調製・品質確認・記録	知 思	○ ○	※理論で学んだ収穫適期の理論を根拠に判断・実施させる。全工程を通じた生育データと収穫結果を照合させ、評価課題への橋渡しとして位置付ける。
21 22	● 生育データの分析・考察・評価課題 ・全工程データの整理・分析 ・環境要素と生育の考察 ・改善策の立案・論述	知 思	○ ○	※観点別学習評価は、蓄積したデータをもとにした考察の深さ、改善策の妥当性、農業関連産業とのつながりの観点を記述分析で評価し、次単元（プロジェクト学習）の課題設定へとつなげる。

「統合的な理解・総合的な発揮」等を活かして単元を構想するプロセスの一例（イメージ）

【工業】

※「統合的な理解」及び「総合的な発揮」の記載は事務局にて例として作成したもの。

第１学年　「工業技術基礎」単元名：（２）ものづくりの加工技術

（知識及び技能の統合的な理解）
・工業に関する様々な加工技術が、産業や生活に関する課題をよりよく解決することにつながることを理解する。

（思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮）
・材料の形態や質の変化に着目し、作品や製品の製作に関する課題を見いだすとともに、倫理観と科学的根拠に基づいて、よりよいものづくりを実現する加工の工夫を創造することができる。

（単元目標・評価規準）知識及び技能
（ア）金属や非金属など固体状の原材料の形態を変化させる塑性加工、切削加工、成形加工、接合・切断加工などの加工方法を理解している。　【加工技術の理解】
（イ）工具や器具を用いた加工及び機械や装置類を活用することを通して、ものづくりを実現するための加工技術を身に付けている。　【加工技術の習得】

（単元目標・評価規準）思考力、判断力、表現力等
（ア）作品の製作や調査・実験などを通して、加工技術への興味・関心を高めるとともに、課題を見いだしている。
【加工技術への興味・関心】
（イ）工具や器具を用いた加工及び機械や装置類を活用した加工を行うことを通して、よりよく加工をするための技術について表現している。　【加工技術の活用】

時	学習内容	単元目標・評価規準に到達するまでの学習のつながり
21	● 学習の振り返り ・単元のまとめと評価課題 ・課題研究との接続	製作経験を基に、加工技術が課題解決に果たす価値や有効性を理解する。（イ）【加工技術の習得】 製作活動の過程で見いだした課題と改善策について科学的根拠を基に説明し、よりよいものづくりを実現するための工夫や課題解決の方策を提案する。（イ）【加工技術の活用】
20 19 18	● 加工技術による課題解決と未来のものづくり ・デジタル／AI活用 ・環境負荷低減技術	デジタル技術を活用した加工技術やAIの活用が、品質の向上や産業・生活に関する課題の合理的・効率的な解決に貢献していることを理解する。（ア）【加工技術の理解】 先端的な加工技術が産業や生活の課題解決に果たす役割に関心をもち、よりよいものづくりに向けた課題を見いだす。（ア）【加工技術への興味・関心】 先端的な加工技術と社会課題との関係を考察し、よりよいものづくりや持続可能なものづくりを実現するための工夫について考察する。（イ）
17 ～ 12	● 作品の製作 ・加工の実践 ・安全な作業 ・課題の発見と改善	材料の特性や加工方法の違いが製品の品質や機能に影響することを理解するとともに、適切な加工技術の活用がよりよいものづくりにつながることを理解する。（ア） 【数学】測定や数量の考え方を活用しながら、加工精度や仕上がりを確認し、技術の習得状況を把握する。（イ） 工具や機器を適切に活用することが、加工精度や仕上がりの向上につながることを理解する。（イ） 製作中に生じた課題について、加工精度や作業効率などのデータを基に原因を考察するとともに、改善すべき点を見いだす。（ア） 加工精度や作業効率を高める工夫を考え、改善策の効果を検証する。（イ）
11 10 9	● 作品の製作計画 ・製作課題の理解 ・材料や加工方法の検討 ・製作工程の計画 ・製作図面の作成	各種の加工技術の特徴を適切に活用することや正確な図面を作成することが、製品の品質や機能の向上につながることを理解する。（ア） 【工業「製図」】製図の技術を活用しながら製作物の状態を適切に表現する。（イ） 製作物に求められる機能や条件を整理し、それを実現する上で解決すべき加工技術の課題を見いだす。（ア） 各種の加工技術の特徴や用途に着目し、製品に求められる品質や生産性を踏まえて、適切な加工方法について考察する。（イ）
8 7 6	● 加工技術の特徴 ・塑性加工／切削加工／接合 ・産業との関わり	材料によって適した加工方法が異なることや、加工によって材料の形態や質が変化することを理解する。（ア） 工具や機器を適切に活用して加工技術を身に付けることが、目的とする製品の品質や機能の実現につながることを理解する。（イ） 材料の特性や製作物に求められる条件を踏まえて加工方法を選択し、その妥当性を考察する。（イ）
5 4 3	● 材料と加工技術 ・材料の特徴 ・材料と加工方法との関係 ・基礎的な加工作業	身近な製品には様々な加工技術が用いられていることを理解する。（ア） 加工に必要となる工具や器具の名称や用途を理解する。（イ） 目的とする製作物の製作に当たり、使用する材料の特性と加工方法との関係に着目し、よりよく加工するための技術的な課題を見いだす。（ア） 【理科】物質の性質と関連付けながら、材料の特性に応じた加工方法について考察する。（イ）
2	●私たちの生活を支える加工技術 ・身近な製品と加工技術	産業や社会の仕組みと関連付けながら、加工技術が私たちの生活や産業社会を支えていることを理解する。（ア） 加工技術が生活や産業に果たしている役割について自分の考えを表現する。（ア）
1	● 単元のガイダンス ・加工技術を学ぶ意義 ・ルーブリックの共有	生活における様々な加工技術に興味・関心をもち、加工技術に関する疑問や気付きを表現する。（ア）

加工技術を活用して「よりよいものづくり」を実現する視点から考える

本単元の学習に関連が強い既習内容	中学校技術（材料と加工の技術）、中学校理科（エネルギーと物質）、工業「製図」、数学（図形と計量、データの分析）、理科（科学と人間生活）

（学びに向かう力、人間性等の「見取る姿 」）　【検討中参考イメージ】　※「見取る姿」は各単元ごとに見取るのではなく、学年・学期などの長い期間を通じて見取るものであることに留意

・身近な工業技術や製品、社会や産業の変化に関心をもち、自ら課題や問いを見いだすとともに、新しい技術や考え方を探究しながら、よりよいものづくりの実現に主体的に取り組もうとしている。
・よりよい課題解決や新たな価値の創出に向けて、多様な他者との協働を通して自らの考えを深め、創意工夫を生かしながら取り組もうとしている。
・振り返りを通して自らの思考や行動を改善し、自身の目標や将来の職業とのつながりを意識するとともに、安全性や環境への配慮や社会的責任を踏まえながら専門性を高めようとしている。

【工業】「統合的な理解・総合的な発揮」等を活かした単元計画づくりの参考イメージ

単元構想のイメージ

1．科目名：工業技術基礎

2．単元名：（２）ものづくりの加工技術

3．工業の見方・考え方

学習指導要領の記述

工業に関する事象を、よりよいものづくりを創出する視点で捉え、職業人としての自己の成長と社会の持続的な発展につなげること。

4．統合的な理解・総合的な発揮

学習指導要領の記述

統合的な理解	総合的な発揮
工業に関する様々な加工技術が、産業や生活に関する課題をよりよく解決することにつながることを理解する。	材料の形態や質の変化に着目し、作品や製品の製作に関する課題を見いだすとともに、倫理観と科学的根拠に基づいて、よりよいものづくりを実現する加工の工夫を創造することができる。

5．学びに向かう力、人間性の「見取る姿」

指導要録通知の「学びに向かう力」の「見取る姿」

- 身近な工業技術や製品、社会や産業の変化に関心をもち、自ら課題や問いを見いだすとともに、新しい技術や考え方を探究しながら、よりよいものづくりの実現に主体的に取り組もうとしている。
- よりよい課題解決や新たな価値の創出に向けて、多様な他者との協働を通して自らの考えを深め、創意工夫を生かしながら取り組もうとしている。
- 振り返りを通して自らの思考や行動を改善し、自身の目標や将来の職業とのつながりを意識するとともに、安全性や環境への配慮や社会的責任を踏まえながら専門性を高めようとしている。

6．単元の目標・評価規準

何を身に付けさせたいかを明確にする【目標（評価規準）の設定】

目標（評価規準）	知識及び技能	思考力、判断力・表現力等
	（ア）金属や非金属など固体状の原材料の形態を変化させる塑性加工、切削加工、成形加工、接合・切断加工などの加工方法を理解している （イ）工具や器具を用いた加工及び機械や装置類を活用することを通して、ものづくりを実現するための加工技術を身に付けている	（ア）作品の製作や調査・実験などを通して、加工技術への興味・関心を高めるとともに、課題を見いだしている （イ）工具や器具を用いた加工及び機械や装置類を活用した加工を行うことを通して、よりよく加工をするための技術について表現している

7．評価課題

身に付けさせたい資質・能力の発揮を見取り、その水準を判断できる課題を考える【評価課題のデザイン】

「あなたが製作した作品を振り返り、材料の特性や加工方法が作品の品質や機能にどのような影響を与えたかを説明しなさい。また、製作活動の中で見いだした課題とその改善策について述べるとともに、今後のものづくりにおいて探究してみたい加工技術や製作に関する課題について、その理由を含めて説明しなさい。」

8．指導と評価の計画

評価課題に向けて資質・能力を身に付け、発揮しやすい学習活動を組み立てる【学習過程のデザイン】

身に付けさせたい姿と現状の差分を学習途中で見取り、適切なフィードバックの方法を考える【形成的評価の計画的な実施】

時間	学習活動	重点	記録	備考
	● 単元のガイダンス ・加工技術を学ぶ意義 ・単元の見通し ・ルーブリックの共有 ・課題研究との接続	思		・加工技術を学ぶ意義や単元の見通しをもたせる。 ・加工技術が生活や産業を支えていることについて考えさせ、「よりよいものづくりを実現する」視点をもたせる。 ・評価の観点やルーブリックを生徒と共有し、到達目標を明確にする。 ・今後の実習や課題研究につながることを理解させる。
2	● 私たちの生活を支える加工技術 ・身近な製品と加工技術との関係	知 思	○	・身近な製品を取り上げ、「加工技術がなければ生活はどうなるか」という視点から関係を考えさせ、加工技術が生活や産業の基盤となっていることを理解させる。 ・その製品がどのような材料と加工技術（切る、曲げるなど）の組み合わせにより製作されているかを考えさせる。 ・製品と加工技術との関係について考えさせ、加工技術が生活や産業を支えていることを理解させる。
3 4 5	● 材料と加工技術 ・材料の特徴 ・材料と加工方法との関係 ・基礎的な加工作業	知 思	○	・金属、木材、プラスチックなど製品に広く使われる材料を比較し、それぞれに適した加工方法があることを理解させる。 ・「切る」、「曲げる」、「組み立てる」など基礎的な材料の加工体験を通して、材料の質感や、加工により形態や質が変化することを観察させる。 ・材料の特性と加工方法との関係について、【理科】物質の性質の学習を踏まえながら、自分の言葉で説明できるようにする。 ・製作計画における材料選択につながる視点をもたせる。
6 7 8	● 加工技術の特徴 ・塑性加工／切削加工／接合 ・産業との関わり	知		・塑性加工、切削加工、接合などの特徴や用途について理解させる。 ・同じ製品でも加工方法によって品質や生産性が異なることを理解させる。 ・産業界における活用事例を通して、加工技術が課題解決に果たしている役割を考えさせる。 ・製作活動で活用する加工技術との関連を意識させる。
9 10 11	●作品の製作計画 ・製作課題の理解 ・材料や加工方法の検討 ・製作工程の計画 ・製作図面の作成	思	○	・作品に求められる機能や用途を整理し、適切な材料や加工方法について検討させる。 ・安全性、耐久性、作業効率など、複数の視点から判断させる。 ・なぜその材料や加工方法を選択したのか、根拠とともに説明させる。 ・製作後の評価や改善につながるよう計画を立案させる。 ・【工業】「製図」での学習を活かしながら、正確な図面がよりよい加工につながることを理解させる。
12 ～ 17	●作品の製作 ・加工の実践 ・安全な作業 ・課題の発見と改善	知 思	○ ○	・安全な作業を徹底し、工具や機器を適切に活用する技能を育成する。 ・製作中に生じた課題や失敗を作業記録に残させ、その原因や改善策について考えさせる。 ・【数学】測定や数量の学習を踏まえながら、加工精度や作業効率、仕上がりなどに着目しながら製作させるとともに、製作物についてルーブリックを用いて自己評価を行い、自らの技能の向上や課題を把握させる。 ・改善を繰り返しながら、材料の形態や質の変化に着目し、よりよいものづくりを実現する加工の工夫を考えさせる。
18 19 20	●加工技術による課題解決と未来のものづくり ・デジタル／AI活用 ・環境負荷低減技術	知 思		・デジタル技術、AI、ロボット、自動化技術など先端的な技術を理解させる。 ・環境負荷低減や省資源化など、現代社会の課題との関連を考えさせる。 ・技術の進展が生活や産業の課題解決にどのように貢献しているかを考察させる。 ・将来のものづくりに必要な工夫や技術について自分の考えをまとめさせる。
21	● 学習の振り返り ・単元のまとめ ・評価課題	知 思	○ ○	・材料の特性や加工方法と作品の品質・機能との関係を整理させ、加工技術が課題解決に果たす役割について考えさせる。 ・製作活動の中で見いだした課題と改善策について、科学的な根拠を踏まえて説明させる。 ・よりよいものづくりを実現するための加工の工夫について、考えをまとめさせる。 ・今後探究してみたい加工技術に関する課題をまとめさせ、課題研究につなげる。 ・ガイダンス当初の考えと比較し、自己の成長や考えの変容を確認させる。

【商業】「統合的な理解・総合的な発揮」等を活かして単元を構想するプロセスの一例（イメージ）

※「統合的な理解」及び「総合的な発揮」の記載は事務局にて例として作成したもの。

科目：マーケティング　単元名：市場調査

（統合的な理解）
市場調査に関わる知識や技能を高めることで、販売戦略の立案・評価・改善などにつながることを理解する。

（単元目標・評価規準）知識及び技能
（ア）市場調査の目的や手順、既存資料による調査と実態調査の違い、定性調査と定量調査の特徴及びサンプルの抽出方法について理解するとともに、市場調査に必要な情報を収集する技能を身に付ける。
（イ）市場調査で得られた情報の分析について、企業における事例と関連付けて理解するとともに、分析結果を販売戦略に活用する技能を身に付ける。

（総合的な発揮）
販売戦略に関する課題を多面的・多角的に捉え、他者との合意形成を図りながら、顧客理解や意思決定をすることができる。※統合的な理解、総合的な発揮は直接の評価対象ではないことに留意

（単元目標・評価規準）思考力、判断力、表現力等
（ア）市場調査に関する課題を発見し、その解決に向けて適切な調査方法やサンプルの抽出方法を選択するとともに、収集すべき情報を明確にして調査を計画し、その内容を表現する。
（イ）情報の分析に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて販売戦略を立案し、評価・改善するとともに、その課題を解決する。

時	学習内容	単元目標・評価規準に到達するまでの学習のつながり
7 6 5	● 単元のまとめと振り返り ● 報告書の作成と発表 ● インタビュー調査	目的・意義に着目し、対象者への適切な方法を吟味する。 報告書を作成するとともに、効果的な発表の方法を理解する。※情報処理 インタビュー調査の分析結果を適切に解釈する方法を理解する。（イ） 仮説に基づき企業等にインタビュー調査の質問内容を設計する技能を身に付ける。（イ） 単元全体の学習を振り返り、今後の改善点を見いだし、学びを整理して表現する。（ア・イ） 仮説との共通点や相違点を基に、仮説や販売戦略を改善し、表現する。（イ） 企業等からのインタビュー結果を整理・分析し、その内容を考察する。（イ）
4 3	● 市場調査の事例研究	マーケティング・ミックスの内容と、その活用方法を理解する。※ビジネス基礎 販売に影響する要因を構造的に理解する。（ア） 外部環境と購買意識を比較・分析する技能を身に付ける。（ア） 季節イベントと購買意識の関係性を分析する技能を身に付ける。（ア） 集計やグラフから、意識調査の傾向や特徴を理解する。※情報処理 ターゲットに応じた商品、価格、チャネル、プロモーションに関する販売戦略を構想する。（イ） 生成AIを活用し、データの傾向や販売に影響を与える要因について考察する。（イ）
2 1	● 定性調査・定量調査の理解 ● 関連する仕事の理解 ● 市場調査の役割 ● 単元のガイダンス	定性調査及び定量調査の特徴や、サンプルの抽出方法を理解する。（ア） 市場調査が販売戦略の立案に果たす役割を理解する。（ア） マーケティング・リサーチャーの仕事について理解する。※ビジネス基礎 数値データや記述データを分析し、その結果を整理して表現する。（ア） 市場調査の役割や重要性について、企業活動との関連から考察する。（ア）

本単元の学習に関連が強い既習内容

科目「ビジネス基礎」（1）商業の学習とビジネス　ア　商業を学ぶ重要性と学び方　、（3）経済と流通　イ　流通の役割、（5）企業活動　イ　マーケティングの重要性と流れ
科目「情報処理」（3）情報の集計と分析　イ　表・グラフの作成と情報の分析　、（4）ビジネス文書の作成　イ　ビジネス文書の種類と作成

（学びに向かう力、人間性等の「見取る姿」）【検討中参考イメージ】
- **企業のマーケティング活動に関わる課題や社会の発展を自分との関係で捉え、顧客や社会のニーズに応える価値の創造に主体的に取り組もうとしている。**
- **産業界等との連携・協働や多様な他者との対話を通して、マーケティングに関する課題をよりよく解決しようとしている。**
- **マーケティングの学習が自身のキャリア形成にどのようにつながるかを認識し、見通しや振り返りを通して、自己の思考や行動を調整しようとしている。**

※「見取る姿」は各単元ごとに見取るのではなく、学年・学期などの長い期間を通じて見取るものであることに留意

【商業】

「統合的な理解・総合的な発揮」等を活かした単元構想の参考イメージ

単元構想のイメージ

1．マーケティング

2．単元名：市場調査

3．教科の見方・考え方

企業活動に関する事象を、利益の追求と社会的責任の視点で捉え、職業人としての自己の成長と、ビジネスの持続的な発展につなげること。

学習指導要領の記述

4．分野・区分の統合的な理解・総合的な発揮

学習指導要領の記述

統合的な理解	総合的な発揮
市場調査に関わる知識や技能を高めることで、販売戦略の立案・評価・改善などにつながることを理解する。	販売戦略に関する課題を多面的・多角的に捉え、他者との合意形成を図りながら、顧客理解や意思決定をすることができる。

5．学びに向かう力、人間性等の「見取る姿」

指導要録通知の「学びに向かう力」の「見取る姿」

- 企業のマーケティング活動に関わる課題や社会の発展を自分との関係で捉え、顧客や社会のニーズに応える価値の創造に主体的に取り組もうとしている。
- 産業界等との連携・協働や多様な他者との対話を通して、マーケティングに関する課題をよりよく解決しようとしている。
- マーケティングの学習が自身のキャリア形成にどのようにつながるかを認識し、見通しや振り返りを通して、自己の思考や行動を調整しようとしている。

6．単元の目標・評価規準

何を身に付けさせたいかを明確にする【目標（評価規準）の設定】

目標（評価規準）	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	市場調査で得られた情報の分析について、企業における事例と関連付けて理解するとともに、分析結果を販売戦略に活用する技術を身に付ける。	情報の分析に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて販売戦略を立案し、評価・改善するとともに、その課題を解決する。

7．評価課題

身に付けさせたい資質・能力の発揮を見取り、その実現状況を判断できる課題を考える【評価課題のデザイン】

購買意識から顧客ニーズを推測し、販売戦略を立案する方法について説明しなさい。

8．指導と評価の計画

評価課題に向けて資質・能力を身に付け、発揮しやすい学習活動を組み立てる【学習過程のデザイン】

身に付けさせたい姿と現状の差分を学習過程で見取り、適切なフィードバックの方法を考える【形成的評価の計画的な実施】

時間	学習活動	重点	記録	備考
1 2	●単元のガイダンス、シラバスとイメージマップの確認 ●市場調査の役割と関連する仕事の理解	知		・学習の流れと学習方法、前後の学習のつながりや他科目との関連を説明する ※「ビジネス基礎」と関連させながら指導
	●定性調査・定量調査の理解 観察、インタビュー、アンケート、テストマーケティングなどの特徴と、サンプルの抽出方法を理解	知	○	・数値データや記述データを分析し、その結果を適切に言語化して説明ができるか確認する 観点別学習状況の評価は、定量と定性の違いなど、知識の理解の深さを生徒が記述したワークシートの内容をもとに評価する
3 4	●市場調査の事例研究 ①販売戦略の理解 菓子製造業M社の意識調査の内容を理解 ②購買意識のAI分析 季節イベントと購買意識との関係性を分析 ③変化の比較 外部環境の変化と購買意識の変化を比較（課題の発見） ④販売戦略の立案 仮説設定及び販売戦略を立案（課題解決に向けて）	知	○	・意識調査をもとに、販売に影響する要因を整理し、要因同士の関係を構造的に捉えるよう説明する ※「情報処理」と関連させながら指導 観点別学習状況の評価は、消費者の意識を分析した結果に基づいてM社の戦略を説明しているか、生徒が記述したワークシートの内容をもとに評価する
		思	○	・生徒は課題を発見した上で、ターゲットに合った商品、価格、チャネル、プロモーションの販売戦略（マーケティング・ミックス）を構想する ※「ビジネス基礎」と関連させながら指導 ・生徒は「○○というデータから、もし△△ならば、□□となると考える。」の形式で仮説設定する 観点別学習状況の評価は、外部環境や購買意識の変化から課題を発見した上で、適切なマーケティング・ミックスの計画が立てられているか評価する
5 6 7	●インタビュー調査 小売業、菓子製造業、商工会議所などへの聞き取り ●報告書の作成と発表 報告書の作成、発表及び販売戦略の評価・改善 ●単元のまとめと振り返り 学習内容のイメージマップでの再整理、学習の振り返り	知		・生徒は仮説に基づいた質問を設計する ・生徒はインタビュー結果を整理・分析し、仮説との共通点や相違点を基に、仮説や販売戦略を見直す ※「情報処理」と関連させながら指導
		思	○	観点別学習状況の評価は、最終提案に向けてインタビューの内容をもとに、仮説の検証及び、販売戦略の評価・改善をしているか評価する

【水産】「統合的な理解・総合的な発揮」等を活かして単元を構想するプロセスの一例（イメージ）

※「統合的な理解」及び「総合的な発揮」の記載は事務局にて例として作成したもの。

第１学年相当　単元名：第１章　第４節 海と生物（第３章　第１節 磁採集）　※統合的な理解、総合的な発揮は直接の評価対象ではないことに留意

（統合的な理解）
海が私たちの暮らしに果たす役割や、海を持続的に活用することの重要性について理解する。

（総合的な発揮）
海が私たちの暮らしに及ぼす影響や海洋の特徴から課題を発見し、科学的な根拠に基づき探究するとともに、合理的、創造的に考察する。

（単元目標・評価規準）知識及び技能
（ア）生物の分類体系や、魚類・貝類・甲殻類などの形態的特徴、生物多様性の3つの視点や生態系サービスの意義を理解している。
（イ）磁採集に必要な用具の使用法、安全管理、及び適切な記録・輸送の手法を身に付けている。

（単元目標・評価規準）思考力、判断力、表現力等
（ア）海洋生物が人間生活に与える恵みについて多角的に考察している。
（イ）現地調査での観察を通じて、生物の生息環境や形態的特徴から課題を発見し、科学的な根拠に基づいて野帳に記録し、表現しようとしている。

時	学習内容	単元目標・評価規準に到達するまでの学習のつながり
8	●学習の振り返り ●評価課題	生物多様性が人間に与える恵み等、その影響や生態系サービスの意義を理解する。（ア）　⇔　現地調査で観察した海の生物の特徴から、生物多様性を表現するとともに、生態系サービスを見い出し説明する。（ア）
7	◆ 事後学習(同定と記録)	自然環境の中での生物観察、採集及び生物の輸送方法について適切に身に付ける。（イ） 採集した生物の調査から、ルールに基づいた適切な野帳への記録を身に付ける。（ア）　⇔　現地の自然環境や採集した生物について、科学的根拠の元、適した観察方法・輸送手段を考察・判断する。（イ）
6 5	◆ 現地調査(磁採集の実践)	常に「統合的な理解」「総合的な発揮」や単元目標を参照して各時間の学習活動を構想
4	●「1-1磁採集」 ◆ 事前学習(計画と安全管理)	磁採集の服装・持ち物を確認し、海況予測や危険生物への対策を理解する。（イ）　⇔　現地調査での観察に必要な基本的事項をおさえ、危険察知及び適切な対策を考察する。（イ） 生物の生態を理解するための飼育方法や観察のポイントを理解する。（イ）　⇔　生物を観察するためのポイントを適切に把握し、特徴を見出し判断する。（イ）
3	●「4-５生物の飼育と観察」	生物多様性の視点及び生態系サービスについて、人間生活に与える影響を理解する。（ア）　⇔　生物多様性を３つの視点で捉え、生態系サービスを特徴から４つに分類・判断する。（ア）
2	●「4-4生態系サービス」 ●「4-3生物多様性」	生物の分類及び魚介類の特性や各分類の特徴について理解する。（ア）　⇔　魚介類の特徴から、根拠をもって生物の分類（種・属・科・目・綱・門・界）を判断する。（ア）
1	●「4-2魚介類の特性」 ●「4-1生物の分類」 ●海と生物についてのガイダンス	海と生物を学習する意義及び実習の見通しについて理解する。（ア）　⇔　重量割合で地球上の生命の90%を占める海の生物について、学習の必要性を判断する。（ア）

目的・意義に着目し、対象者への適切な方法を吟味する。

本単元の学習に関連が強い既習内容：（第１学年）第１章　第３節 海と環境（3-3海洋環境の保全と管理）

（学びに向かう力、人間性等の「見取る姿」）
- 自由な発想に基づき、水産業や海洋関連産業に関わる課題や社会の発展を自分との関係で捉え、自身の成長や社会への貢献につなげようとしている。
- 産業界等との連携・協働や多様な他者との対話・議論を通じて、倫理観に基づき粘り強い態度で課題をよりよく解決しようとしている。
- 自身の目標や将来の職業と学習との関係を認識し、見通しや振り返りを通じて、自己の思考や行動を調整しながら、課題の解決や価値の創造に挑戦しようとしている。

※「見取る姿」は各単元ごとに見取るのではなく、学年・学期などの長い期間を通じて見取るものであることに留意

「統合的な理解・総合的な発揮」等を活かした単元計画づくりの参考イメージ

【水産】

単元構想のイメージ

1．科目名：水産海洋基礎

2．単元名：第１章 海のあらまし　第４節 海と生物
（第３章 基礎実習　第１節 磯採集 …現地調査実習）

3．教科の見方・考え方

学習指導要領の記述

水産や海洋に関する事象を、海洋資源を持続的に利用する視点で捉え、職業人としての自己の成長と、水産業及び海洋関連産業の持続的な発展につなげること。

4．分野・区分の統合的な理解・総合的な発揮

学習指導要領の記述

統合的な理解	総合的な発揮
海が私たちの暮らしに果たす役割や、海を持続的に活用することの重要性について理解する。	海が私たちの暮らしに及ぼす影響や海洋の特徴から課題を発見し、科学的な根拠に基づき探究するとともに、合理的、創造的に考察する。

5．学びに向かう力、人間性の「見取る姿」

指導要録通知の「学びに向かう力」の「見取る姿」

- 自由な発想に基づき、水産業や海洋関連産業に関わる課題や社会の発展を自分との関係で捉え、自身の成長や社会への貢献につなげようとしている。
- 産業界等との連携・協働や多様な他者との対話・議論を通じて、倫理観に基づき粘り強い態度で課題をよりよく解決しようとしている。
- 自身の目標や将来の職業と学習との関係を認識し、見通しや振り返りを通じて、自己の思考や行動を調整しながら、課題の解決や価値の創造に挑戦しようとしている。

6．単元の目標・評価規準

何を身に付けさせたいかを明確にする
【目標（評価規準）の設定】

目標（評価規準）	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	生物の分類体系や、魚類・貝類・甲殻類などの形態的特徴、生物多様性の3つの視点や生態系サービスの意義を理解している。 また、磯採集に必要な用具の使用法、安全管理、及び適切な記録・輸送の手法を身に付けている。	海洋生物が人間生活に与える恵みについて多角的に考察している。 また、現地調査での観察を通じて、生物の生息環境や形態的特徴から課題を発見し、科学的な根拠に基づいて野帳に記録し、表現しようとしている。

7．評価課題

身に付けさせたい資質・能力の発揮を見取り、その水準を判断できる課題を考える **【評価課題のデザイン】**

「磯採集で見つかった生物を3種類挙げ、その形態的特徴と分類上の位置を説明しなさい。また、その生物たちが生息する環境が、私たち人間にどのような『生態系サービス』をもたらしているか、現地調査での気づきを含めて記述しなさい。」

8．指導と評価の計画

評価課題に向けて資質・能力を身に付け、発揮しやすい学習活動を組み立てる
【学習過程のデザイン】

身に付けさせたい姿と現状の差分を学習途中で見取り、適切なフィードバックの方法を考える
【形成的評価の計画的な実施】

時間	学習活動	重点	記録	備考
1	●海の生物についてのガイダンス ・重要性、生物を扱う際の留意点 ●「4-1生物の分類」 ●「4-2魚介類の特性」	知		海の生物を学ぶ意義と実習の見通しを示し、課題意識を持たせる。生物の分類を学び、魚類、貝類、甲殻類などの形態的名称と特徴を理解する。
2	●「4-3生物多様性」 ●「4-4生態系サービス」 ・人間に与える影響	思	○	生物多様性の3つの視点から、人間生活を支える4つの生態系サービス（供給、調整、文化的、基盤）の意義を考察する。
3	●「4-５生物の飼育と観察」	知		生物の生態を理解するための飼育方法や観察のポイントを学び、現地調査に向けた動機付けを行う。
4	●第3章「1-1磯採集」 ・事前学習(計画と安全管理)	知		磯採集の服装、持ち物を確認し、海況予測や危険生物への対策を学ぶ。
5・6	・現地調査(磯採集の実践)	思	○	潮間帯やタイドプールでの生物採集・観察。自然の状態の観察から始め、バケツへの採取、適切な輸送方法等を実践する。
7	・事後学習(同定と記録)	知 思	○ ○	採集した生物を調べ、観察野帳にスケッチや特徴を記録する。魚類は頭部を左にして描く等のルールを実践する。
8	●学習の振り返りと評価課題 「学習課題」 パフォーマンス課題の実施	知 思		単元の振り返りを行い、発見した生物多様性と、それが人間に与える恵みについて記述・発表する。 単元を通じての変容を確認し、パフォーマンス課題によって評価するとともに、今後の学習への意欲につなげる。

【専門家庭】「統合的な理解・総合的な発揮」等を活かして単元を構想するプロセスの一例（イメージ）

※「統合的な理解」及び「総合的な発揮」の記載は事務局にて例として作成したもの。

科目名：生活産業基礎　単元名：人々の「困った」をサービスに生まれ変わらせよう（その１）

※統合的な理解、総合的な発揮は直接の評価対象ではないことに留意

（統合的な理解）
生活産業を継承・発展・創造していくことで、人々の暮らしをより豊かにできることについて理解する。

（総合的な発揮）
生活産業における課題を見いだし、これからのよりよい生活産業の在り方について、考え、工夫することができる。

（単元目標・評価規準）知識及び技能
ア　生活産業の特質に応じた、実践的・体験的な学習の方法と進め方について理解している
イ　生活産業に関する課題について創造的な解決に繋げるために必要な技能を身に付けている

（単元目標・評価規準）思考力、判断力、表現力等
ア　具体的な課題（商品開発や地域貢献等）に対し、計画・実践・評価・改善のプロセスを自らマネジメントしながら課題解決に向け考え、工夫する。

時	学習内容	単元目標・評価規準に到達するまでの学習のつながり（抜粋）
9 8 7	● （発表・振り返り） 発表し意見を共有し、振り返りを行う ● （評価・改善） 評価結果を分析し、サービスの改善案を考える。	探究の成果を、筋道立ててまとめ、表現することができる（ア） サービス利用者の反応や意見を収集・分析する（ア）
6 5 4 3	● （実践） クラス内でサービスを試行し、利用者の反応を得る。 ● （計画） 課題解決につながるサービスを計画する。 ● （課題設定） 対象者を明確にし、解決すべき課題を設定する。	構想した計画をもとに、多様な他者と連携・協働しながら表現する（ア） 対象者の立場に立ち、実現可能性をもとに、多様で具体的な解決策を構想する（ア）
2 1	● （問題発見） クラス内の身近な生活の中にある困りごとを収集・整理する ● 生活産業とサービスの関係を理解する。	収集した情報をまとめたり分類したりして、問題を整理・分析する（ア）

日常の身近な困りごとや願いをヒントに、生活産業に関連するサービスを生み出すための問題解決的な学習を展開

現在の生活産業は、時代とともに変化するとともに、検証・改善のサイクルの過程で磨き上げられており、今後自分たちがその役割を担っていく必要があることを理解する（ア、イ）

日常生活を送る中での願いの実現や困りごとの改善に向けたよりよいサービスを生み出すためには、評価・改善を繰り返すことが重要であることを理解する（イ）

多様な他者との連携・協働が、よりよい解決につながることを理解する（ア）

生活をよりよくするサービスとして成立するためには、実現性や収益性、継続性が必要であることを理解する（ア）

対象を明確にし、より適切な課題設定をすることが、よりよい計画の策定、その後の実行、評価・改善につながることを理解する（イ）

よりよい意思決定を行うためには、客観的な調査方法による情報収集が重要であることを理解する（イ）

生活産業が人々の暮らしや生活の質の向上に果たしている役割を理解する（ア、イ）

本単元の学習に関連が強い既習内容

（家庭基礎・家庭総合）生活の課題と実践（仮称）
（中学校　家庭）生活の課題と実践（仮称）

（学びに向かう力、人間性等の「見取る姿　」）

※「見取る姿」は各単元ごとに見取るのではなく、学年・学期などの長い期間を通じて見取るものであることに留意

・生活産業に関わる課題や社会の在り方を、自分事として捉え、多様な他者との対話・協働を通してそれらをよりよく解決しようとしている。
・生活産業に関わる職業人としての視点から、自身の思考や行動を客観的に捉え、調整しようとしている。
・生活産業に関わる職業人としての倫理観と豊かな人間性、社会の一員としてよりよい社会の実現のために働きかけようとしている。

【専門家庭】

「統合的な理解・総合的な発揮」等を活かした単元構想の参考イメージ

単元構想のイメージ

1．生活産業基礎

2．単元名：人々の「困った」をサービスに生まれ変わらせよう（その１）

3．教科の見方・考え方

学習指導要領の記述

生活産業に関する事象を、生活の質の向上の視点で捉え、職業人としての自己の成長と、生活産業の発展につなげること

4．分野・区分の統合的な理解・総合的な発揮

学習指導要領の記述

統合的な理解	総合的な発揮
生活産業に関する様々な課題の解決に向けて取り組むことで、人々の暮らしがより豊かになることを理解する。	生活産業に関する課題解決を通して、人々の暮らしをより豊かにするために、商品やサービスの提供に向けて工夫することができる。

5．学びに向かう力、人間性等の「見取る姿」

指導要録通知の「学びに向かう力」の「見取る姿」

人々の暮らしに関する課題を自分との関係で捉え、対象者の立場に立って考えるとともに、他者と協働しながら、よりよい解決に向けて主体的に取り組もうとしている。
・生活産業に関わる課題を自分との関係で捉え、多様な他者との対話・協働を通してそれらをよりよく解決しようとする態度。
・職業人としての視点から自己の思考や行動を調整する力。
・職業人としての倫理観と豊かな人間性。社会の一員としてよりよい社会を実現しようとする態度。

6．単元の目標・評価規準

何を身に付けさせたいかを明確にする【目標（評価規準）の設定】

目標（評価規準）	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	生活産業の特質に応じた、実践的・体験的な学習の方法と進め方について理解する	具体的な課題（商品開発や地域貢献等）に対し、計画・実践・評価・改善のプロセスを自らマネジメントしながら課題解決に向け考え、工夫する。

7．評価課題

身に付けさせたい資質・能力の発揮を見取り、その実現状況を判断できる課題を考える【評価課題のデザイン】

身近な生活の中から見いだした困りごとをもとに、対象者を明確にしたサービスを計画・試行し、対象者の評価を踏まえて改善案を提案する。

8．指導と評価の計画

評価課題に向けて資質・能力を身に付け、発揮しやすい学習活動を組み立てる【学習過程のデザイン】

身に付けさせたい姿と現状の差分を学習過程で見取り、適切なフィードバックの方法を考える【形成的評価の計画的な実施】

時間	学習活動	重点	記録	備
1 2	●生活産業とサービスの関係を理解する。 ●ICTを活用して、クラス内の身近な生活の中にある困りごとを収集・整理する	知 知		・生活産業が人々の生活を支え、生活の質の向上や地域社会の持続的な発展に果たす役割について理解しているかを確認する。（往　家庭基礎・家庭総合　） ・また、身近な生活の中から「困った」を見いだし、ICTを活用して収集・共有できているかを確認する。
3 4 5 6	（課題設定） ●対象者を明確にし、解決すべき課題を設定する。 （計画） ●課題解決につながるサービスを計画する。 （実践） ●クラス内でサービスを試行し、利用者の反応を得る。	知 思	○ ○	・家庭や地域における生活課題を多面的に捉え、対象者の生活背景やニーズを踏まえて課題設定しているかを見取る。（往　情報Ⅰ） ・サービスの計画では、対象者の立場や実現可能性を踏まえ生活の質の向上を目指し、内容、提供方法、役割分担、評価方法を具体的に考えているかを評価する。（往　消費生活） ・必要に応じて、教師が問い返しを行い、課題とサービスのつながりを明確にさせる。 ・利用者の反応をICTを活用して収集できているかを見取る。
7 8 9	（評価・改善） ●評価結果を分析し、サービスの改善案を考える。 ●発表し意見を共有し振り返り （指導上の留意）実際の生活産業の視点を持てるような働きかけを行う	思	○	・評価結果をもとに、サービスのよさや課題を分析し、改善案を考えているかを評価する。 ・発表や振り返りでは、課題発見から改善までの過程を振り返り、生活産業の意義や今後の学びとのつながりを考えているかを確認する。（往　情報Ⅰ）

「統合的な理解・総合的な発揮」等を活かして単元を構想するプロセスの一例（イメージ）

【看護】

※「統合的な理解」及び「総合的な発揮」の記載は事務局にて例として作成したもの。

第１学年相当　単元名：清潔の援助

※統合的な理解、総合的な発揮は直接の評価対象ではないことに留意

（統合的な理解）
患者に適した日常生活の援助を行うことが、患者の生命力の消耗を最小限にし、回復の過程を妨げることなく、健康を促進させることにつながることを理解する。

（総合的な発揮）
患者に対して、直接情報・間接情報を得て、相手のニーズを満たすことができるように、生命力の消耗を最小限にして、回復の過程を妨げることなく、それを促進させるべく、回復に相応しい援助が提案できる。

（単元目標・評価規準）知識及び技能
生命力の消耗を最小限にし、回復の過程を妨げることがないように、心地よさを与える清潔の援助の知識や技術、その意義や必要性を理解する。

（単元目標・評価規準）思考力、判断力、表現力等
患者にとって最善で根拠のある清潔の援助を目指して、相手を捉え、患者の生命力の消耗を最小限にし、回復の過程を妨げることがないように、心地よさを与える個々の清潔の援助の方法を構想し、提案することができる。

時	学習内容	単元目標・評価規準に到達するまでの学習のつながり	看護臨地実習
14 13	● パフォーマンス課題 ● 清潔の援助の原理・原則 ● 清潔に保つ意義	看護の専門職者が行う清潔の援助や療養環境を整える上で清潔を保つ意義について理解する。 ↔ 清潔の援助の目的・意義・効果に着目し、看護の専門職者が実施する清潔の援助とはどのような援助なのかを考察する。	
12 11	● 陰部の保清 ● 個人の尊厳の尊重	多様な清潔の援助の目的と方法、科学的根拠を理解する。 ↔ 清潔の援助に関する科学的根拠に着目し、患者の状況における留意点や安全・安楽な方法について総合的に考察するとともに、個々の患者に適し、相手の希望に応えた最善な清潔の援助を考察する。 ↔	様々な治療処置をしている患者の清潔の援助の実践
10 9	● 手浴と口腔の保清 ● 清潔の援助の方法と選択		
8 7	● 臥床患者の頭皮の保清 ● 場所・用具・ポジショニング	これまでに学んだことを踏まえて、多様な清潔の援助の方法と実際を理解する。 ↔ 様々な清潔の援助のニーズを充たす看護の中に、個々の援助に対して共通の原理・原則と、例外があることについて考察する。 ↔	機能障害のある患者の清潔の援助の実践
6 5	● 臥床安静患者の全身の保清 ● プライバシー/温かさへの配慮 ● 清拭の技術		
4 3	● 安静度が高い老年患者への部分清拭 ● 清潔の援助の効果と影響	自分たちで思考錯誤しつつ、清潔の援助の影響や効果を考えた実践（部分・全身清拭）をして清潔の援助の効果を理解する。 ← 清潔の援助の目的は単に身体を清潔にする生理的な側面だけではなく、心理社会的な側面をもつことも理解する。 ↔ 看護師役・患者役の体験から、清潔の援助がどのような影響をもたらすか、主観的な気付きから科学的な根拠を探究し、必要な援助を選択する。 ↔	自分で身体を清潔に保てない患者の清潔の援助の実践
2	● 清潔の援助の方法の選択 ● 安全・安楽な清拭の計画作成 ● 環境変化に応じた清潔の援助	清潔の援助を実施する上では、患者の自立度や健康状態を考慮して方法・手順を工夫する必要があることを理解する。 ↔ 清潔の援助を実施するために、何をどのように観察し、判断しなければならないかを考察する。 → 最適な清潔の援助を実施するために必要な過程について適切な理由や科学的根拠をもとに考察する。 ↔	
1	● 清潔の援助のニーズと目的、多様性 ● 清潔習慣と個人的価値 ● 物品の選択と配慮	清潔の援助を実施する上で、五感と知識を使って患者の状況を観察し、患者の清潔のニーズを確認、判断する必要性を理解する。 ↔ 患者の直接情報・間接情報から清潔の援助の必要性を判断する。	

目的・意義に着目し、患者・対象者への適切な方法を吟味する。

本単元の学習に関連が強い既習内容

（第１学年）人体の構造と機能（皮膚の構造と機能、運動器の構造と機能）　（第１学年）基礎看護（人間の基本的ニード、コミュニケーション、活動と運動、寝衣交換）

（学びに向かう力、人間性等の「見取る姿」）

※「見取る姿」は各単元ごとに見取るのではなく、学年・学期などの長い期間を通じて見取るものであることに留意

・産業界等との連携・協働や、多様な他者との対話・議論を通じて、患者の健康に関わる実践的な課題をよりよく解決しようとしている。
・看護の専門的な知識や技能に基づき、あらゆる年代・健康レベルの看護に関わる課題を自分との関係で捉え、それらの課題に進んで解決に取り組み、社会の発展に貢献している。
・今の学習や既習の内容と看護の実際とのつながりを認識し、振り返りを通して、将来に向けて自己の思考や行動を調整しようとしている。

【看護】 「統合的な理解・総合的な発揮」等を活かした単元計画づくりの参考イメージ

単元構想のイメージ

1．科目名：基礎看護

2．単元名：看護の基本となる援助技術と探究（仮）清潔

3．教科の見方・考え方

学習指導要領の記述

人間の健康に関する事象を、回復や増進の視点で捉え、職業人としての自己の成長と、健康的な生活・環境の実現や地域医療の発展につなげること

4．分野・区分の統合的な理解・総合的な発揮

学習指導要領の記述

統合的な理解	総合的な発揮
患者の生命力の消耗を最小限にして、回復の過程を妨げることなく、それを促進させるべく、回復に相応しい環境を整えることの意義を理解する。	患者の生命力の消耗を最小限にして、回復の過程を妨げることなく、それを促進させるべく、回復に相応しい療養環境を整え、患者に最善の日常生活援助を行う。

5．学びに向かう力、人間性の「見取る姿」

指導要録通知の「学びに向かう力」の「見取る姿」

- 産業界等との連携・協働や、多様な他者との対話・議論を通じて、患者の健康に関わる実践的な課題をよりよく解決しようとしている。
- 看護の専門的な知識や技能に基づき、あらゆる年代・健康レベルの看護に関わる課題を自分との関係で捉え、それらの課題に進んで解決に取り組み、社会の発展に貢献している。
- 今の学習や既習の内容と看護の実際とのつながりを認識し、振り返りを通して、将来に向けて自己の思考や行動を調整しようとしている。

6．単元の目標・評価規準

何を身に付けさせたいかを明確にする【目標（評価規準）の設定】

目標（評価規準）	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	生命力の消耗を最小限にし、回復の過程を妨げることがないように、心地よさを与える清潔の援助の知識や技術、その意義や必要性を理解する。	患者にとって最善で根拠のある清潔の援助を目指して、相手を捉え、患者の生命力の消耗を最小限にし、回復の過程を妨げることがないように、心地よさを与える個々の清潔の援助の方法を構想し、実施することができる。

7．評価課題

身に付けさせたい資質・能力の発揮を見取り、その水準を判断できる課題を考える【評価課題のデザイン】

「看護師が行う、患者にとって最善の清潔の援助を次に示す患者に向けて実践しなさい 」

8．指導と評価の計画

評価課題に向けて資質・能力を身に付け、発揮しやすい学習活動を組み立てる【学習過程のデザイン】

身に付けさせたい姿と現状の差分を学習途中で見取り、適切なフィードバックの方法を考える【形成的評価の計画的な実施】

時間	学習活動	重点	記録	備考
1/2	● 単元のガイダンス ● 清潔のニーズと目的、多様性 ● 清潔ケアが及ぼす影響 ● 清潔習慣と個人的価値 ● 文化としての清潔習慣 ● 清潔の援助の方法の選択（入浴など） ● 物品の選択と配慮	知 思		※ガイダンスでは、 ・単元の概要と流れ ・パフォーマンス課題とルーブリック ・前後の学習内容とのつながり（人体、体位、寝衣） ・ワーキング・ポートフォリオへの記録を指導する ※教科書や動画をもとに、実際に自分たちで足浴を体験してみる
3/4	● 安静度が高い高齢の患者への部分清拭 ● 清潔の援助による身体的な効果 ● 清潔の援助を実施する際の留意点	思		※グループワークを実施する（校内実習） ※「気持ちの良い部分清拭とはどのようなものか」を問い、自分たちで物品を選択し、患者の安全・安楽を考慮した部分清拭を実施し、患者にとってどのような足浴が良いのか、実施前・中・後に留意することは何であるかについて、協働的に学習する
5/6	● 臥床安静患者の全身清拭の演習 ● プライバシー/ 温かさへの配慮 ● 安全・安楽に向けた清拭の技術 ・支え方　・力加減 ・触れ方　・かけ湯の実際 ・体位　・ボディメカニクス ・湯温　など	思		※グループワークを実施する（校内実習） ※個々の役割分担（患者役・看護師役）に分かれて、生命力の消耗を最小限にする全身清拭を試行錯誤しながら実施する。その際には、「運動・休息」の体位変換、「衣生活」の寝衣交換の内容が清潔の援助の安楽さにつながることも意識させる ※学習内容をポートフォリオに記録する
7/8	● 臥床患者への洗髪の演習 ● 場所・用具・ポジショニング	知		※グループワークを実施する（校内実習） ※学習内容をポートフォリオに記録する
9/10	● 患者の個別性に合わせた手浴、口腔ケア	思		※グループワークを実施する（校内実習） ※学習内容をポートフォリオに記録する
11/12	● 陰部の保清 ● 個人の尊厳の尊重	知		※グループワークを実施する（校内実習） ※学習内容をポートフォリオに記録する
13/14	● パフォーマンス課題の実施 ● 清潔ケアの意義 ● 清潔の援助の原理・原則	態 思	○ ○	※ポートフォリオを活用した振り返り ※統合的な理解、総合的な発揮を踏まえたパフォーマンス課題で、資質・能力の深まりを確認する。 ※観点別学習評価は、 ・回復の促進と生命力の消耗を最小限にした清潔の援助を提供しているか ・根拠にもとづいた清潔の援助を提供しているか を評価する。

皮膚の保全に繋がるという共通点や部位による物品準備や方法などの相違点を意識

「統合的な理解・総合的な発揮」等を活かして単元を構想するプロセスの一例（イメージ）

【専門情報】

※「統合的な理解」及び「総合的な発揮」の記載は事務局にて例として作成したもの。

高等学校・専門教科情報科・情報探究基礎　単元名（２）情報デザインと表現

※統合的な理解、総合的な発揮は直接の評価対象ではないことに留意

（統合的な理解）
・情報の受け手や社会に与える影響を考慮する視点に立ち、情報デザインをすることが、人々の理解や行動を促し、価値の創造につながることを理解する。

（総合的な発揮）
・課題や目的に応じて情報デザインを考え、情報の受け手や社会にとっての価値創造につなげるための設計・制作・評価・改善を繰り返し、表現することができる。

（単元目標・評価規準）知識及び技能
ア　情報デザインの基本（デザイン４原則や配色、効果等）、HCDやデザイン思考による課題解決の方法、情報の受け手や社会に与える影響を理解している。
イ　行動の促す情報デザインの技法を身に付け、コンテンツの種類や表現の形式に応じたソフトウェアを適切に活用する技能を身に付けている。
ウ　ユーザビリティやアクセシビリティなどを含めたコンテンツの評価方法を身に付けている。

（単元目標・評価規準）思考力、判断力、表現力等
ア　課題や目的に応じて情報デザインを考え、創造的価値を生み出す表現を判断している。
イ　情報デザインの技法を生かして、設計・評価・検証・改善を繰り返すデザイン思考による課題解決の考察をし、価値創造につながる表現している。
ウ　HCDによる評価や検証の結果を基に課題を分析し、価値を高める改善策を判断している。

時	学習内容	単元目標・評価規準に到達するまでの学習のつながり
10	●振り返り ●評価課題	HCDやデザイン思考による課題解決の方法を理解する。（ア） 完成したCI計画を共有し、ポートフォリオを活用してプロセス全体を振り返る。（イ）
9 8	●テスト ・評価 ・改善	評価・改善を繰り返し、課題解決につなげる表現に生かしていく方法を理解する。（ア・イ） フィードバックをもとに改善案を考え、CI計画をブラッシュアップして完成し、価値創造につながる表現をする。（ア・イ） HCDの観点を含めたコンテンツの評価方法を理解し、知的財産権の観点なども含め、多角的に検証する方法を理解する。（ウ） CI計画を他者に発表し、HCDの視点で多角的に評価し、改善する。（イ・ウ）
7 6 5	●プロトタイピング ・ラフスケッチの作成 ・各媒体ごとの作品制作 ・CI計画での統合	プロトタイピングによる制作のメリットを理解する。（ア） 各媒体ごとの制作に情報デザインの技法に関するスキルを身に付ける。（イ） ラフスケッチのフィードバックを基にをもとに各媒体の作品を制作しCI計画を表現する。（ア・イ） 企画書やコンテンツの評価の観点に基づき、プロトタイプをユーザ視点で評価する。（ウ） 試作のフェーズの考え方を理解しラフスケッチの制作方法を理解する。（ア） テストのフェーズの考え方を理解し、コンテンツの評価方法を理解する。（イ・ウ） ラフスケッチなどのプロトタイプ制作を、情報デザインの技法を生かして表現する。（ア・イ）
4 3	●デザイン思考の考え方 ●共感 ●問題の定義 ●発想 ・CIの企画書の作成 ・配色設計	発想のフェーズでの考え方を理解し、アイデアを発散する方法を身に付ける。（ア） 創造的価値を生み出すアイデアを考え、企画書にまとめる。（ア） デザイン思考の考え方で課題解決する学習や、ユーザの視点で共感や定義のフェーズでの考え方についてであることを理解する。（ア） 課題や目的に応じた、ユーザや想定するクライアントの具体的な状況を考え、問題を焦点化する。（ア）
2 1	●単元のガイダンス ●情報デザインの考え方 ●情報デザインの技法	情報デザインの基本や、情報の受け手や社会に与える影響を理解する。（ア） コンテンツの種類や表現の形式に応じたソフトウェアを適切に活用することができる。（イ） 課題や目的に応じた情報デザインの方法を考える。（ア） 情報デザインを実現するために目的に応じて適切にソフトウェアを活用し表現をする。（イ）

情報デザインでの基礎を作品制作に生かし、課題解決や価値創造につなげる表現をする

本単元の学習に関連が強い既習内容	（情報Ⅰ）（２）情報デザインとデザイン思考
本単元の学習に関連が強いその他の科目	【情報デザイン・社会表現分野】情報デザイン、ユーザ・エクスペリエンス・デザイン、メディアデザイン、共創メディアデザイン

（学びに向かう力、人間性等の「見取る姿」）　【検討中参考イメージ】　※「見取る姿」は各単元ごとに見取るのではなく、学年・学期などの長い期間を通じて見取るものであることに留意

・データ・コンテンツ・システムにかかわる課題を自分との関係で捉えようとしている。
・情報に関する事象に多様な他者との対話・協働を通して、課題や問いを見いだし、解決しようとしている。
・情報及び情報技術に関する職業人としての視点から、よりよい解決や価値創造に向け追求し続けようとしている。

【専門情報】

「統合的な理解・総合的な発揮」等を活かした単元計画づくりの参考イメージ

単元構想のイメージ

1．科目名：情報探究基礎

2．単元名：（２）情報デザインと表現

3．教科の見方・考え方

学習指導要領の記述

情報に関する事象を、課題解決や価値創造の視点で捉え、職業人としての自己の成長と、情報及び情報技術を活用したよりよい社会の実現につなげること

4．分野・区分の統合的な理解・総合的な発揮

学習指導要領の記述

統合的な理解	総合的な発揮
情報の受け手や社会に与える影響を考慮する視点に立ち、情報デザインをすることが、人々の理解や行動を促し、価値の創造につながることを理解する。	課題や目的に応じて情報デザインを考え、情報の受け手や社会にとっての価値創造につなげるための設計・制作・評価・改善を繰り返し、表現することができる。

5．学びに向かう力、人間性の「見取る姿」

指導要録通知の「学びに向かう力」の「見取る姿」

情報に関する事象に主体的・協働的に関わり、情報及び情報技術に関する職業人としての視点から、データ・コンテンツ・システムを基に課題や問いを見いだし、よりよい解決や価値創造に向け追求し続けようとしている。

- データ・コンテンツ・システムにかかわる課題を自分との関係で捉えようとしている。
- 情報に関する事象に多様な他者との対話・協働を通して、課題や問いを見いだし、解決しようとしている。
- 情報及び情報技術に関する職業人としての視点から、よりよい解決や価値創造に向け追求し続けようとしている。

6．単元の目標・評価規準

何を身に付けさせたいかを明確にする
【目標（評価規準）の設定】

目標（評価規準）	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	・情報デザインの基本的な考え方を理解し、その技法を身に付け、デザイン思考の考え方による課題解決の方法を理解するとともに、・・・	・課題や目的に応じて情報デザインを考え、デザイン思考の考え方で設計・評価・検証・改善を繰り返す創造的価値を生み出す表現し、・・・

7．評価課題

身に付けさせたい資質・能力の発揮を見取り、その水準を判断できる課題を考える
【評価課題のデザイン】

「CI計画」の一連の流れで取り組んだことについて、ポートフォリオを作成しなさい。」

8．指導と評価の計画

評価課題に向けて資質・能力を身に付け、発揮しやすい学習活動を組み立てる
【学習過程のデザイン】

身に付けさせたい姿と現状の差分を学習途中で見取り、適切なフィードバックの方法を考える
【形成的評価の計画的な実施】

時間	学習活動	重点	記録	備考
1 2	●単元のガイダンス ●情報デザインの考え方 ●情報デザインの技法	知		※ガイダンスでは、 ・「情報デザイン・社会表現」分野やその各科目との関わり ・単元の概要と流れ、ルーブリック を指導する。 ※情報デザインの考え方・技法と「情報デザイン」の科目とのつながりをイメージできるようにする。
3 4	●デザイン思考の考え方 ●共感 ●問題の定義 ●発想 ・CIの企画書の作成 ・配色設計	思		※個々の役割分担に分かれて調査する場面と、協働学習により合意形成する場面を組み合わせて学習を行う。 ※産業界で活用されている技法を用いて、協働的に学習する ※ポートフォリオを作成し、10限目の学習の振り返りに生かす行う。 ※HCDの観点やデザイン思考の考え方等を、「ユーザ・エクスペリエンス・デザイン」の科目とのつながりをイメージできるようにする。
5 6 7	●プロトタイピング ・ラフスケッチの作成 ・各媒体ごとの作品制作 ・CI計画での統合	思		※CI計画として全体性の統一感を持ちつつ、複数の技法を活用して個々の媒体の作成を行い、役割分担に分かれて制作する場面と、協働学習により制作する場面を組み合わせて学習を行う。
8 9	●テスト ・評価 ・改善	知 思	○ ○	※観点別学習評価は、 ・情報デザインの基本的な考え方を踏まえた表現をしているか ・CI計画として、作品の完成度が高い表現をしているか ・コンテンツに応じた評価手法により、価値を高める改善策を考えているか を記述分析で評価する。
10	●振り返り ・ポートフォリオを活用したプロセス全体の振り返り ●評価課題	知 思	○ ○	※ポートフォリオを活用してプロセス全体の振り返ることにより、「メディアデザイン」や「共創メディアデザイン」の科目とのつながりをイメージできるようにする。 ※評価課題で、資質・能力の発揮の水準を確認する。

「統合的な理解・総合的な発揮」等を活かして単元を構想するプロセスの一例（イメージ）

【福祉】

※「統合的な理解」及び「総合的な発揮」の記載は事務局にて例として作成したもの。

第１学年相当　科目：社会福祉基礎　単元名：社会福祉の理念と意義

※統合的な理解、総合的な発揮は直接の評価対象ではないことに留意

（統合的な理解）
・誰もが尊厳を保ち、地域で支え合いながら自立した生活を送れることが、私たちの暮らしを豊かにし、よりよい地域づくりにつながることを理解する。

（総合的な発揮）
・日常生活を見つめ、尊厳の保持や自立支援の視点から身近な生活事象に関心や疑問をもち、科学的な根拠に基づいて状況を整理し、背景や要因を考察できる。

（単元目標・評価規準）知識及び技能
（ア）　生活と福祉との関係や、社会福祉の理念・意義について理解する。
（イ）　身近な生活課題を捉えるために必要な技能を身に付ける。

（単元目標・評価規準）思考力、判断力、表現力等
（ア）生活に関する事象に着目し、人間の尊厳や自立の視点から問いを見いだす。
（イ）日常生活や地域とのつながりを踏まえて、多面的に考察し、表現する。

時	学習内容	単元目標・評価規準に到達するまでの学習のつながり
16	●学習の振り返り ●評価課題	その人らしい生活と地域とのつながりを踏まえ、社会福祉の理念と意義について理解する。（ア） 誰もがその人らしく暮らせる地域の実現に向けた社会福祉の在り方について考察し、表現している。（イ）
15〜10	●生活を支える社会福祉の役割について実地調査 関連科目 科目「コミュニケーション技術」 ・福祉実践におけるコミュニケーション 科目「介護実習」・多職種協働及びチームケアの理解	地域生活を支える自助・互助・共助・公助の役割と相互の関係について理解する。（ア） 社会の変化に伴う生活課題と社会福祉の役割について理解する。（ア） 社会福祉協議会などでのフィールドワークを通して、地域の生活課題を捉えるために必要な情報を収集・整理する方法を身に付ける。（イ） 見いだした生活上の課題について、調査した内容を基に考えをまとめ、改善策や対応策を提案する。（イ） 本人・家族の状況や地域における支援の現状を踏まえ、生活上の課題を見いだす。（ア）
9〜6	●社会福祉の理念について事例研究	今日的な課題を踏まえ、地域共生社会と社会福祉の理念との関わりについて理解する。（ア） 社会福祉の理念や考え方の変遷を理解する。（ア） 新聞記事、白書や統計資料等などから、生活や福祉に関する課題について必要な情報を収集・整理する方法を身に付ける。（イ） 見いだした問いを基に、社会福祉の理念と生活課題の関係を多面的に考察する。（イ） 社会福祉の考え方の変化に着目し、生活や福祉に関する課題とその背景について問いを見いだす。（ア）
5〜2	●人間の尊厳と自立について当事者の語り・対話 関連科目 科目「介護福祉基礎」 ・介護の意義と役割 科目「生活支援技術」 ・自立に向けた生活支援	人間の尊厳と生活の質との関わりについて理解する。（ア） 自立における自己選択・自己決定の意義について理解する。（ア） 人間の尊厳が世界共通の普遍的価値であることを理解する。（ア） その人らしい生活を支える要因について多面的に考察する。（イ） 人間の尊厳の視点から、自立を支える援助の在り方について考察する。（イ） 人間の尊厳に関する考え方を比較し、共通する視点について考察する。（イ）
1	●科目・単元ガイダンス	福祉という言葉の意味について理解する。（ア）

人間の尊厳と自立の視点から、その人らしい生活と地域のつながりを捉える

本単元の学習に関連が強い既習内容

（中学校）・社会科　公民的分野　少子高齢化に関する学習　人間の尊重と日本国憲法に関する学習
・技術・家庭科　家庭分野　家族・家庭や地域との関わりに関する学習

（学びに向かう力、人間性等の「見取る姿」）【検討中参考イメージ】　※「見取る姿」は各単元ごとに見取るのではなく、学年・学期などの長い期間を通じて見取るものであることに留意

・社会福祉に関わる課題や社会の在り方を自分事として捉え、問いを見いだし、自己の成長や地域社会への参画に向けて進んで関わろうとしている。
・当事者や福祉専門職等との対話・協働を通じて、多様な立場を尊重しながら、倫理観に基づき、課題をよりよく解決しようとしている。
・社会福祉を学ぶ意義を踏まえ、自己の考えの変容や課題の発見・解決の過程を振り返り、今後の学習や生活に生かそうとしている。

「統合的な理解・総合的な発揮」等を活かした単元構想の参考イメージ

【福祉】

単元構想のイメージ

1．科目名：社会福祉基礎

2．単元名：社会福祉の理念と意義

3．教科の見方・考え方

学習指導要領の記述

生活に関する事象を、人間の尊厳と自立の視点で捉え、職業人としての自己の成長と地域福祉の推進につなげること。

4．分野・区分の統合的な理解・総合的な発揮

学習指導要領の記述

統合的な理解	総合的な発揮
誰もが尊厳を保ち、地域で支え合いながら自立した生活を送れることが、私たちの暮らしを豊かにし、よりよい地域づくりにつながることを理解する。	日常生活を見つめ、尊厳の保持や自立支援の視点から身近な生活事象に関心や疑問をもち、科学的な根拠に基づいて状況を整理し、背景や要因を考察できる。

5．学びに向かう力、人間性等の「見取る姿」

指導要録通知の「学びに向かう力」の「見取る姿」

- 社会福祉に関わる課題や社会の在り方を自分事として捉え、問いを見いだし、自己の成長や地域社会への参画に向けて進んで関わろうとしている。
- 当事者や福祉専門職等との対話・協働を通じて、多様な立場を尊重しながら、倫理観に基づき、課題をよりよく解決しようとしている。
- 社会福祉を学ぶ意義を踏まえ、自己の考えの変容や課題の発見・解決の過程を振り返り、今後の学習や生活に生かそうとしている。

6．単元の目標・評価規準

何を身に付けさせたいかを明確にする【目標（評価規準）の設定】

目標（評価規準）	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	生活と福祉との関係や、社会福祉の理念と意義について理解するとともに、身近な生活課題を捉えるために必要な技能を身に付ける。	生活に関する事象について、人間の尊厳と自立から問いを見いだし、日常生活や地域とのつながりを踏まえて、多面的に考察し、表現する。

7．評価課題

身に付けさせたい資質・能力の発揮を見取り、その実現状況を判断できる課題を考える【評価課題のデザイン】

社会福祉を活用して、地域でその人らしい生活を実現している事例を調べ、生活課題の背景や要因を整理し、地域とのつながりを踏まえた支援や関わり方について考えをまとめなさい。

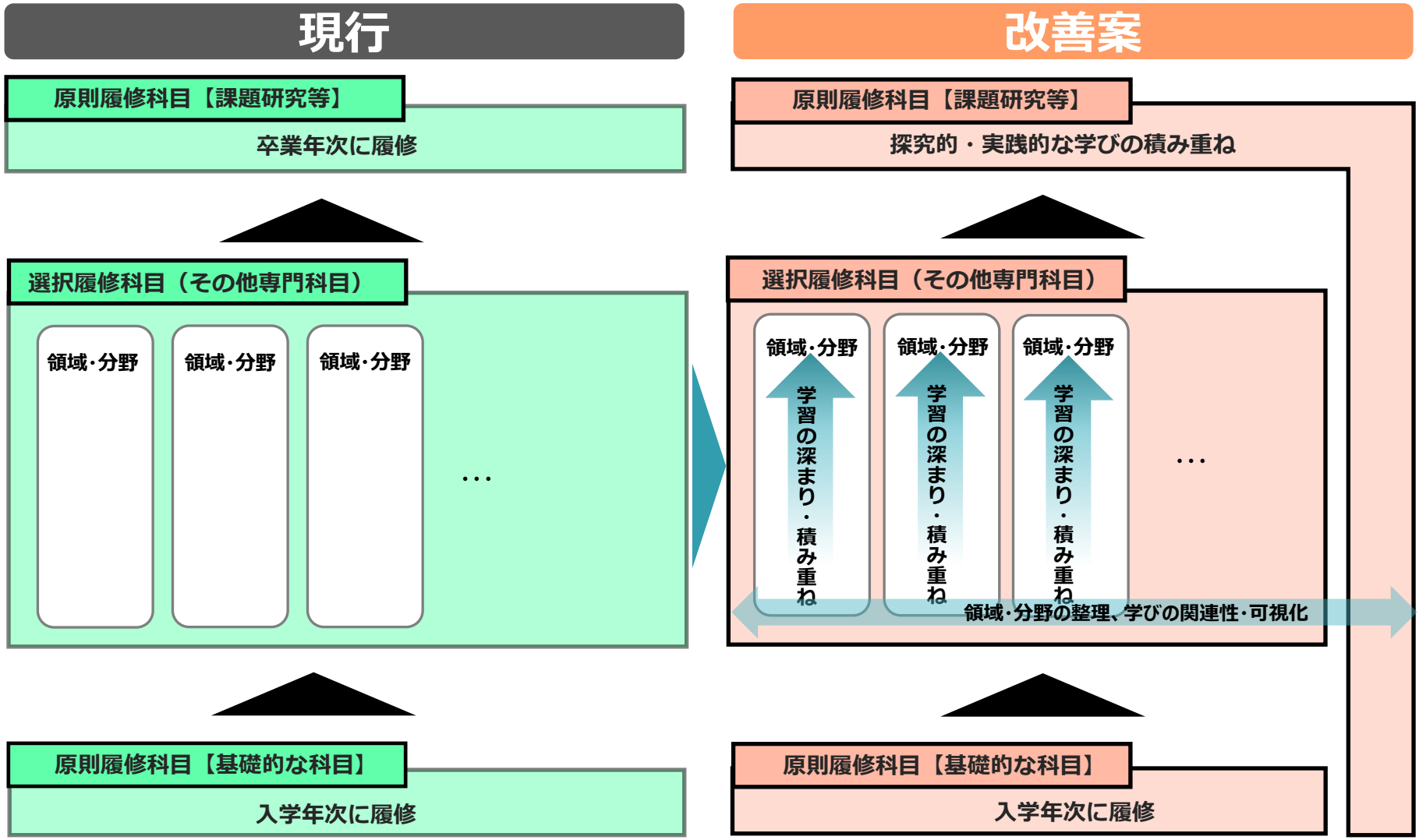
8．指導と評価の計画

評価課題に向けて資質・能力を身に付け、発揮しやすい学習活動を組み立てる【学習過程のデザイン】

身に付けさせたい姿と現状の差分を学習過程で見取り、適切なフィードバックの方法を考える【形成的評価の計画的な実施】

時間	学習活動	重点	記録	備考
1	●科目・単元のガイダンス ●福祉の言葉の意味とは			※科目の意義や学習の流れ、学習方法について説明する。 ※福祉という言葉の意味について理解を促す。
2 〜 5	●人間の尊厳と自立について当事者の語り・対話 ・人間の尊厳に関する理念や宣言や条約 ・自立とは ・自立生活支援とは	思 知	○	・思①：ワークシート（実践的な学習） 当事者の語りや対話などを通して、自己選択・自己決定と自立との関係について考察できるようにする。 ・知①：ワークシート 人間の尊厳と自立の概念を適切に説明できるように促す。 ●科目「介護福祉基礎」：介護の意義と役割 ●科目「生活支援技術」：自立に向けた生活支援と関連させながら指導
6 〜 9	●福祉の理念について事例研究 ・日本国憲法と社会福祉 ・経済的救済から自立生活支援へ ・地域共生社会	思 知		・思②：レポート 社会福祉の考え方の変化に着目し、生活や福祉に関する課題やその背景から問いを見いだし、社会福祉に求められることについて考察できるようにする。 ・知②：小テスト 社会福祉の理念を日本国憲法や生活課題と関連付けて説明できているかを確認する。
10 〜 15	●生活を支える社会福祉の役割について実地調査 ・家族や生活様式の変化 ・社会や健康を取り巻く変化 ・生活を支える仕組み	思	○	・思③：フィールドワークシート（実践的な学習） 社会福祉協議会などでのフィールドワークを通して調査した内容を基に考えをまとめ、改善策や対応策を提案できるようにする。 ●科目「コミュニケーション技術」：福祉実践におけるコミュニケーション ●科目「介護実習」：多職種協働及びチームケアの理解と関連させながら指導
16	●学習の振り返り ●評価課題	学 思	○	・学①：リフレクションシート 単元を通した自己の変容を振り返り、今後の学習や日常生活につなげることができるよう促す。 ・思④：評価課題 「総合的な発揮」を踏まえた評価課題で、資質・能力の深まりを確認する。

職業に関する各教科における、各領域・分野における学びの体系の整理イメージ



学びの深まりや資質・能力を意識した主体的・対話的で深い学びの一層の充実に向けた記述の改善イメージ

現　行

第２９　建築構造

２　内容

１に示す資質・能力を身に付けることができるよう、次の〔指導項目〕を指導する。

〔指導項目〕

（１）建築構造の概要

（２）建築材料

・
・
・

改善イメージ

（現行学習指導要領をもとにしたイメージ）

第２９　建築構造

２　内容

（１）建築構造の概要

建築物の構造について、技術の進展に対応した建築物の構法や構造の種類、歴史的な発達過程と特徴に着目し、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

知識・技能

ア　建築物の構造について、建築構造の種類と特徴を踏まえて理解すること。

思・判・表

イ　建築物の力学的な特性に着目して、建築物の構造に関する課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善すること。

（２）建築材料

建築材料について、種類と特徴、規格と性能に着目し、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

知識・技能

ア　建築材料について、種類と特徴、規格と性能を踏まえて理解するとともに、関連する技能を身に付けること。

思・判・表

イ　物理的・化学的性質と用途に着目して、建築材料に関する課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善すること。

デジタル学習基盤を用いる意義（イメージ）

産業教育の学習過程のイメージ（※）

課題発見・解決のプロセス

課題の発見 → **課題解決の方向性の検討** → **計画の立案** → **計画の実施** → **振り返り**

次の課題発見へ

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる

①多様で大量の情報を扱うことができる。

- ✓ 過去の統計データを即時参照したり、定期的な観察・実験データを蓄積・グラフ化したりする。
- ✓ 情報と情報を比較したり、関連付けたりする。



②時間や空間を問わずに情報をやり取りすることができる。

- ✓ 遠隔地にいる各分野の専門家の助言を即時に得る。
- ✓ 専門的な技術を動画として保存し、繰り返し視聴・演習するなど、必要な時に必要な情報を取り出す。



③思考の過程や結果を共有することができる。

- ✓ 多様な他者と、それぞれの考えを出し合い即時参照する。
- ✓ 自身の思考の過程やその根拠を記録する。



④多様な子供たちにとって包摂的な環境

アクセシビリティの向上
（文字サイズ、音声読み上げ、字幕など）

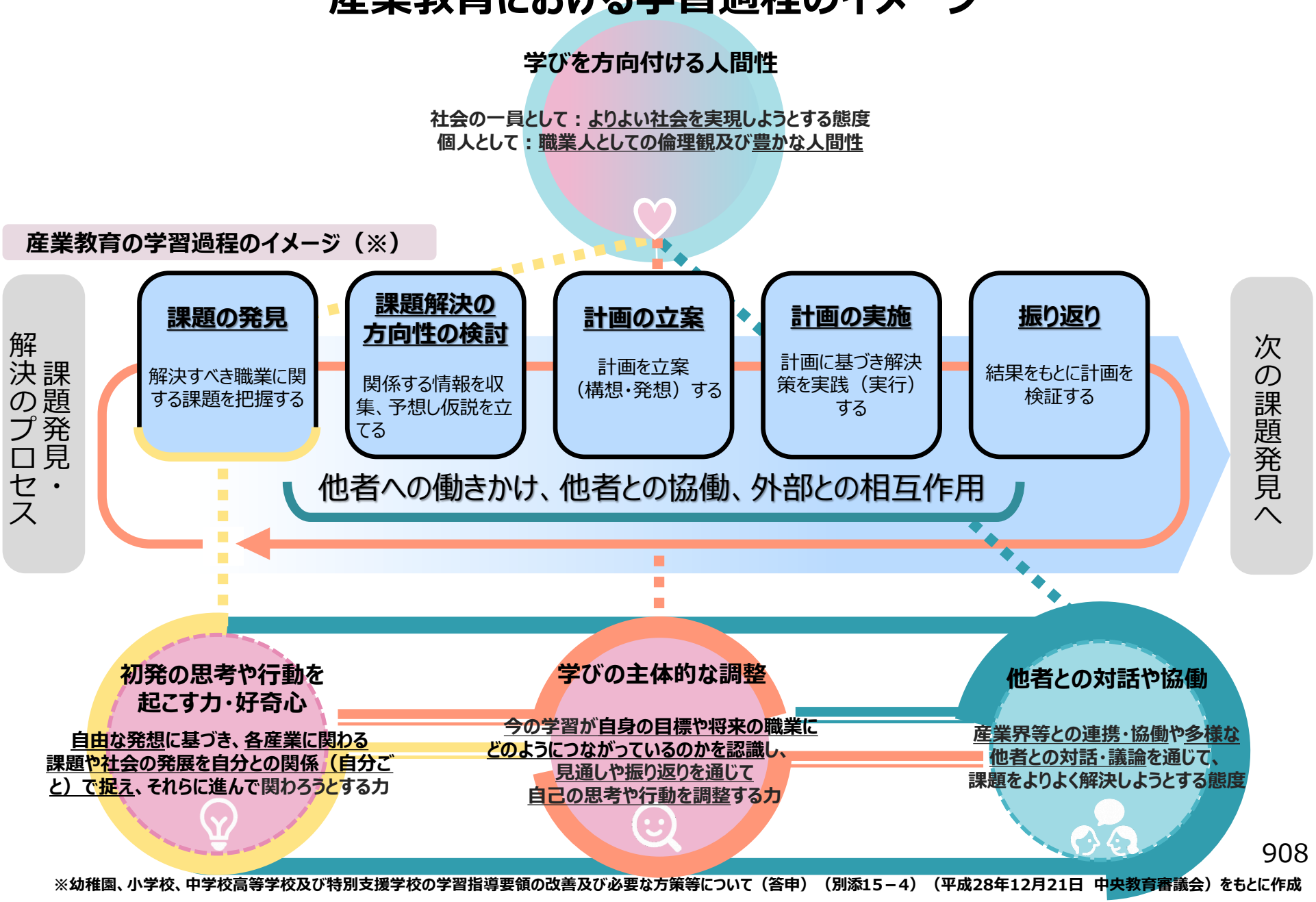
教師の配慮
（つまづきや進度の確認など）

心理的安定性
（質問のしやすさ、不安の軽減など）

自立した学習者を育成

- ✓ 多様で大量のデータを**見方・考え方を働かせて**、**収集、取捨選択、解釈**することで、より洗練された**実践的な問いや仮説を設定**したり、**具体的で実現可能性の高い計画を立案・実施**したりすることができる。
- ✓ **外部の専門家の助言等に基づき、問いを磨いたり、最先端の技術をよりよく身に付けたりする**ことができる。
- ✓ 専門家による**振り返り時の講評や指導助言**等により、**メタ認知や、次なる課題の発見**につなげることができる。
- ✓ 思考の過程等を逐次振り返ることで、**自身の考えを深める**ことができる。
- ✓ **練りあいのよさや意義を理解**するとともに、当該振り返りを**次の学習につなげる**ことができる。

産業教育における学習過程のイメージ



※幼稚園、小学校、中学校高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善及び必要な方策等について（答申）（別添15－4）（平成28年12月21日 中央教育審議会）をもとに作成

目標、見方・考え方（素案）

目標

	特別の教科 道徳
小学校	• 第１章総則の第１の２の⑵に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。
中学校	• 第１章総則の第１の２の⑵に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

見方・考え方

※目標とは別に見方・考え方を示すことはしない

教育課程全体の中で「道徳」・「総合」・「特活」が果たす役割（イメージ）

我が国の学校教育における道徳科、総合的な学習・探究の時間、特別活動による学びは…

■ 多様化・デジタル化が進み、予測困難な時代にあって、AI時代にとりわけ重要となる、よりよく生きる基盤としての道徳性を養うとともに、「自らの人生を舵取りすることができる力」や「民主的で持続可能な社会の創り手」の育成に向け、「好き」や「得意」、社会を形成する当事者としての在りようを含む「自己の在り方生き方」と向き合い、思索していく機会を公教育として保障する役割 を果たすものと整理できる

■ また、各教科とは異なる「自己の在り方生き方」の思索という特質は、どのように社会や世界と関わり、よりよい人生を送るかに関わる「学びに向かう力、人間性等」の涵養と密接な関わりを有していることから、 各教科において「学びに向かう力、人間性等」をよりよく育む基盤としての役割 を担うとともに、各教科と往還しつつ、全人的に子供を育む教育課程上の役割を有するものと整理できる



※ 図は、道徳、総合、特活の特質や学習過程と特に親和性のある「学びに向かう力、人間性等」の要素を明示し、領域等の特質を明らかにするとともに、各教科でよりよく「学びに向かう力、人間性等」を育む上での基盤としての性質を示しているものであり、**各教科等の学びを通じて一体的に育まれる資質・能力の3つの柱の要素を分割し、「割り付け」たり、「分担」したりすることを示しているものではない**ことに留意

道徳科と特別活動との連携

- **各教科等の中でもとりわけ特別活動**は、学校を身近な社会と捉え、「合意形成」や「意思決定」のプロセスを通じて、**実社会・実生活をよりよいものに創りかえていく特質**を有しており、多様な価値観を有する**他者との協働を通じて、内面的資質としての道徳性を養う道徳教育と深い関わり**を有していると言える。

（※）例えば、道徳科で「公正、公平、社会正義」について考え、議論したことを踏まえて、実生活上の「公正、公平、社会正義」に関わる課題を特別活動で設定し、学級や学校のルール形成といった「合意形成」や、価値観に照らして行動を選択する「意思決定」につなげていくことが考えられる
（※）各学校や実践者による研究はもとより、研究団体の一層の対話・連携に資することも期待できる

道徳教育の「実践の場」

合意形成
価値観の対立や葛藤と向き合いながら**納得解**を創造

意思決定
自己の価値観に照らし**行動**を選択

「特別活動」
「学級・学校や自己の生活に関わる課題」等に取り組む

例
学級活動や児童会・生徒会活動において、**「公正、公平、社会正義」**の観点から生活の中の問題や納得解を見出し**「ルールの形成」**等の「社会創造」につなげる

実践が考えの深まりに資する

考え、議論したことを実践に活かす

「複数時間」の学び（問題を自分事として捉え、学びを深める）**を活かす**

内面的資質としての「道徳性」を養う

問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習
A)**価値の実現をめぐる葛藤**、B)**価値の対立をめぐる葛藤**に対する**自分なりの答え**を見いだす、
道徳的行為に関する**実体験や実感を伴う活動**を取り入れる **等**

「特別の教科 道徳」
「答えが一つではない道徳的課題」と向き合う

例
「公正、公平、社会正義」の内容項目について考え、議論し、自分なりの答えを見いだす

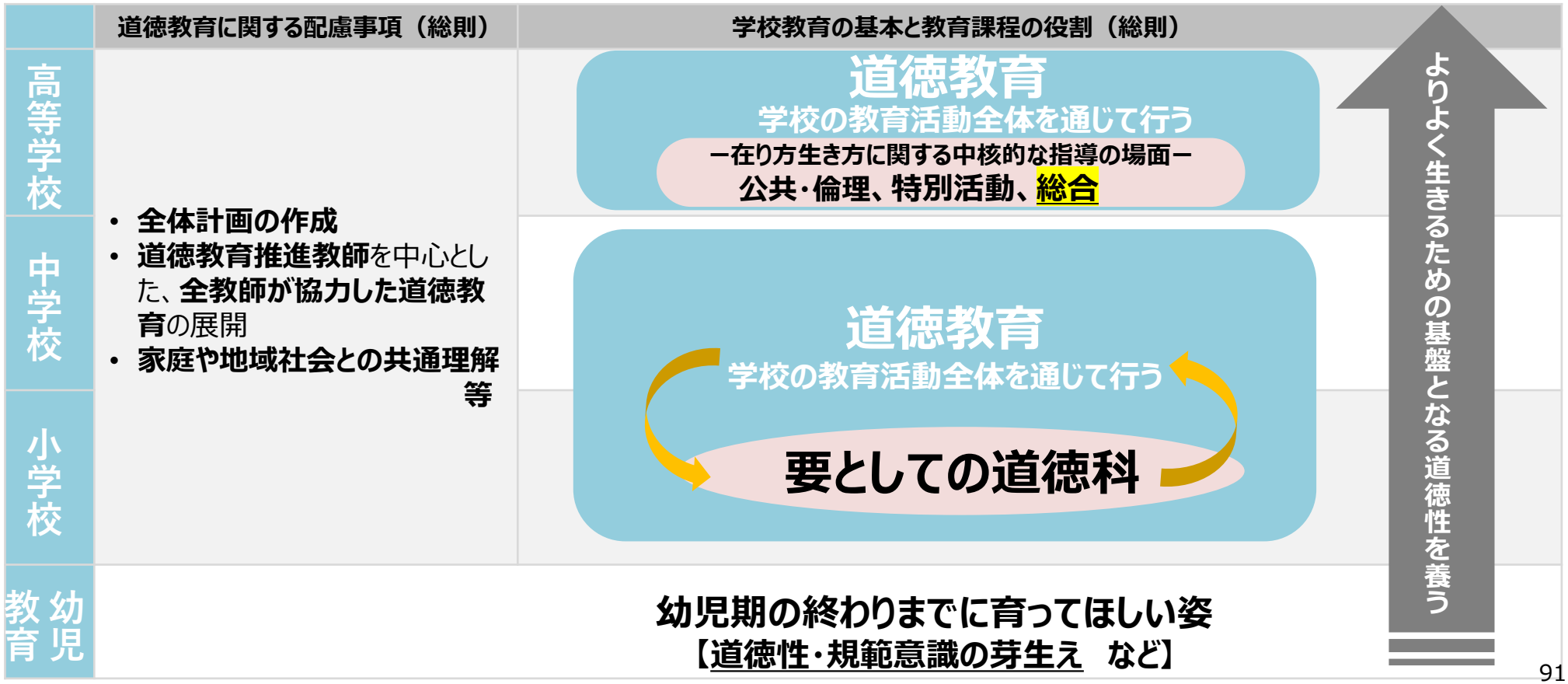
道徳的諸価値の理解

※道徳教育は、特別の教科 道徳を要として各学校の教育活動全体を通じて行う

各学校段階を通じた道徳教育のイメージ

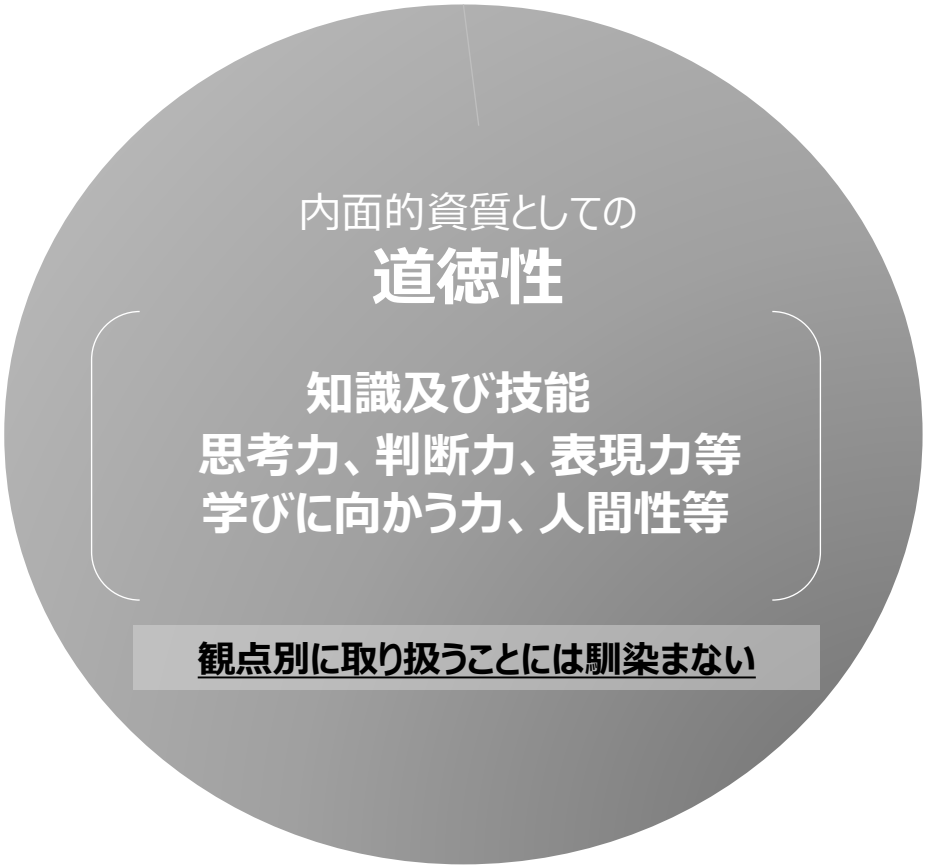
- 現行学習指導要領上、**公民科（公共、倫理）及び特別活動が、「人間としての在り方生き方に関する中核的な指導の場面」**とされているところ、**総合の目標でも、「自己の在り方生き方についての考えを深める」ことを示していること**等を踏まえ、**高校の総則で示している「人間としての在り方生き方に関する中核的な指導の場面」**について、**特別活動と公民科（公共、倫理）に加え、総合を新たに位置付ける**こととし、より一層、実態に即した形で道徳教育を進めていくべきである。

（※）「人間としての在り方生き方に関する中核的な指導の場面」に総合を位置付けたとしても、個別に道徳教育の指導のための時間をかける必要があるものではないことに留意



道徳科における資質・能力の構成について（イメージ）

- 道徳科における資質・能力については、現行学習指導要領上、**育むべき「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」を分節して整理していない**。
- その上で、**道徳科における資質・能力の構成**については、**人格そのものに働きかける特質から、資質・能力を分節して観点別に取り扱うことには馴染まない**ことを踏まえ、以下のとおり整理できる。



「道徳」「特活」「総合」における資質・能力の特質（イメージ）

「道徳」、「特活」、「総合」の三者における資質・能力の構成について、
① **「道徳」は、人格そのものに働き掛け、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う**との特質から、
② **「特活」は、確かな民主主義の担い手の育成や共生社会の実現に向けた基盤**としての特質から、
③ **「総合」は、各教科の学びも活用しつつ、興味・関心に基づき意味や価値を創造する**特質から、
以下のとおり整理できる。



自らの人生を舵取りする力 と 民主的で持続可能な社会の創り手 の育成

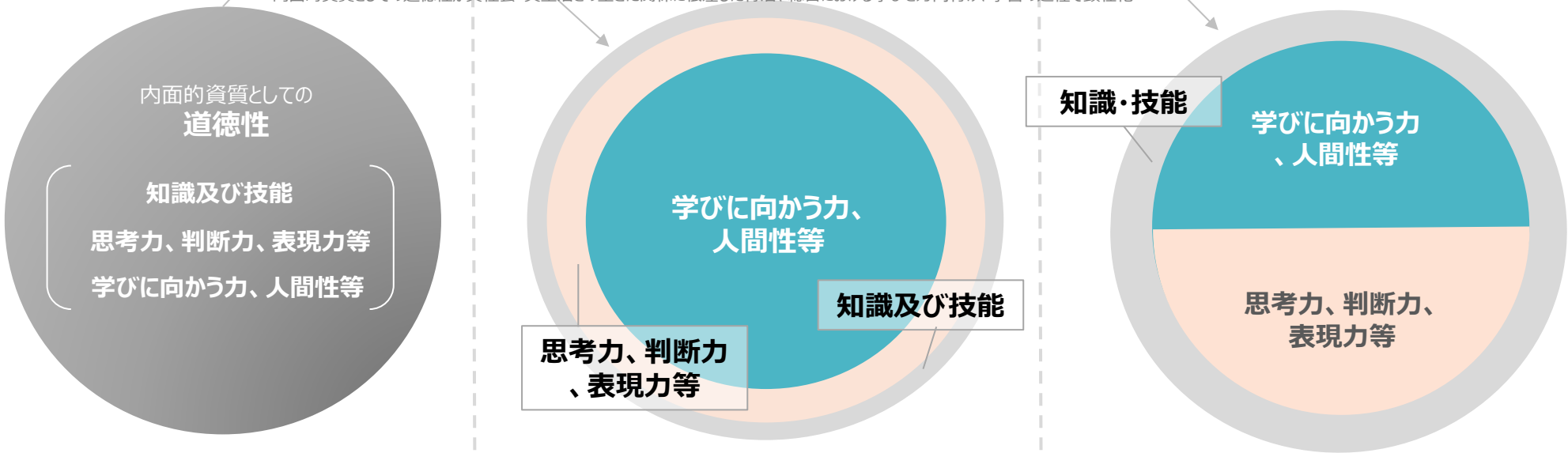


「道徳」
「答えが一つではない道徳的課題」と向き合う

「特活」
「学級・学校や自己の生活に関わる課題」等に取り組む

「総合」
「自己の興味・関心に関わる課題」等に取り組む

内面的資質としての道徳性が実社会・実生活との生きた関係に根差した特活、総合における学びを方向付け、学習の過程で顕在化



人格そのものに働きかける特質から、資質・能力を分節して観点別に取り扱うことには馴染まない

確かな民主主義や共生社会に向け、他者との対話や協働をはじめとする「学びに向かう力、人間性等」がとりわけ重要であり、思考・判断・表現の過程で一体的に表出

初発の思考・行動、好奇心をはじめとする「学びに向かう力、人間性等」と、知識及び技能を効果的に活用して探究を行う思考力、判断力、表現力等がとりわけ重要

道徳科における見方・考え方について

- 見方・考え方が、学校教育における各教科等の目標を越えて、その後の人生でも豊かに働くことを視野に入れている中で、**道徳科においては、各教科等と比べても、目標自体がその後の人生という視点からも妥当性を有する特質がある**と言えることから、**引き続き、道徳科においては目標とは別に見方・考え方を示すことはしない**ものとすることが適当である。

［各教科等］

（例）理科(※)

自然や社会の事象・言説を、自然科学的な視点から捉え、観察・実験の結果や科学的知見などに基づいて、客観的、論理的、批判的に考察すること



その後の人生

見方・考え方
教科等を学ぶ
本質的な意義の中核
「灯台」のように
資質・能力の育成を導く

高等学校
目標

中学校
目標

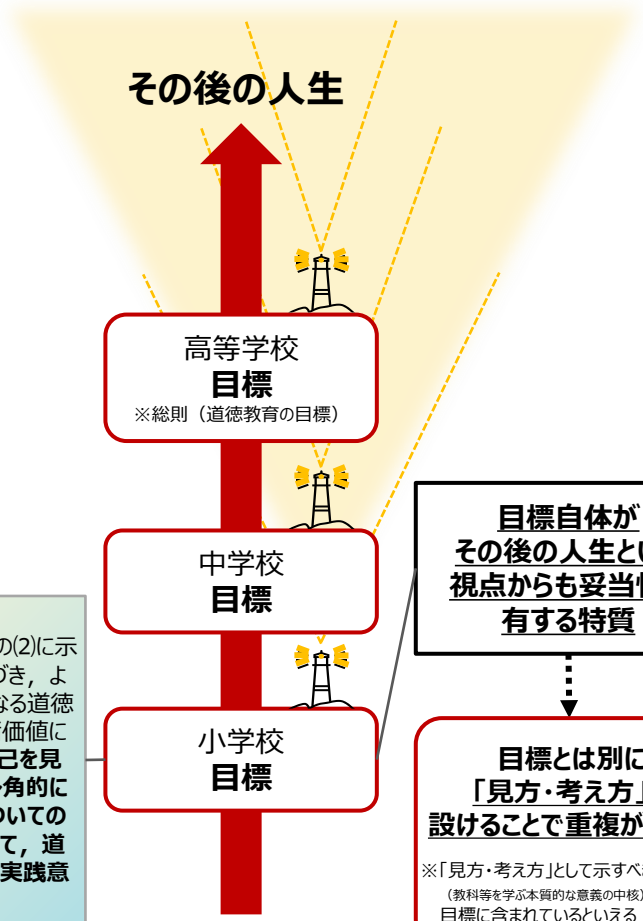
小学校
目標

（知識及び技能）
自然の事物・現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。

その後の人生における世の中を見る視点や考え方、よりよい社会や幸福な人生につなげていけることが
目標だけでは分かりづらい

（※）理科の見方・考え方及び目標については、理①②より抜粋

［特別の教科　道徳］



第１章総則の第１の２の⑵に示す道徳教育の目標に基づき，よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため，道徳的諸価値についての理解を基に，**自己を見つめ，物事を多面的・多角的に考え，自己の生き方についての考えを深める学習を通して，道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度を育てる。**

目標自体がその後の人生という視点からも妥当性を有する特質

目標とは別に「見方・考え方」を設けることで重複が生じる

※「見方・考え方」として示すべき要素（教科等を学ぶ本質的な意義の中核）が目標に含まれているといえる

目標及び見方・考え方（イメージ）

※記載は現行のものを引用

	小学校	中学校	高等学校
総則（道徳教育）	**第１の２の⑵** 道徳教育は，教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき，自己の生き方を考え，主体的な判断の下に行動し，自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とすること。	**第１の２の⑵** 道徳教育は，教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき，人間としての生き方を考え，主体的な判断の下に行動し，自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とすること。	**第１款の２の⑵** 道徳教育は，教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき，生徒が自己探求と自己実現に努め国家・社会の一員としての自覚に基づき行為しうる発達の段階にあることを考慮し，人間としての在り方生き方を考え，主体的な判断の下に行動し，自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とすること。
道徳科	第１章総則の第１の２の⑵に示す道徳教育の目標に基づき，よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため，道徳的諸価値についての理解を基に，自己を見つめ，物事を多面的・多角的に考え，自己の生き方についての考えを深める学習を通して，道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度を育てる。	第１章総則の第１の２の⑵に示す道徳教育の目標に基づき，よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため，道徳的諸価値についての理解を基に，自己を見つめ，物事を広い視野から多面的・多角的に考え，人間としての生き方についての考えを深める学習を通して，道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度を育てる。	なし
見方・考え方	（目標とは別に見方・考え方を示すことはしない）		

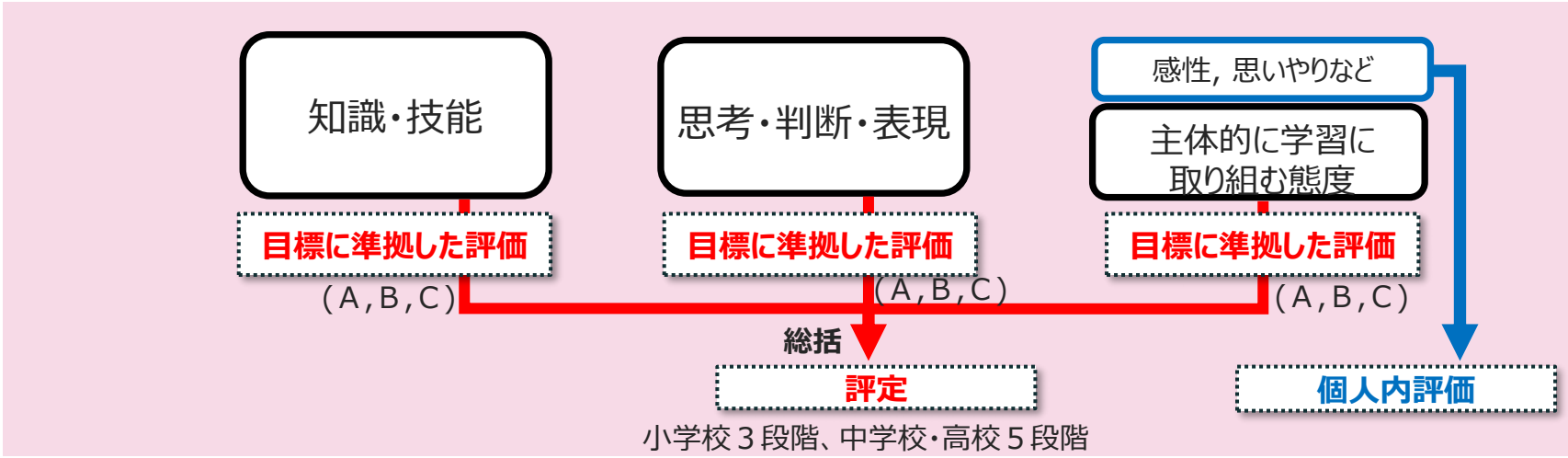
道徳科の表形式化の形式
（小学校の現行の記載をベースとしたイメージ）

	内容を端的に表す言葉	第１学年及び第２学年相当 (19)	第３学年及び第４学年相当 (20)	第５学年及び第６学年相当 (22)
A 主として自分自身に関すること	善悪の判断 自律、自由と責任	よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと。	正しいと判断したことは、自信をもって行うこと。	自由を大切にし、自律的に判断し、責任のある行動をすること。
	正直、誠実	うそをついたりごまかしをしたりしないで、素直に伸び伸びと生活すること。	過ちは素直に改め、正直に明るい心で生活すること。	誠実に、明るい心で生活すること。
	節度、節制	健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をすること。	自分でできることは自分でやり、安全に気を付け、よく考えて行動し、節度のある生活をすること。	安全に気を付けることや、生活習慣の大切さについて理解し、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛けること。
	個性の伸長	自分の特徴に気付くこと。	自分の特徴に気付き、長所を伸ばすこと。	自分の特徴を知って、短所を改め長所を伸ばすこと。
	希望と勇気、努力と強い意志	自分のやるべき勉強や仕事をしっかりと行うこと。	自分でやろうと決めた目標に向かって、強い意志をもち、粘り強くやり抜くこと。	より高い目標を立て、希望と勇気をもち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと。
	真理の探究			真理を大切にし、物事を探究しようとする心をもつこと。
B 主	親切、思いやり	身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。	相手のことを思いやり、進んで親切にすること。	誰に対しても思いやりの心をもち、相手の立場に立って親切にすること。
ること	よりよく生きる喜び			よりよく生きようとする人間の強さや気高さを理解し、人間として生きる喜びを感じること。

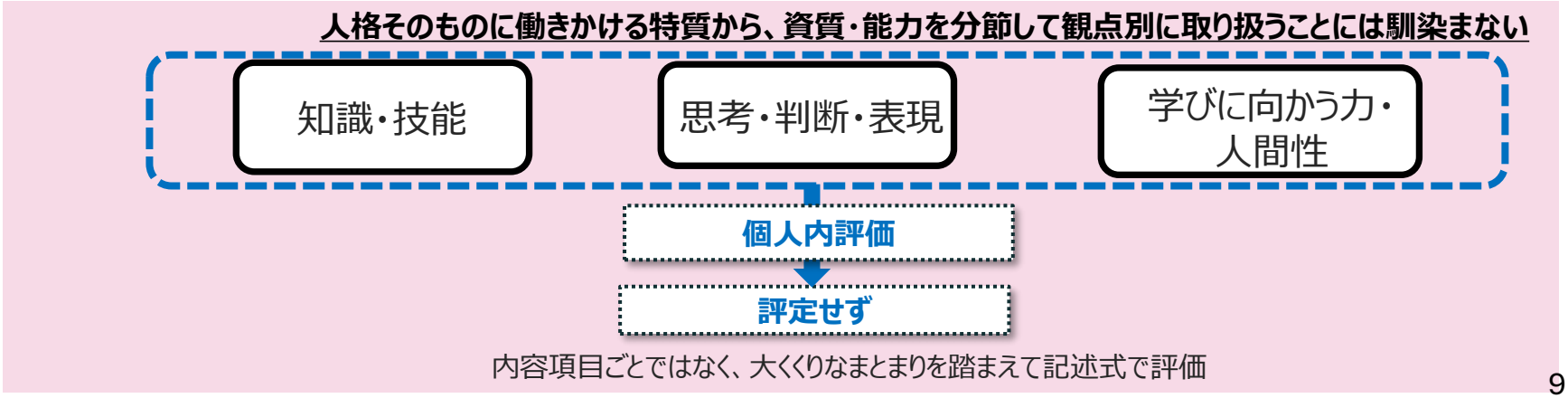
道徳科の評価について（イメージ）

- **道徳科における資質・能力の構成**については、**人格そのものに働きかける特質から、資質・能力を分節して観点別に取り扱うことには馴染まない**。
- このことを踏まえ、**道徳科の評価**では、引き続き、児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し，指導に生かすよう努めるとともに、他の児童生徒との比較による評価ではなく、**児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価**として行うことが適当。

各教科（現行）



道徳科



道徳科における「深い学び」のイメージ

● 現行学習指導要領及び解説を踏まえ、**道徳科における「深い学び」**について、以下のようにイメージを整理することが適当。

（目標）

第１章総則の第１の２の⑵に示す道徳教育の目標に基づき，よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため，**道徳的諸価値についての理解を基に，自己を見つめ，物事を多面的・多角的に考え，自己の生き方についての考えを深める**学習を通して，**道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度**を育てる。

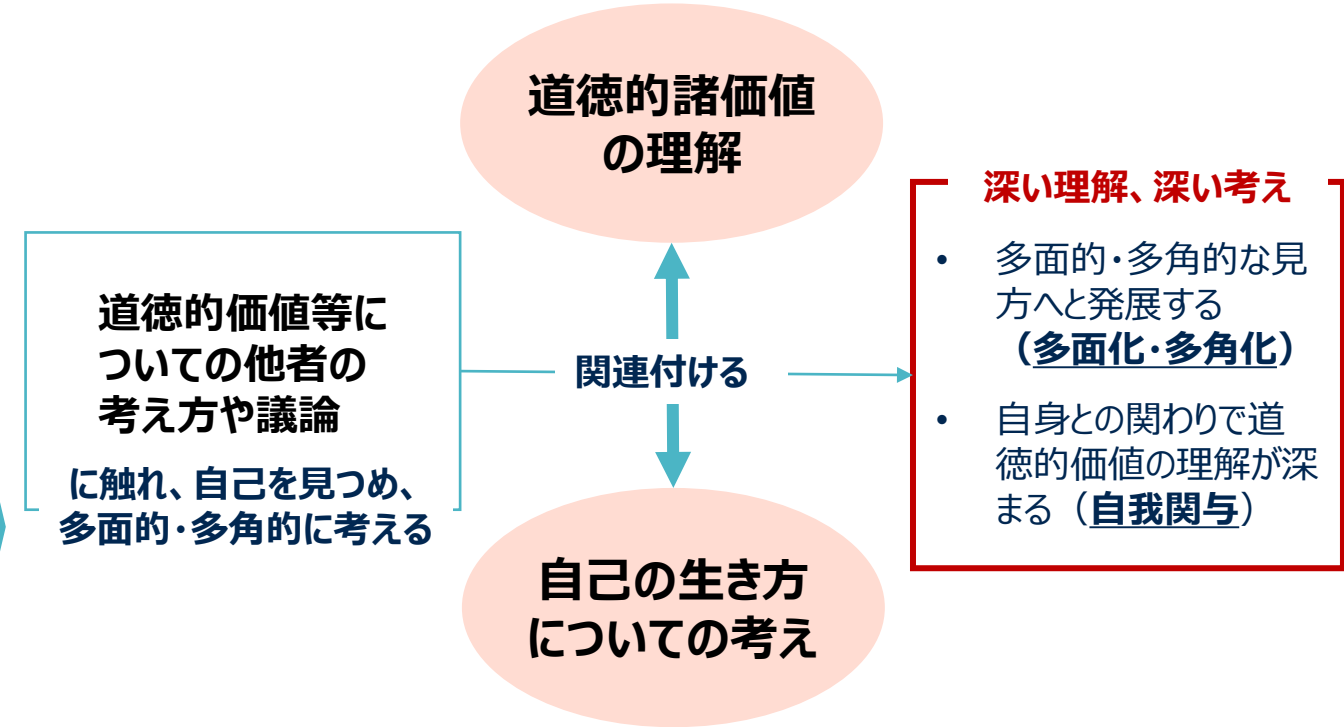
出典：小学校学習指導要領P165

（「深い学び」の評価に関わる解説の記載）

評価に当たっては，特に，学習活動において児童が道徳的価値やそれらに関わる諸事象について他者の考え方や議論に触れ，自律的に思考する中で，**一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか**，**道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか**といった点を重視することが重要である。このことは道徳科の目標に明記された学習活動に着目して評価を行うということである。道徳科では，児童が「自己を見つめ」「多面的・多角的に」考える学習活動において，**「道徳的諸価値についての理解」と「自己の生き方についての考え」を，相互に関連付けることによって，深い理解，深い考えとなっていく。**

出典：小学校解説P112

イメージとして整理



（望ましくない指導例）

- 単なる生活経験の話合い
- 読み物教材の登場人物の心情理解のみに終始する指導

× 自我関与

- 望ましいと分かっていることを言わせたり書かせたりする指導

× 多面化・多角化

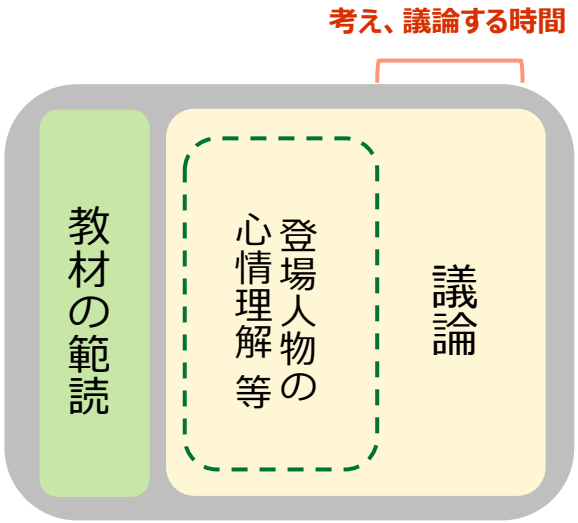
出典：H28答申

「考え、議論する道徳」の実装に向けた具体的な方策について（イメージ）

- **１授業について１つの読み物教材を扱うことが多い道徳科の授業**について、**心情理解や登場人物の整理で時間がかかってしまう**、教材の解釈を中心とした展開になってしまい**多面的・多角的に自己の生き方についての考えを深めるところまで辿り着かない**、といった課題が指摘されている。
- こうした中、**現行学習指導要領でも「一つの内容項目を複数の時間で扱う指導を取り入れる」**とされていることも踏まえ、発達の段階を踏まえつつ、**１教材を複数コマで取り扱うことで、「じっくりと深く学ぶ」道徳科の学び**を一層推進していくべきである。

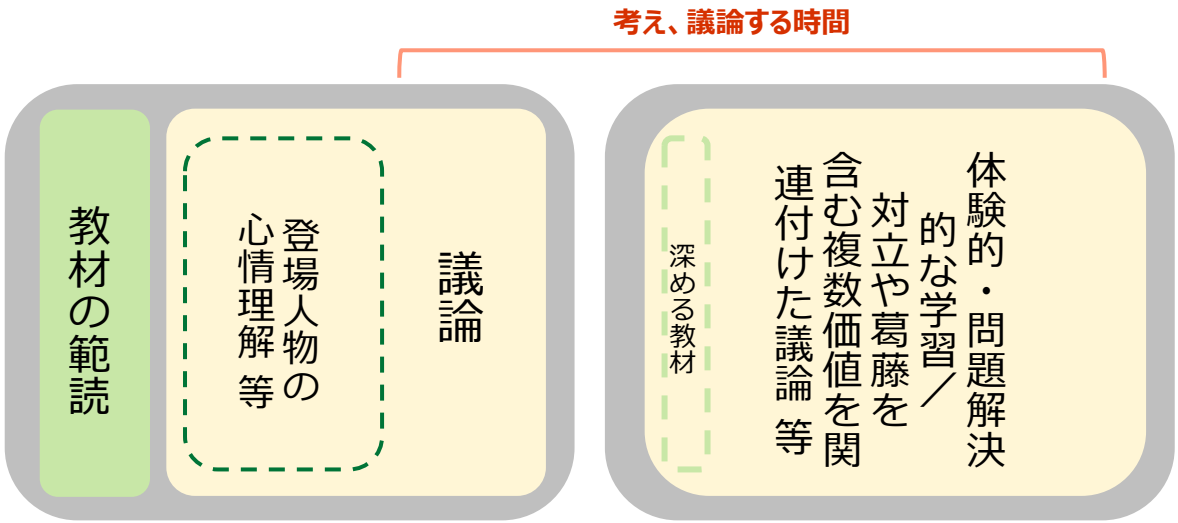
（１教材を１コマで取り扱う場合）

- 時間が足りず深まらない
- 内容項目の関連や対立の可能性が十分に扱えず、多面的・多角的になりづらい
- 体験的・問題解決的な学習にも限界



（１教材を複数コマで取り扱う場合）

- 複数時間を前提とした授業設計の導入により、議論を深めたり、体験的・問題解決的な学習を充実したりすることで、考えの深まりにつなげる
- 同一の題材を考えるにあたって複数の道徳的価値を関連付けることにより、多面的・多角的に考えることを促す



（※） 上記は指導の「型」を示すものではなく、道徳科における具体的な学習の過程は多様であることに留意
（※） 複数コマについては、連続した２コマを想定しているのではなく、翌週の取扱いを念頭
（※） ２コマ目について、読み物教材ではない、「深める教材」を用いることも想定

１教材を複数コマで取り扱う際の内容項目の取扱い

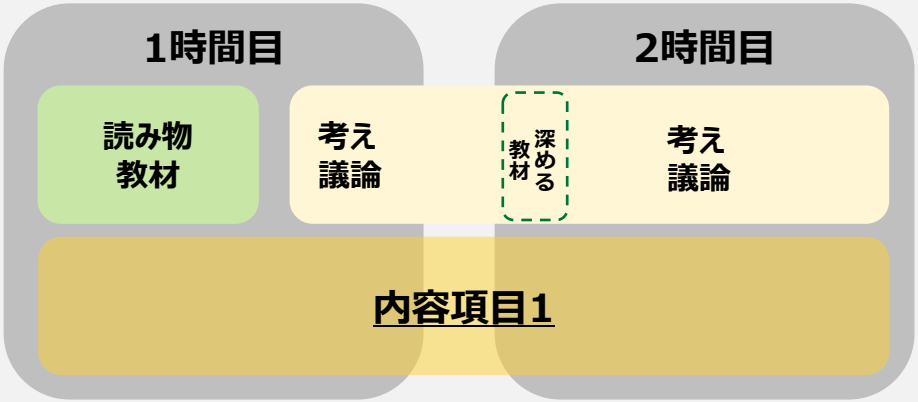
● １教材を複数時間で取り扱う際の内容項目の取扱いについては、**同一の内容項目について取扱いう場合**（パターン１）**に加え**、**複数の内容項目について取り扱う場合**（パターン２）があり得ることを示し、**両方がバランスよく含まれた教材になるようにすべき**。

※ 教科書や教材の在り方については、第2部第2章道徳4.(4)参照

パターン１（1読み物教材・１内容項目・複数コマ）

（実践イメージ）

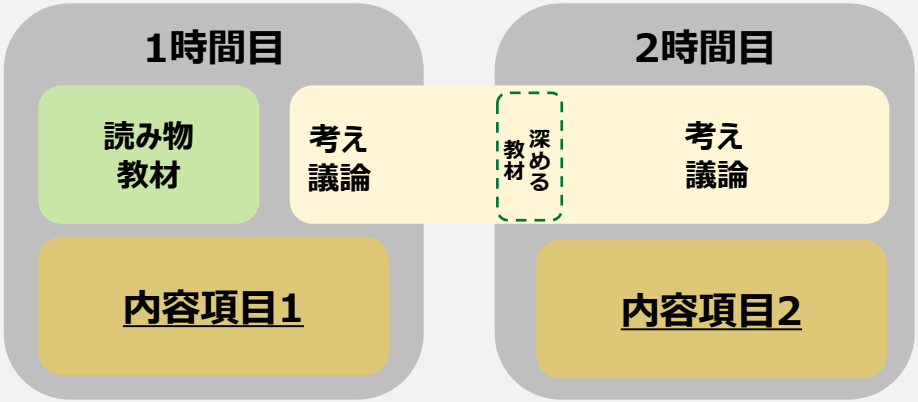
- 1時間目に読み物教材を読み、考え、議論する
- 2時間目に1時間目の題材に関連した問題解決的な学習や体験的な学習を実施したり、更に議論を深めたりして、自己との関わりで考えを深める



パターン２（１読み物教材・複数内容項目・複数コマ）

（実践イメージ）

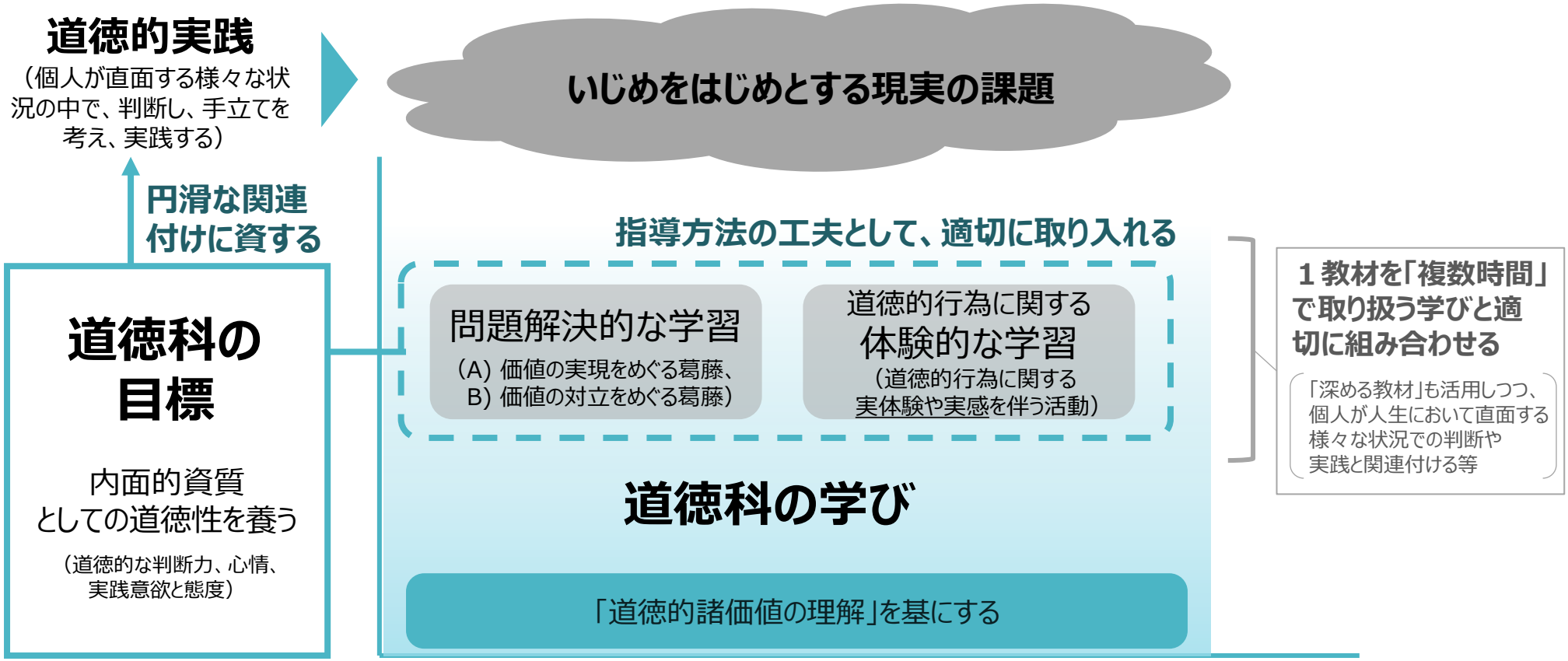
- 1時間目に読み物教材を読み、考え、議論する
- 2時間目に、同一の教材の内容と関連して異なる内容項目を取扱いう中で、多面的・多角的に考えを深める



※「必ずしも内容項目を一つずつ主題として設定しなければならないということではない」（解説）とされている中、同一時間に複数内容項目を取扱いう学びの在り方については、第2部第2章道徳4.(2)③参照

「A 問題解決的な学習」「B 道徳的行為に関する体験的な学習」の位置付けや「複数時間」との関係について（イメージ）

● **<u>１教材を「複数時間」で取り扱う際に生じる余白を「問題解決的な学習」「道徳的行為に関する体験的な学習」等と適切に組み合わせ、「深める教材」も活用しながら創意工夫</u>**することで、個人が**<u>人生において直面する様々な状況での判断や実践と関連付け、道徳的な課題を自分自身の問題として捉え、向き合う「考え、議論する道徳」の実装につなげていく</u>**べき。



（※）こうした取組を、例えば道徳科の学びを学級活動のルール形成に活かすこと等も考えられる

（※）「問題解決的な学習」「道徳的行為に関する体験的な学習」は指導方法の工夫例（多様な選択肢の１つ）を示したものであるが、「深い学び」と関連した要素として「自我関与」や「多面化・多角化」は、道徳科におけるより高次の重要性を有することに留意

（※）従前どおり、単時間での実践も考えられる

「A 問題解決的な学習」「B 道徳的行為に関する体験的な学習」の考え方について

- **「A 問題解決的な学習」「B 道徳的行為に関する体験的な学習」のイメージが湧きにくいとの指摘や、これらの活動を行うこと自体が目的化している事例が散見される**との指摘がある中、教科化の際の議論や学校現場の取組を踏まえ、**参考として趣旨や具体例を示しつつ、これらによらないものも含め、多様な実践を推奨**することを明確にすべき。

（※） 実践においては、例えばB 体験的な学習を交えつつA 問題解決的な学習を行うなど、ABの組合せも含めた多様な実践があり得る
（※） あくまでも指導方法の工夫例であり、個人差を含む発達の段階に応じることが必要であることはもちろん、手段を導入すること・活動すること自体が目的化することなく、道徳科における「深い学び」を通じて内面的資質としての道徳性を養うことにつなげられるかが重要であることに留意

質を高める指導方法の工夫例（※1）	A 問題解決的な学習	B 道徳的行為に関する体験的な学習
共通の背景	登場人物の心情理解や、わかりきったことを子供に言わせたり書かせたりすることに留まるなど、**道徳科の学びが実生活における道徳的実践につながらない**こと	
趣旨	**具体的な道徳的問題に対し、解決のために取り得る行動を考える活動**を通じて、自己の考えと道徳的実践との関連付けや深い学びを促し、道徳性の諸様相（※2）を育てること	**道徳的行為に関する実体験や実感を伴う活動を**通じて、自己の考えと道徳的実践との関連付けや深い学びを促し、道徳性の諸様相を育てること（※3）
関係する要素	・問題：道徳的諸価値に照らして**問題がある状況**（価値の実現をめぐる葛藤や価値の対立をめぐる葛藤等） ・解決：問題状況に対する**自分なりの答え**（納得解）**を見いだすこと**	・道徳的行為：道徳的諸価値の**実現に関わる行為** ・体験：**実体験や実感を伴う活動**
具体例	・教材の中の道徳的問題を見いだす活動 ・道徳的問題について考え、議論して自分なりの答えを見いだす活動	・役割演技（登場人物の言動について即興的に演技すること等） ・動作化（身体を使った場面の追体験等） ・内容項目に関わる活動（礼儀、親切に関わる体験等） ・教材と関わる実物に触れたり、当事者に会ったりする活動 ・感情の認識や調整に関わる活動

（※1） H28.7「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について（報告）」では、道徳科における質の高い多様な指導方法について、「自我関与が中心の学習」が示されているが、「自我関与」は道徳科の「深い学び」と密接に結びつく要素として、 A、Bとは別のものとして整理している

（※2） 道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度

（※3） 「体験的」とされていることを踏まえ、あくまでも道徳科の目標を踏まえ道徳性の諸様相を育てることが必要であり、体験そのものが目的化しないよう留意

「A 問題解決的な学習」における「問題」の考え方について

- **「問題解決的な学習」における「問題」について**、道徳的諸価値についての理解を前提として、「考え、議論する道徳」の実装の視点で例を焦点化しより分かり易く整理する観点から、**「A) 価値の実現をめぐる葛藤」「B) 価値の対立をめぐる葛藤」の２項目で解説において例示**することが適当である。

H28.7 報告

「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について （報告）

道徳的な問題には、例えば、

① **道徳的諸価値が実現されていないこと**に起因する問題

② 道徳的諸価値について**理解が不十分又は誤解**していることから生じる問題

③ 道徳的諸価値のことは理解しているが、それを**実現しようとする自分とそうできない自分との葛藤**から生じる問題

④ 複数の**道徳的価値の間の対立**から生じる問題

などがあり、これらの問題構造を踏まえた場面設定がなされることが求められる。

【課題】
①が幅広いものを指しているなど、①～④の関係性が分かりにくく、授業との関連付けが容易ではない

「考え、議論する道徳」の実装の視点で例を焦点化

改善案
（問題解決的な学習における「問題」の例）（※1,2）

	A) 価値の実現をめぐる葛藤	B) 価値の対立をめぐる葛藤
状況	何がよいか/望ましいかは分かっているが、どう向き合い、行動するかが難しい **（実践が難しい）**	一方の立場や考え方をとると他方が損なわれる **（判断が難しい）**
具体例	自分で判断すべきだが周囲に流されてしまう（自律）、 本当のことを言うべきだが、ごまかしてしまう（正直、誠実）、 役割を果たすべきだが人任せにしてしまう（公共の精神）、 思いやりを誰に、どのように形にするかで迷う（親切、思いやり） 等	「相互理解、寛容」と「規則の尊重」、 「友情、信頼」と「公正、公平、社会正義」、 「親切、思いやり」と「正直、誠実」、 「自由と責任」と「遵法精神、公徳心」 等 （※3）

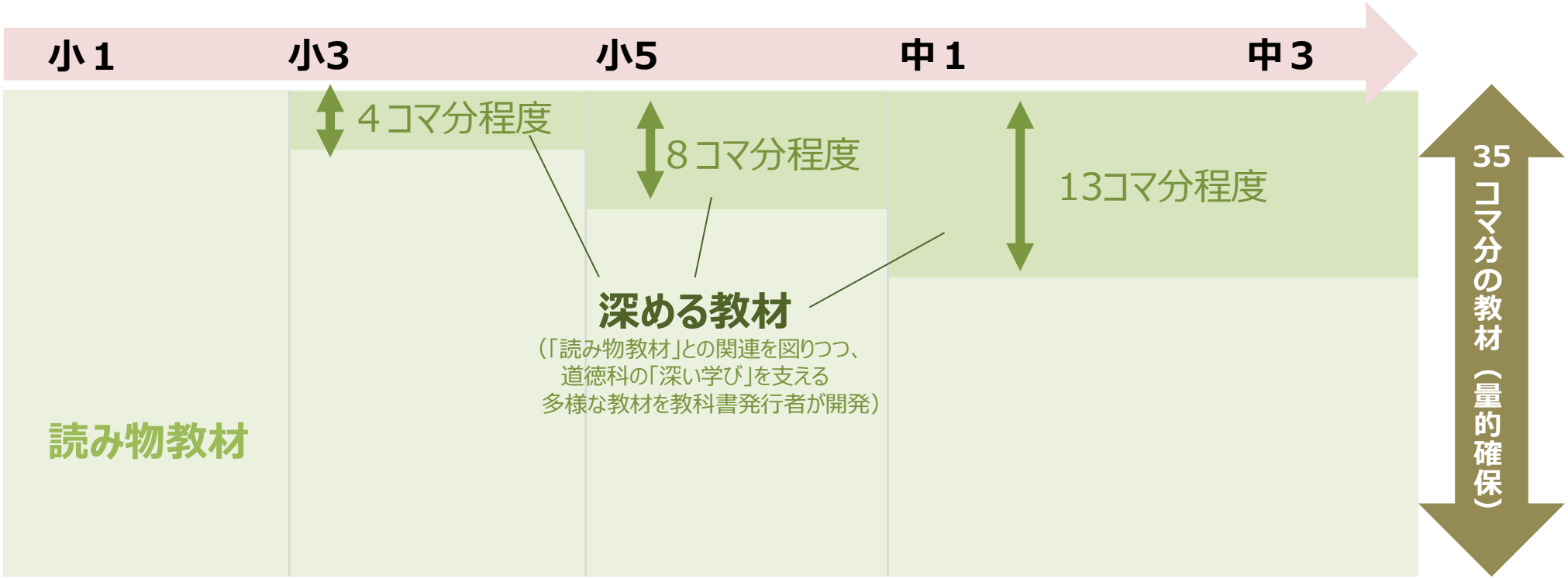
（※1）実際の問題場面においては、A)、B)は相互に関連し、截然と切り分けることが難しい場合もあり得る
（※2）A)、B)は道徳的諸価値についての一定の理解を前提としていることも踏まえ、「問題解決的な学習」を指導の工夫として取り入れるにあたっては、発達の段階を含めた児童生徒の実態を踏まえる必要があることに留意。
（※3）B)価値の対立に関し、３つの道徳的価値が対立することもあり得る

道徳科における「深い学び」の実現に向けた教科用図書の在り方について（イメージ）

- **複数時間で取り扱う「深める教材」の具体的な数**、すなわち、**精選を図るいわゆる「読み物教材」の数**については、
  - ✓ **特に低学年では、複数時間の運用には慎重であるべき**（※）との意見も出されるなど、教科用図書の在り方については、**発達の段階に応じて、段階的に**考えていくことが必要と考えられること
  - ✓ **各学年で最大22の内容項目**を取り扱う必要があること
  - ✓ 今次改訂の中心的な論点として、**一定程度具体的な数字であることが望まれる**こと

等を踏まえ、発達の段階に応じ、以下の分量を目安とすることが適当である。

（※）低学年において、複数週にわたって道徳的課題に関わる議論を保持し、深めることは容易ではない 等



（※）あくまでも教科書に掲載する教材の在り方についてのイメージであって現場の実践そのものを制限するものではなく、「深い学び」の具体化に向け、各学校の重点目標等も踏まえつつ、実態に応じた多様な実践の創意工夫が期待されることに留意（例えば「深める教材」についても「使わなければならない」ものではなく、例えば自治体が作成する地域教材等を活用するといった工夫も考えられる）

（※）現行の教科書に掲載されている教材の多くが「読み物」の形態を取っていることから「いわゆる『読み物教材』」との用語を使用しているが、現行でも読み物に限らない教材（例：漫画形式）があるなど、「読み物」のみを厳密に示しているものではないことに留意

チームで行う道徳授業のイメージについて

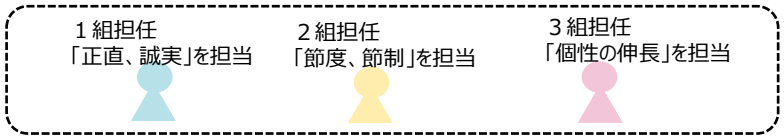
- **「考え、議論する道徳」の実装に向け**、**教師の指導力の向上が課題**となっている中、児童生徒の発達の段階や担任の役割、教師間の連携体制など、**導入する場合のデメリットへの対応や留意点**を明らかにした上で、**学校の実態に応じ、教師が交代で学年、学級を回って授業を行う方策の導入が可能である旨を明確化**すべき。

(※) チームで行う道徳授業を導入する場合にも、教師の負担軽減のみが目的化することなく、あくまでも「考え、議論する道徳」のよりよい実装のために行われる必要があることに留意
(※)以下は、小・中学校いずれも学年３学級の場合の標準的な教員配置数を想定しているが、例えば単学級校などにおいて、学年を横断して分担することなども考えられる

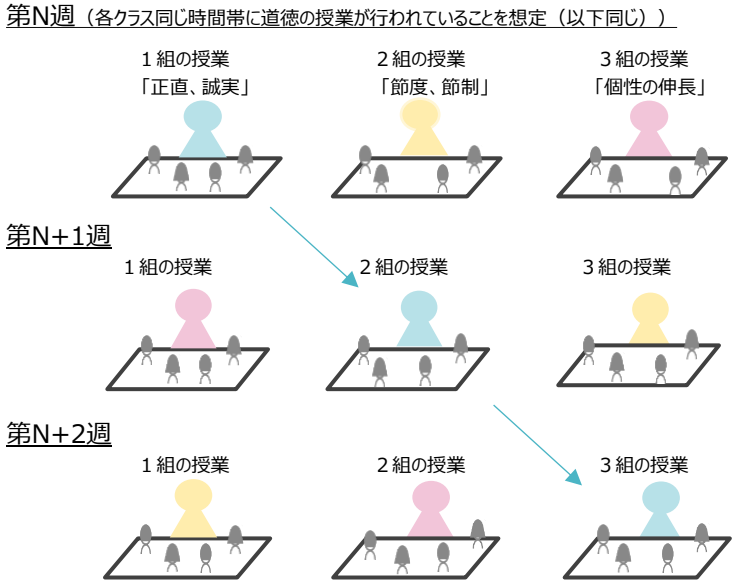
(※) 実態や目的に応じて様々な実施方法が考えられるため、以下はあくまでもイメージであることに留意

【小学校のイメージ】

- **各組の担任が全ての内容項目を年間通じて授業するのではなく**、内容項目の分担を決め、**週ごとに授業交換で実施**。



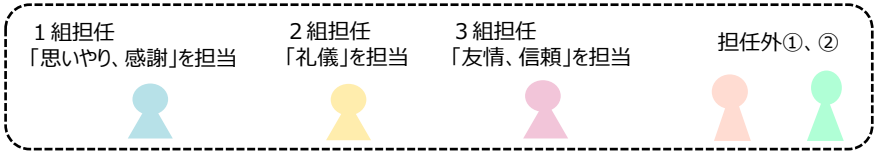
具体の指導イメージ



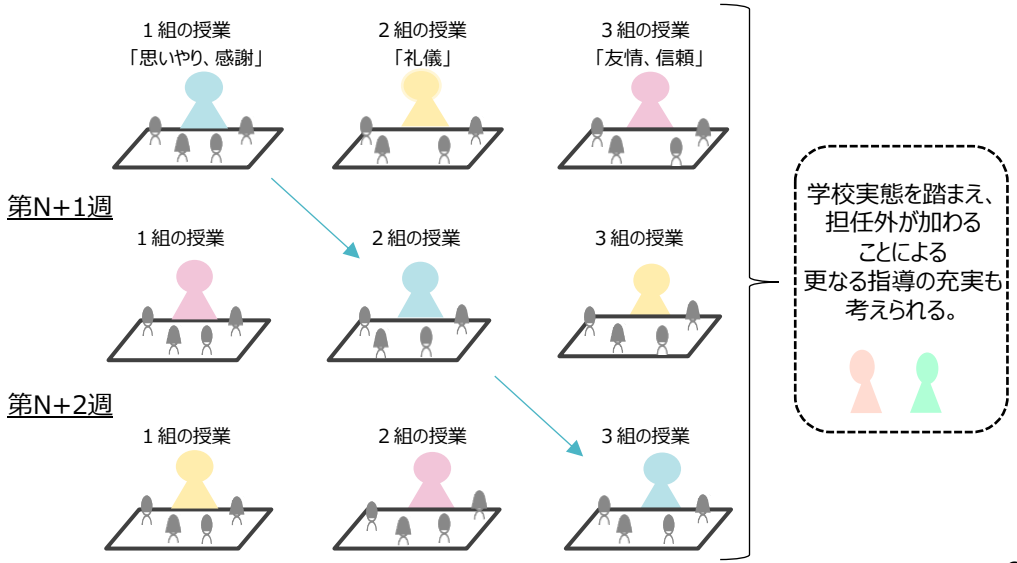
(※) 教科担任等の教員を含めることによる指導の充実も考えられる

【中学校のイメージ】

- 週ごとに授業交換で実施しつつ、**例えば担任外として配置される教員が加わる**ことにより、**学年の教員全員で分担**したり、**T2を設けて若手がベテラン教員から学ぶ**ような運用も可能。



具体の指導イメージ



道徳科におけるデジタル学習基盤の活用について

- 道徳科における「深い学び」のイメージとして、多面的・多角的な見方へと発展すること（多面化・多角化）、自身との関わりで道徳的価値の理解が深まること（自我関与）の要素について議論してきたことや、リーディングDXスクールをはじめとする様々な実践の蓄積を踏まえ、**道徳科において効果的と考えられるデジタル学習基盤の活用イメージとその際の留意事項**について、以下のとおり解説等で示すことが適当である。

（※）あくまでも大まかなイメージであり、深い学びの実装に向け、子供の実態に応じた様々な創意工夫が制限されるものではないことに留意

活用イメージ	具体例	留意事項
A 意見の可視化	• アンケート機能や付箋機能等を用い、全員の意見を可視化し共有することで、多様な子供の考えを拾い上げ、自我関与や多面化・多角化を促進する 等	• 可視化された意見を参照することが、議論の深まりや考えの多面化・多角化につながっているか • 共有にあたり必要な配慮（※）が行われているか 等 （※）いじめや人権に関することや、共有を前提とすることで、子供が本心を表出しにくくなる・求められる正解探しにつながり易くなること等
B 振り返り等の蓄積	• デジタルワークシート等を活用し、導入・展開・振り返り時の考えの蓄積や、授業の導入時と終末時での考えの変容を比較すること等を通じて、自己の考えの変化を実感しやすくする 等	• 入力作業そのものが目的化せず、考えを深める時間を十分に確保できているか • 入力した内容を踏まえ、学級の実態を把握しているか 等
C その他（AIの活用を含む）	• AIに異なる立場の意見を示させること等により、考えの多面化・多角化を促進する • 体験的な学習の一環として、オンラインで当事者の話を聞く • 動画を含むデジタル教材を活用することで文字だけでは得られない情報と向き合ったり、授業での学びを授業後に任意で深めたりする • 帰宅後に意見を書き込む 等	• AIの回答を正解として扱うのではなく、道徳的諸価値との関わりで批判的に吟味できているか • 自分で考えた後で補助的にAIを活用するなど、迷いや葛藤を含め子供自身が考える機会が確保できているか 等

デジタルの活用に関わる内容項目固有の留意点について

- 道徳科の内容項目は、A～Dの４つの視点で整理されているが、自己の内面を見つめ、考え、議論するとの道徳科の特質から、**内容項目によって、デジタルの活用について特に留意が必要な場合も考えられる。このため、「意見の可視化」をはじめとするデジタルの活用にあたって留意が必要な内容項目の例や具体的な留意事項**について、以下のとおり解説等で示すことが適当である。

指導要領に定める視点	留意すべき内容項目の例	留意事項
A 主として自分自身に関すること	善悪の判断 正直、誠実 希望と勇気、努力（克己）と強い意志　　等	• 考えの多面化・多角化を促す上で有効である一方、「言いたくないことまで言わされる」といった自己の内面の開示への圧力や、共有を前提とした建前の記述につながり易いこと等に配慮が必要
B 主として人との関わりに関すること	友情、信頼 相互理解、寛容　等	• いじめられた経験を思い出したり、身近な友達の氏名を出しながら振り返りを行ったりする可能性があること等に配慮が必要 ※C　公正、公平、社会正義についても同様
C 主として集団や社会との関わりに関すること	家族愛、家庭生活の充実 国際理解、国際親善　等	• 多様な家族構成や家庭状況があることを踏まえた配慮が必要 • 宗教が社会で果たしている役割や宗教に関する寛容の態度などに関しては、教育基本法第15条（宗教教育）の規定を踏まえた配慮が必要
D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること	生命の尊さ　等	• 家族の病気や自分の健康に関わる問題等から、思い出したくなかったり、不安を感じたりする可能性に配慮が必要

（※）共有に適さない情報等の留意点や、無記名で共有したり、共有する記述を分けて運用するような工夫例等についても、併せて解説において示すことを検討

道徳科における多様な実践事例の共有について（イメージ）

- **「考え、議論する道徳」の実装にあたっては、様々な実践の姿**が考えられることから、**国が実践を特定の枠に制限するのではなく、**今後開発が期待される多様な「深める教材」とも相まって、**現場の実態に応じた教師の創意工夫により、道徳科の「深い学び」に向けた多様な授業の実践を豊かに実装していくことができるよう、学校現場の取組の参考となる多種多様な実践事例を、「道徳教育アーカイブ」の充実等を通じて、積極的に共有していくべき。**

＜多様な授業実践のイメージ＞

コマ数の取扱い	×	指導方法の工夫例	×	教材の活用	×	内容項目の取扱い	×	デジタル学習基盤の効果的な活用	×…
									(※1)
1コマ		問題解決的な学習		「読み物教材」		1内容項目		意見の可視化	
2コマ		(1)価値の実現をめぐる葛藤（価値をめぐる自己の心の中での葛藤） (2)価値の対立をめぐる葛藤（複数の価値間の葛藤）		多様な「深める教材」		2内容項目		振り返り等の蓄積	
3コマ		道徳的行為に関する体験的な学習							
		(1)役割演技 (2)動作化 (3)内容項目に関わる活動 (4)教材と関わる実物に触れたり、当事者に会ったりする活動 (5)感情の認識や調整に関わる要素を持つ活動　等		自治体が作成する教材		3内容項目		その他（AIの活用等）	
特別活動や各教科等との連携 (※2)									

(※1) 例えば、「チームで行う道徳授業」とも相まって、教師の専門性や強みを生かして道徳科の授業の実践を行うことも考えられる

(※2) 道徳科では、道徳科の目標に基づき35単位時間の授業が行われることが前提